
遊戯王パラレルクロス

クレセント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王パラレルクロス

【Nコード】

N1340S

【作者名】

クレセント

【あらすじ】

朝起きたらどこかの試験会場だった。どうやらそこは、遊戯王の世界らしいけど…？そんな少年、蓮とその友人たちが繰り広げる新しい遊戯王の物語。俺たちは本当に、この世界への介入者なんだよね…？

2011/6/19 リメイクしました！。遊戯王EXAから飛んでください。

2011/8/11 再公開

！注意事項！

WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！WARNING！

この作品は遊戯王OCGおよびアニメシリーズからの二次創作です。それにあたって、以下の注意事項をしっかりと読みください。

1：今作品はいわゆる転生とかトリップとかそこらへんのやつです。が、初代、GX、5D's、ZEXALとはほとんど関わりません。

あくまで「あ、こいつってあれに似てるなー」ぐらいのもです。

過度な期待はしないでください。おねがいします。

2：今作品は、クレセント（作者）が中二病のテンションで書き殴り始めたものです。

そのため、作者の技量不足により以下のような致命傷が発生すると思われます。

α：誤字、脱字等の致命的なミス。

β：ルールミス、ライフ計算ミス、手札枚数ミス等の致命的なミス。

γ：致命的なまでに乏しい風景、心情、およびデュエルの描写。

その他致命的な致命傷がございましたら、どうかご連絡ください。

3：今作品では、オリジナルカードが登場します。

壊れカードにはならないようにしますが、今後の展開によっては

禁止カードレベルのカードが出るかもしれません。苦手な方はご注意ください。

4：オリ力投稿は基本的に大歓迎です。むしろお願いします。ですが、他の版權作品からのカードに関しては、誠に勝手ながら、

こちらの方で勝手にカード名を変更する場合があります。他作品のカードを出すことで不快な思いをする人もいますので。

5：作品同士のコラボレーションについても大歓迎です。その際はご一報ください。

また、こちらの方からコラボレーションの依頼をすることもあるかもしれません。

その際は、どうかよろしくお願いします。

さて、最後になりますが、項目2にある通り、この作者は中二病のテンションでこれを書いています。そのため、

最悪の場合、作者が失踪します。

そのため、かなり序盤で更新しなくなる場合も作者は否定できません。

その点を踏まえ、それでも読んでくださるといふ勇者様は、どうぞお進みください。

準備はよろしいですか？

それでは、遊戯王パラレルクロス、開演でございます。

！注意事項！（後書き）

はい、改めてどうもはじめまして。

今年から受験生のクレセントです。

今回は投稿の仕方がよくわかっていないままの投稿です。

とか迷っている間に4月2日になってしまいました。くそっ。

とりあえず、今回はテストも兼ねての投稿です。

それでは、もし第一話が投稿できたらお会いしましょう。

クレセントでした。

第一話「はじまり」

えー、どうも、空見です。ん、はじめましてかな？まあいいや。とりあえず今どんな状況なのかを三行で説明します。

- ・夏休みの宿題を終わらせて寝落ちしているうちに飛ばされた。
- ・飛ばされた場所がなぜかアカデミアの筆記試験会場。
- ・そして筆記試験終了のチャイムで目を覚ました。
- ・筆記試験三教科（英数国）全部0点。
- ・次実技だつてさ↑今ここ

ごめん三行じゃ無理だった。ともかく、今俺は実技試験の会場にいます。

試験官の武藤先生（筆記と違う人）いわく、実技は筆記の結果が悪い人からだそうで。

まあそれってつまり名前すら書けなかった俺からってことだね。

俺の試験番号は172番。呼ばれるまではとりあ「172番、前に出る」はい呼ばれた！。

昔、誰かが言っていた。

この世界に運命なんてないって。

あるのは偶然と気まぐれだけなんだって。

だから、この世界は何が起こるか分からなくて。

だから、この世界はこんなにも楽しいんだって。

遊戯王パラレルクロス

第一話「はじまり」

はい、というわけでこの世界での初デュエルですよ。

お相手はさつき説明してた試験官の武藤さん。

…名字からして嫌な予感がするね。

あ、デュエルディスクはアカデミアのを貸してもらえました。

いちおうGX仕様です。多分。

「さて、デュエル…と言いたいところだが」

「はい？」

「お前が試験用紙に名前を書かなかったから俺もなんて呼べばいいかわからない」

「…すいませんでした」

ほんとにごめんなさい。

「筆記試験で名前すら書かなかったやつはお前が初めてらしいからな」

…言えない。試験中ずっと寝てたなんて言えない。

「まあとりあえず、172番、名前は」

「ソラミ・レンです。空を見るって書いて空見、下はハス…かな？
それで蓮です」

「わかった。審査の人ー」

「……はい、登録完了しました」

「よし。じゃあ始めるか」

「はい、よろしく願います」

ここでとりあえずルールの確認。

- ・ライフポイントは互いに8000（いつもの2倍とか言ってた）。
- ・先行は（問答無用で）試験官。
- ・実技の点数は300点満点。配点は以下の通り。
- ・デュエルに勝利 100点
- ・先に相手のライフを4000以下まで削る 100点
- ・その他細かいところ 合計100点

「デュエル！」

空見	LP	8000
武藤	LP	8000

turn.1

「俺の先行だ。ドロー！」

さて、先生のデッキは…？

「俺は《魔導戦士 ブレイカー》を召喚！」

魔導戦士 ブレイカー

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻1600 / 守1000

このカードが召喚に成功した時、

このカードに魔力カウンターを1つ置く（最大1つまで）。

このカードに乗っている魔力カウンター1つにつき、

このカードの攻撃力は300ポイントアップする。

また、このカードに乗っている魔力カウンターを1つ取り除く事で、

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を破壊する。

魔導戦士 ブレイカー ATK / 1600

…ん？

「《魔導戦士 ブレイカー》の効果を発動！ブレイカーが召喚に成功した時、こいつに魔力カウンターが1つ乗る！そしてブレイカーの攻撃力は自身に乗っている魔力カウンター1つにつき300ポイントアップする！」

ブレイカー ATK / 1600 ↓ 1900

「さらにカードを一枚セットしターンエンド！」
まさかこの人、本当に武藤遊戯…？

turn : 2

「俺のターン。ドロー」

まあ、無駄な考察はこれぐらいにして。
結局いつも通りにやるけどね。

…これはいい手札。いけるかな？

「まずは《ハリケーン》を発動」

ハリケーン

通常魔法（制限カード）

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

突然目の前に竜巻が発生し、気がつけば相手の伏せカードが消えていた。

うーん、ソリッドヴィジョンってすごいね。すごい迫力だよ。

「さらに《アームズ・ホール》を発動」

アームズ・ホール

通常魔法

自分のデッキの一番上のカード1枚を墓地へ送って発動する。
自分のデッキ・墓地から装備魔法カード1枚を手札に加える。
このカードを発動するターン、自分は通常召喚する事はできない。

「デッキトップは...。《ネクロ・ガードナー》が落ちました。
効果でデッキから《D・D・R》を手札に加えます」

ネクロ・ガードナー

効果モンスター（制限カード）

星3 / 闇属性 / 戦士族 / 攻 600 / 守 1300

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。
相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

D・D・R

装備魔法

手札を1枚捨てる。ゲームから除外されている自分のモンスター
1体を選択して

攻撃表示でフィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊
する。

「さらに《未来融合・フューチャー・フュージョン》を発動。効果
で《F・G・D》を選択し、《レッドアイズ・ダークネスメタルド
ラゴン》2体、《ダーク・ホルス・ドラゴン》2体、《真紅眼の飛
竜》1体を墓地へ送ります」

未来融合・フューチャー・フュージョン

永續魔法（制限カード）

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体をお互いに確認し、

決められた融合素材モンスターを自分のデッキから墓地へ送る。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時に、確認した融合モンスター1体を

融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

F・G・D

融合・効果モンスター

星12/闇属性/ドラゴン族/攻5000/守5000

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

ドラゴン族モンスター5体を融合素材として融合召喚する。

このカードは地・水・炎・風・闇属性モンスターとの戦闘によっては破壊されない。

（ダメージ計算は適用する）

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン

効果モンスター

星10/闇属性/ドラゴン族/攻2800/守2400

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在するドラゴン族モンスター1体を

ゲームから除外し、手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札または自分の墓地から

「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン」以外のドラゴン族

モンスター1体を

自分フィールド上に特殊召喚することができる。

ダーク・ホルス・ドラゴン

効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守1800

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

相手のメインフェイズ時に魔法カードが発動された場合、

自分の墓地からレベル4の闇属性モンスター1体を特殊召喚することができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

真紅眼の飛竜

効果モンスター

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1800 / 守1600

通常召喚を行っていないターンのエンドフェイズ時に、

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、

自分の墓地に存在する「レッドアイズ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

「これにより墓地の闇属性が5体になりました。手札から《ダーク・クリエーター》を特殊召喚します」

ダーク・クリエーター

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 雷族 / 攻2300 / 守3000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に闇属性モンスターが5体以上存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在していない場合に特殊召喚する事ができる。

自分の墓地の閻属性モンスター1体をゲームから除外する事で、自分の墓地の閻属性モンスター1体を特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

ダーク・クリエーター DEF/3000

なんか橙色の巨人が出てきた。

「ダーク・クリエーターの効果発動。墓地のレッドアイズ・ダークネス…長いので以下レッドアイズと呼びます。それを除外してもう一体のレッドアイズを特殊召喚します」

ダクリさんが呪文らしきものを唱え始め、唱え終わると同時にフィールドに俺のフィールドに雷が落ち、そこから漆黒に輝く龍、レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンが姿を現した。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン ATK/2800

…でかつ。すごくでかつ。

「さらにレッドアイズ効果。1ターンに一度、手札が墓地からドラゴン族モンスター1体を特殊召喚します。墓地からダーク・ホルス・ドラゴンを特殊召喚します」

漆黒の龍の咆哮が会場に轟く。すると俺の背後からそれに応えるように別の咆哮が。振り返ると、そこには閻に堕ちた黒炎竜、ダーク・ホルス・ドラゴンが。

ダーク・ホルス・ドラゴン ATK/3000

…これ、本当にソリッドヴィジョンだね？なんか本物みたいなんだけど。

「さらに手札からD・D・Rを発動。手札の《神の警告》を捨て、さっき除外されたレッドアイズを特殊召喚します」

神の警告

カウンター罠（準制限カード）

2000ライフポイントを払って発動する。

モンスターを特殊召喚する効果を含む効果モンスターの効果・魔法・罠カードの発動、

モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

え、今神警の説明要らないよね？

「大丈夫だ、問題ない」

ちよっとだまれイー。ツク。てゆーか誰だよ今言ったの。空気読んでよ。

「さらに2体目のレッドアイズの効果で墓地にいるもう一体のダークホルスを特殊召喚します」

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン（2体目） A T K /
2800

ダーク・ホルス・ドラゴン（2体目） A T K / 3000

「バトルフェイズに入ります。1体目のレッドアイズでブレイカーを攻撃。」

…えーっと、ホーリーダーク・メガフレア！」

はい、今の間は俺が攻撃名を言わないせいで攻撃してくれなかったがために発生した約7秒間の沈黙です。何という放送事故。なんてゆーかもうごめんなさい。

とりあえず、レッドアイズの放った黒炎弾らしきものがブレイカーを焼き払った。

武藤 LP 8000 - 9000 = 7100

「さらに2体目のレッドアイズでダイレクトアタック。ホーリー
イク・メガフレア・レプ
力！」

武藤 LP 7100 - 2800 = 4300

「続けてダークホルスでダイレクトアタック。ブラック・フレアバ
ースト！」

武藤 LP 4300 - 3000 = 1300

「2体目のダークホルスでダイレ」そこまでだ！」「！？」
先生の声が会場に響き渡る。あーびっくりしたー。

…そうか、忘れてた。先生のフィールドは今、”何も無い”んだっ
け。

「この瞬間、冥府への扉は開かれた！」

まあ、さすがにこのままじゃ終わらないよな、武藤先生なら。

「俺のフィールドのカードが存在しないときにダメージを受けた時、
《冥府の使者ゴーズ》を手札から特殊召喚することができる！さら
にそのダメージが戦闘ダメージの場合、受けたダメージと同じ攻守
をもつ《冥府の使者カイエントークン》を特殊召喚する！」

冥府の使者ゴーズ

効果モンスター（制限カード）

星7 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2700 / 守2500

自分フィールド上にカードが存在しない場合、

相手がコントロールするカードによってダメージを受けた時、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、受けたダメージの種類により以下の効果を発動する。

- 戦闘ダメージの場合、自分フィールド上に「冥府の使者カイエントークン」

（天使族・光・星7・攻/守？）を1体特殊召喚する。

このトークンの攻撃力・守備力は、この時受けた戦闘ダメージと同じ数値になる。

- カードの効果によるダメージの場合、受けたダメージと同じダメージを相手ライフに与える。

「さあ、出番だぜ！ゴーズ！！カイエン！！」

『おう！』

『はい！』

冥府の使者ゴーズ DEF/2500

冥府の使者カイエントークン DEF/? ↓3000

先生の前に立ちはだかるように降臨するゴーズとカイエン。

ゴーズはともかく、3000の壁は大きい。

これをどうやって切り抜け…

……ちよつと待って？

「…ゴーズとカイエンが、しゃべった？」

side change Ren ↓ Mutou

「…ゴーズとカイエンが、しゃべった？」

『！？』

…こいつ今なんて言った？

『……嘘だろ？』

『私達の声が…聞こえたんですか…？』

俺のフィールドにいる2人も驚きを隠せないでいる。

『…おい』

『はい？』

『お前、今なんて言った？』

『いや、何って…、ゴーズとカイエンがしゃべった？』

『…そうか』

…決めた。こいつ合格だ。俺の独断だが。

『ゴーズ、カイエン』

『なんだ』

『なんですか？』

『こいつ…どうやら精霊が見えるみてえだ』

『！？』

『いや、そこまで驚くことか？』

『当然ですよ！』

『でもさ、精霊が見える奴ぐらいそこらじゅうに『いねえよ！』…』

『そうなのか？』

『そうですよ！』

『そんなに沢山いられてたまるかよ！』

『…あのー』

…わり、忘れてた。

『さて、まだお前のターンだったな』

『あ、はい。では2体目のダークホルスでゴーズに攻撃。ブラック・フレアバースト・レプカ！』

2体目のダークホルスが闇の炎を放った。

『後は頼んだぞ、カイエン！』

ゴーズは黒炎に巻かれ、そのまま消えてしまった。

助かったぜゴーズ。お前の犠牲を無駄にはしない！

「さらにカードを1枚伏せてターンエンドです」

さあ、反撃開始だ！

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「あの、え、ちょっと？嘘、まさか第一話ここで終わり？待って！まだデュエル終わってないよ！？入試試験だけでなんで前後編に分かれるの！？ていうか主人公誰だか解らないよ！？ちよつとー！？」

「次回、遊戯王パレルクロス第二話「武藤さんマジ無双」お楽しみに！」

蓮「ちよつと待って今の声誰！？てゆーか題名待って！！やっぱり俺負けるの！？」

第一話「はじまり」（後書き）

意外と速く書き終わりました。どうも、クレセントです。

…冗談です。実は書き溜めてました。

さつき、この小説のページのレイアウトが心配で見に行きました。見てみると、ちゃんと成功していました。とりあえずは一安心です。

さて、後編ですが、実はまだ決着がついていません。

オリ力ありならもう下書きは完成しているのですが、

やはりここはオリ力なしでいきたいところです。

…ここで蓮を不合格にしても面白いよね。多分蓮負けるし。

おっと、少し言い過ぎました。今のはスルーしてください。

最後に。

この小説のページを作ったことで、俺に逃げるという選択肢はなくなりました。

あとは投稿して、撃沈してを繰り返すだけ。教科書片手にがんばります。

どうか、俺がこの小説を書き続けられますように。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

蓮「あ、やっぱり俺負けるのね」

第二話「武藤さんマジ無双」

はい、どうも。空見です。ただ今、実技試験中です。今の状況は…

後攻 空見 LP 8000 手札0枚

- ・ レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン×2 (ATK/2800, ATK/2800=2800+0 (DDR))
- ・ ダーク・ホルス・ドラゴン×2 (ATK/3000, ATK/3000)
- ・ ダーク・クリエーター (DEF/3000)
- ・ 未来融合-フューチャー・フュージョン (count:0)
- ・ セット1

先攻 武藤 LP 1300 手札4枚

- ・ 冥府の使者カイエントークン (ATK/3000=0+3000)

…と、こんな感じです。それでは後編、どうぞ。

遊戯王パラレルクロス

第二話「武藤さんマジ無双」

turn:3

「俺のターン、ドロー！」

先生は勢いよくカードをドローした。先生の手札はこれで5枚。…
なんか嫌な予感。

「まったく、俺がここまで追い込まれたのはいつ以来だ？」

『私達がマスターと戦っているときは、そこまで苦戦するということはありませんでした…』

「そうすると、俺がお前らと会おう前か…」

なんか先生が昔(?)を懐かしんでいる。過去になにかあったのかな？

「空見、だったな」

「あ、はい」

「まさか、アカデミアの生徒がここまで強いとは正直思っていなかった」

「あの、俺まだ受験生ですよ？」

「訂正だ。新入生がここま」「いや、俺多分落ちますよ?」「…そんなことはどうでもいい」

「いや、ごまかさないでくださいよ。とにかく俺、デュエルに関係なく不合格確定ですよ」

「そんなことはやってみなければわから」「俺筆記試験全教科0点でしたから」…すまなかった」

なんか謝られた。

「まあ、とにかくつづけよう」

「そうですね」

そしてごまかされた。別にいいけど。

「さて、行くぜ?俺は手札から《ハリケーン》を発動!リバーサイドとD・D・R、あと未来融合を手札に戻してもらおうか!」

セットしていた神宣とD・D・Rと未来融合が手札に戻された。

神の宣告

カウンター罠（制限カード）

ライフポイントを半分払って発動する。

魔法・罠カードの発動、モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

だからこれ今説明する必要ないよねえ！

「神は言っている。ここで「うつさい！お願いだからまともにデュエルさせて！」…ここで死ぬ定めでは「お願いだれかあいつつみだして！」…死ぬ定めと」

「わざわざ言い直すなああー！」

観客席にいたイ。ノック（仮）は最後の最後まで俺の邪魔をしてくれやがりました。だからドヤ顔すんな！

「…D・D・Rが戻されたことにより、装備していたレッドアイズは破壊されるぜ」

あ、そうそう。デュエルの続きだった。

「さあて、本気で行くぜ！」

……来る！

「手札の神の宣告を捨て、《ライトニング・ボルテックス》発動！」

…え、ちょっと待って？いくら行ってくいてもさすがにこれは予想外でちょっと待っていくらなんでもこれはリアルす

ズガガガガガガガ

「うわあああああああー！」

ライトニング・ボルテックス

通常魔法

手札を1枚捨てて発動する。
相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

…迫力ありすぎ。

と、とりあえず先生の手札はあと2枚。何が来る…？

「まだ通常召喚をしてなかったな。手札から《霊滅術師 カイクウ》を召喚！」

出てきたのはなんか禍々しい感じのお坊さん。…これはまたきついモンスターを。

霊滅術師 カイクウ

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻1800 / 守 700

このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、

相手の墓地に存在するモンスターを2体まで選択してゲームから除外する事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、
相手はお互いの墓地に存在するカードをゲームから除外する事はできない。

「カイクウの効果は知っているな？」

「…はい」

ネクロ・ガードナーを封じられたか…。そして、

「そして、これがこのターン俺がドローしたカード…。俺はこいつを発動するぜ！」

何か主人公補正っぽい何かが来る。そんな感じがした。

「魔法カード発動！《死者蘇生》！帰ってこい、ゴーズ！！」
『おうよ！』

ここでそれを引いたのか…！

死者蘇生

通常魔法（制限カード）

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

冥府の使者ゴーズ ATK/2700

ゴーズが再び降臨する。

「そして俺はカイエンを攻撃表示に変更するぜ」

『またせたな、カイエン』

『おかえりなさい、お兄様』

あ、兄妹だったんだこの2人。

カイエン ATK/3000

ともかく、3体の攻撃力は合計7500。今の俺に防ぐ手段は…無い。

「さあ、バトルフェイズだ！まずはカイクウでダイレクトアタック！霊滅独鉈杵！」

カイクウがお経…かな？を唱え始めた。

「カイクウは相手に戦闘ダメージを与えると同時に相手の墓地のモンスターを2体まで除外する！悪霊退散！！」

黒い珠が放たれ、俺に直撃する。

「くっ」

空見 LP 8000 - 1800 = 6200

俺は墓地を確認した。…除外されたカードはネクロとワイバーンか。手札にD・D・Rがあることを考えてレッドアイズとダークホルスは除外しなかったんだろう。

「さらにゴーズとカイエンでダイレクトアタック！」

「行くぜ、カイエン！」

「はい！」

ゴーズの持つ剣が漆黒に、カイエンの持つ剣が白銀に輝きだす。

『我が右手に冥界の闇』

『我が左手に天界の光』

『光と闇が合わさりし時』

『混沌の力、解き放たん』

『天 冥 双 斬 波 ！ ！ 』

白と黒の刃が、俺の体を一閃した。

「うわあああああああ！」

空見 LP 6200 - (2700 + 3000) = 500

「俺はこれでターンエンドだ。さあ、お前の力、俺たちに見せてみる！」
いや、きついつて。そう思いながらも、確かにこのデュエルを楽しんでいる自分がいた。

turn・4

手札の3枚はさつき戻されたD・D・Rと未来融合、そして神の宣告。今となつては使っても勝てない3枚。

つまり結局はこのドローにすべてがかかっているわけで。

「俺のターン。ドロー」

引いたカードは…なるほど、使うしかないか。分の悪い賭けではあるけど、やらずじまいで負けるなんてそれこそデュエリストじゃない。

「俺は《闇の誘惑》を発動。デッキからカードを2枚ドローします」
「ここでそいつを引いてくるか…」

闇の誘惑

通常魔法（制限カード）

自分のデッキからカードを2枚ドローし、

その後手札の闇属性モンスター1体をゲームから除外する。

手札に闇属性モンスターがない場合、手札を全て墓地へ送る。

俺はドローしたカードを確認する。…………。

なるほどね。

「手札から、ダーク・クリエイターを除外します」

俺はまだ…、

「さらに、手札から魔法カード…発動」

…戦える！

「《死者蘇生》！！」

「冥界より舞い戻れ！レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン！
」

『グオオオオオオオオオオオオ！！』

俺の呼びかけに応えるかのように、俺のエースモンスターが天空から舞い降りた。お帰り、レッドアイズ。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン A T K / 2 8 0 0

「レッドアイズの効果発動！俺の墓地からドラゴン族モンスター、
ダーク・ホルス・ドラゴンを特殊召喚！」

ダーク・ホルス・ドラゴン A T K / 3 0 0 0

2体の龍の咆哮が轟く。

「バトルフェイズに入ります！ダークホルスでカイクウを攻撃！ブ

ラック・フレアバースト!!」

ダークホルスの放った黒炎がカイクウを焼き払った。

「ぐっ!!」

そしてその黒炎は奥にいる先生にも届いた。

武藤 LP 1300 - 1200〃 100

「空見!!」

武藤先生が俺の名前を呼んだ。

「お前とのデュエル、楽しかったぜ!!」

その顔は、自分の負けが決まったにもかかわらず、笑顔だった。

「はい、こちらこそありがとうございました!!」

そして俺もまた、笑顔だったのだろう。

「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンで冥府の使者ゴースに攻撃!!」

いつかまた、先生とデュエルがしたい。

「ホーリーダーク・メガフレア!!!!」

俺は心から、そう思った。

武藤 LP 100 - 100〃 0

空見 WIN

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「疲れたー。ほんとに危なかったー。それにしてもまさかあんなところでゴースが出てくるなんて思わなかったな。…さて、なんか全員が実技終わるまで帰れないわけだが、何しようかな」

？「次回、遊戯王パラレルクロス」なんかもう色々と「次回、ついに私が登場します！」

蓮「あ、それなんとなくダウト。それじゃ、次回をお楽しみにー」

第二話「武藤さんマジ無双」(後書き)

どうも、クレセントです。

第二話でした。なんとなく今後の展開が決められないのでここで区切り。

一応3つにまでは絞れてるんですけどね…

・合格

・不合格

・ほかのメインキャラのデュエル描写

うん、さすがに2つ目はなしですね。学園物なのに受験で落ちるとか何言ってるんだろ、俺。

それと、次回予告で登場した”例のあの人”。現時点ではまだ登場しない予定です。

まあ、相当重要なポジションにいるので、早いうちに出ると思います。

ネタが尽きたのでここら辺で。
以上、クレセントでした。

go to next chapter...

蓮「ほらね」

「...?」

第三話「なんかもつ色々と」(前書き)

今回はデュエルなしです。そして、みじかいです。

第三話「なんかもう色々と」

はい、どうも。蓮です。

：暇です。このあとがすごく暇です。

とりあえず、一度会場から出て、それから何をしようか考えようと思います。

遊戯王パラレルクロス

第三話「なんかもう色々と」

s i d e . R e n ↓ ? a ? ? r ? ? Y ? ? ? o

：すごいデュエルだった。

ついさっきまで行われていたデュエル。灰色の髪の少年は試験官とのデュエルに辛くも勝利、そして観客席に戻る階段を上がって行った。スクリーンに彼の点数が映し出される。

N o . 1 7 2 空見 蓮 2 8 4 / 3 0 0 p t s .

：284点。異常なまでの高得点。最初に呼ばれたということは、筆記試験が残念な結果なんだろう。しかし、この点数。これなら間違いない合格だ。

彼は自分の点数など気にしようともせず、観客席に戻り、そのまま

外の広場へと向かっていった。

アカデミアに合格するかは筆記と実技の評価で決まる。筆記試験が3科目100点×3上位何人かが合格。実技試験の場合は6割、180点以上なら合格となる。その後、合計点の順位別に3つのクラス、上からオベリスクスブルー（B組）、ライエロー（Y組）、オシリスレッド（R組）に配属される。基本的にデュエルアカデミアは筆記試験の問題が群を抜いて難しい。そのため、ほとんどの受験生は筆記を捨て、デュエルにすべてをかける。実際に俺、桜井遊人（Sakurai Yuto）もその一人。

それにしても、あの試験官が持っていた《冥府の使者ゴーズ》というカード。あいつを出されたら勝つのは厳しいかもしれない。あのカードは、俺が記憶している限りだと昔テレビで放送されていた『打倒！デュエルキング！』という番組の最終回で挑戦者が召喚し、番組開始から無敗だったデュエルキング「ジ・イクリプス」から勝利を奪い去ったカード。それをあの試験官が持っているということ。それはつまり唯一キングを負かしたデュエリストが、今試験官としてここにいるということ。

「次、58番・桜井遊人、前へ」

俺の名前が呼ばれた。いいぜ、やってやるよ！

side・Yuto ↓ Ren

…点数がわからない。とりあえず、相手のライフを先に4000まで削ったし、デュエルにも勝ったから200点は確定だけど。それでも受かるかどうかはわからない。試験官であの強さだったんだ。他の人たちは250点ぐらい余裕で超えてくるだろう。そうなら、俺は確実に落ちる。まあそうでなくとも筆記0点だから確実に

落ちるよね。…ま、いいや。近くを歩いて回ろう。試験は明日までかかるみたいだし、わざわざ観客席でデュエルを見続ける必要もないよね。…あ、デュエルディスク返してこなきゃ。

そんなわけで街中を一通り回ってきました。暗くなる前に戻ってこれてよかった。帰り道が分からなくなった時は焦ったよ。

とりあえず、観客席の指定された席にもどる。すると、会場の照明が落ち、中央のステージがスポットライトで明るく照らされる。

「全員そろったようですね。それでは、合格者の発表を行います。なお、発表は受験番号で発表となります」

ざわ・・・

ざわ・・・

ざわ・・・

ざわ・・・

「発表します！21番！22番！38番！42番！57番！58番！60番！・・・」

けっこう飛び飛びで番号が呼ばれていく。歓声や泣き声が聞こえてくる。

「・・・82番！86番！91番！100番！108番！121番！124番！・・・」

俺の番号が少しずつ近づいてくる。どうせ呼ばれないだろうけど、一応聞いておこう。

「・・・141番！143番！172番！182番！183番！189番！・・・」

…びつくりした。まさか143番からいきなり172番なんて。やばい。心の準備がまだできてな…ん？

…172番？

「・・・283番！284番！285番！以上100名となります
！！」

……まさか受かるとは。

とりあえず、試験の日程がすべて終了した。
この後合格者は残って、入学の手続きについて説明を受けるらしい。
とゆーわけで、俺はまだこの会場にいます。

…今日はほんとに疲れたよ。なんかもう、色々と。

見知らぬ世界、見知らぬ街、見知らぬ人々。

そして…

「そこにいるの、誰？」

見知らぬ少女が1人。俺の、背後に。

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「はいどうも、蓮です。なんか出てきました。俺の背後に。いや、街中を歩いているときもずっと憑いてきてたのはわかってたんだけどね。なんとなく空気読んでスルーしてみました。

というわけで、次回、遊戯王パラレルクロス「この中に一人」、船に酔った人がいる！なんてね。それではまた、お会いしましょう。蓮でした」

第三話「なんかもつ色々」(後書き)

デュエル無し回は初めてでした。
どうも、クレセントです。

デュエルがないどうしても文が短くなってしまいます。
前まではカードテキストで稼いでたものですから。

でも、デュエル小説で一番大事なのは、実はデュエルがない回の繋ぎ方じゃないか、そう思うんです。

え、それはただの言い訳？ですよねー。

次回もデュエルがあるかどうかは分かりません。アカデミアへ行く話になると思うので。

それでは。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第四話「この中に一人」

「そこにいるの、誰？」

灰色の髪を持つ少年は、振り向かずに後ろに立っている少女に話しかけた。

「…気づいてたんですか？」

黒い髪の少女は応えた。幻想的なまでに透き通った声で。

「そりゃあね。さすがに街中を5時間も付いて来られたら気づくって」

少年は振り返りながらそう言い、彼女の方を向いた。彼女の長い髪の色は黒く、眼の色は鮮やかな真紅。

「やっぱり、そうなんですネ」

少女の長い髪が風に揺れる。

「私のことが見えるんですね、ご主人様！」

刹那、時が止まった。そんな錯覚。春風が、2人を包み込んだ。

遊戯王パラレルクロス

第四話「この中に一人」

2人の間に流れる沈黙。

先にその沈黙を破ったのは、灰色の少年だった。

「…はい？」

side・Ren

どうも、蓮です。突然ですが今、こんな状況です。どうしてこうなった？

「いや、ご主人様って何？」

「ご主人様はご主人様ですよ。」

やめて！そんな返され方をしたら反応に困るからやめて！

「あれ、でも『私のことが見える』って、普通の人には見えないの？」

「はい、だからご主人様は特別なんですよ」

いや、そんな笑顔で言われても。

とりあえず…どゆこと？

「ごめん、解りやすく説明してもらえる？」

「あ、はい」

少

「それで、その時私のことを・・・」

女

「あれ、そうだとするとあの時・・・」

説

「あ、それは私がご主人様を・・・」

明

「なるほどね。つまり、君は・・・」

中

「はい。だから私、ずっと・・・」
。

うん、とりあえず大体把握した。要するに、

・彼女は《レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン》の精霊（高クラスの精霊は擬人化できるみたいです）。

・昔から自身を切り札として使ってくれている俺に呼ばれた時、偶然精霊界から召喚されてしまった（タイミング的には武藤先生とのデュエルで俺が死者蘇生を使ったとき）。

・精霊界とこの世界を自由に行き来できる（これは彼女も今気づいたって。多分→が原因）。

ってこと。よし、今回はちゃんと3行で説明できた。ちなみになんで俺をご主人様と呼ぶのか聞いたら、名前を聞いていないと見事なカウンターで返されました。

…まったく、めんどくさいな。

「…蓮」

「？」

「俺の名前。空見蓮。上は空を見るって書いて空見、下はハスって書いて蓮」

「ご主人様…」

「名乗ったんだから、これからはちゃんと名前で呼んでもらうよ。あと、ついでにその堅苦しい敬語もやめて」

「…うん」

「それじゃ、これからよろしくね。えーっと」

「クレナだよ。クレナ＝ヴァーミリオン」

「クレナね。それじゃあ…」

俺は、改めて少女に向き直った。そして、

「これからよろしく、クレナ！」

俺は彼女、クレナと名乗った少女に右手を差し出し、

「こちらこそよろしくね、蓮！」

クレナは満面の笑みを浮かべながら、両手で握り返してくれた。

うん、この空気の中で気付いたけど…

「あ、今日俺どこで寝よう」

俺、今日泊まる場所なかった。

アカデミアへの出発は明日だった。

「うわあ……」

きれいだ。何が？空気と星空が。

というわけで俺たちはここ、精霊界・竜の渓谷にいます。

泊まる場所がなかったので近くのコンビニで一夜を乗り切ろうかと思っただけ、なんとクレナが精霊界に連れてきてくれた。今日はここで星空を眺めながら過ごし、翌日アカデミアの船で寝ればいい。クレナはそう言ってくれた。

「ここはね、精霊界を破滅から守ったっていう伝説の龍騎士達が暮らしてる所なんだ」

「そうなんだ……」

竜の渓谷のイラストは確か夕暮れだった。イラストもきれいだったけど、まさかこの目で竜の渓谷を見られるなんて思ってもいなかった。

「あれ、クレナ？」

ふと、後ろからクレナを呼ぶ声が。

半ば条件反射で振り返ると、そこには金髪の長い髪を後ろで結んだ緑眼の女性がいた。

「あ、ユグドラ！」

あ、知り合いの方ですか。

「それでねそれでね、……」

「ほんとに！？それじゃあ、・・・」

2人はまだ話を続けている。わざわざ割って入るわけにはいかないので、俺は星空を見続けていた。

「この世界はどうだ、異世界の少年」

いつの間になっていたのだろうか、隣には橙色の髪をした青年が立っていた。外見からして、20代ぐらいだろうか。

「まあ、少なくとも俺が元いた世界よりはよっぽどいいですよ」

「そうか・・・」

正直、俺の元いた世界にいい思い出はほとんどない。友人たちこそいたものの、彼らは俺にとってまぶしすぎるくらいに明るかった。未練がないとはいいい切れないが、俺はこのまま元の世界に戻らない方がいいと思っている。

「まあ、深く言及はしないがな。それよりも・・・」

「・・・ああ、わかりました」

うん、言いたいことはなんとなくわかった。

おれは肩に掛けている鞆から、・・・よし、こっちで行こう。

俺は元の世界で使っていたデッキを手に取った。

「言い忘れたな。俺は風斗。あきもと ふうと秋本風斗だ」

「空見蓮です。空を見るって書いて空見、下はハスと書いて蓮です」
それじゃ、自己紹介も終わったところではじめますか。

「おい、デュエルしろよ」

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「というわけで、アカデミアより先に精霊界に来てしまいました。これホントに学園ものだよね？そろそろ疑いたくなってきたんだけ

ど。あ、作者が描写するの忘れてたみたいだけど、肩掛けカバンは初めから持ってきてたよ。
そんなわけで次回、遊戯王パレルクロス「人はみんな鏡っていうけど絶対嘘だよね」。
それではまた。蓮でした」

第四話「この中に一人」(後書き)

はいどうも、クレセントです。

やっとデュエルにまでありつけました。

ここにきて、まさかのオリキャラ追加です。俺自身予想guyです。
だめだ俺、早くなんとかしないと…。

あと、蓮のカバンについてですが、本当にごめんなさい。描写忘れてました。

脳内補完でお願いします。

それではまた。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第五話「人はみんな鏡っていうけど絶対嘘だよね」（前書き）

はい、こんな序盤なのにタイトル詐欺が板についてきたパラクロ、第五話です。

あ、そうそう。蓮は今デュエルディスクを持っていません。実技のときにかりたアカデミアのは返したので。

というわけで、シンクロのセリフもなしです。あれ考えるのめんどいんですよ。

それでは、クレセントでした。

サラダバー

第五話「人はみんな鏡っていうけど絶対嘘だよね」

どうも、蓮です。

今回は精霊界・竜の渓谷でのデュエルです。対戦相手は秋本風斗さん。一体どんなデッキを使うんだろう。

あ、デュエルは普通にカバンに入れてたマット敷いてやってます。作者がシンクロのセリフめんどいとか言って逃げたので。それでは、どうぞ。

「デュエル！！」

遊戯王パラレルクロス

第五話「人はみんな鏡っていうけど絶対嘘だよね」

先攻はじゃんけんで勝ったので俺からです。

先攻	空見 蓮	LP / 4000
後攻	秋本風斗	LP / 4000

turn.1	Ren	H5↓6	4000	VS	4000
H5	Futo				

「先攻もらいましてドロー」

よし、結構いい感じ。このデッキ、火力は高いんだけど事故りやす

いからね。

「《竜の渓谷》 発動。」

俺のメインデッキ、実は試験で使ってた【閻軸ドラゴン】じゃなくて【ドラグニティ】です。

あの時はつい気分であっち使ったんだよね。

あ、どっちも事故りやすいとかいう意見は受け付けません。

りゅう けいこく
竜の渓谷

フィールド魔法

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で以下の効果から1つを選択して発動する事ができる。

- 自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を手札に加える。
- 自分のデッキからドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る。

「効果で《ドラグニティ・アキュリス》を落として1つめ。《ドラグニティ・フアランクス》を手札に加えるよ」

ドラグニティ・アキュリス

チューナー（効果モンスター）

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1000 / 守 800

このカードが召喚に成功した時、

手札から「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚し、

このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。

モンスターに装備されているこのカードが墓地へ送られた時、フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

ドラグニティ・フアランクス

チューナー（効果モンスター）

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻 500 / 守 1100

このカードがカードの効果によって

装備カード扱いとして装備されている場合に発動する事ができる。
装備されているこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「さらに《調和の宝札》発動。ファランクス落として2枚ドロー」

調和の宝札

通常魔法

手札から攻撃力1000以下のドラゴン族チューナー1体を捨てて発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「そして《ドラグニティ・ドウクス》を召喚。効果でファランクスを装備」

ドラグニティ・ドウクス

効果モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻 1500 / 守 1000

このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する

「ドラグニティ」と名のついたカードの数×200ポイントアップする。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する

レベル3以下の「ドラグニティ」と名のついた

ドラゴン族モンスター1体を選択し、

装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

ドラグニティ・ドウクス ATK / 1500 ↓ 1900

「ファランクス効果で召喚」

ドラグニティ・ファランクス DEF / 1100

「あ、そうだ秋本さん」

「風斗でいいぞ」

「シンクロ召喚のセリフは有りにします?」

「…そうだな。そっちの方が盛り上がるしそうするか」

- - - - -

ren : ほらこの通り

crescent : 勝ったと思うなよ…

ren : もう勝負ついてるから

- - - - -

作者さまあ。というわけで、中二病入りまーす。

「レベル4・ドラグニティ・ドウクスに、レベル2・ドラグニティ・ファランクスをチューニング」

4 + 2 = 6

我^{われ}紡^{つむ}ぎしは竜^{りゅう}の槍^{やり}、全^{すべ}てを貫^{つらぬ}く神^{しん}竜^{りゅう}の槍^{やり}。
刹那^{せつな}に響^{ひび}く雷^{らい}鳴^{めい}よ、吹^ふき荒^あれる風^{かぜ}と共^{とも}に在^あれ。
シンクロ召喚^{しょうかん}。解^{はな}き放^{はな}て、神^{しん}鳴^{めい}の一^{いっ}閃^{せん}。

「《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》、降臨」

ドラグニティナイト・ヴァジュランダ
シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1900 / 守1200

ドラゴン族チューナー＋チューナー以外の鳥獣族モンスター1体
以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、
自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のつ
いた

ドラゴン族モンスター1体を選択し、
装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。
1ターンに1度、このカードに装備された

装備カード1枚を墓地へ送る事で、
このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで倍になる。

ドラグニティナイト・ヴァジュランダ ATK / 1900

ソリッドビジョンじゃないのが残念です。

「バジュランダ効果でファランクスを装備。効果で召喚」
そして中二病 Teixe 2。

「レベル6・ヴァジュランダに、レベル2・ファランクスをチュー
ニング」

6 + 2 = 8

竜騎の絆がまた一つ、新たな奇跡を紡ぎだす。
夜空に瞬く綺羅星よ、その輝きで、我らを導け。
シンクロ召喚。解き放て、流星の神光。

「《スターダスト・ドラゴン》、降臨」

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ

魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、

この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

スターダスト・ドラゴン ATK / 2500

「カードを二枚セットしてターンエンド」

さて、相手のデッキは…？

t u r n . 2	R e n	H 6 ↓ 2	4 0 0 0	V S	4 0 0 0
H 5 ↓ 6	F u t o				

「俺のターンだな。ドロ…お、いい感じた」

あっちも引きがよかったみたいだ。

「《ワン・フォー・ワン》発動。手札の《ダンディライオン》を切って《グローアップ・バルブ》を特殊召喚するぜ。このときダンディの効果で綿毛2体特殊召喚」

ワン・フォー・ワン

通常魔法（制限カード）

手札からモンスター1体を墓地へ送って発動する。
手札またはデッキからレベル1モンスター1体を
自分フィールド上に特殊召喚する。

ダンディライオン

効果モンスター（制限カード）

星3 / 地属性 / 植物族 / 攻 300 / 守 300

このカードが墓地へ送られた時、自分フィールド上に「綿毛トーカー」

（植物族・風・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。
このトーカーは特殊召喚されたターン、アドバンス召喚のためにはリリースできない。

グローアップ・バルブ

チューナー（効果モンスター）

星1 / 地属性 / 植物族 / 攻 100 / 守 100

自分のデッキの一番上のカードを墓地へ送り、

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚することができる。

「グローアップ・バルブ」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

「レベル1・綿毛トーカーにレベル1・グローアップ・バルブをチューニング！」

1 + 1 = 2

集いし命は新たな奇跡の礎となる！

未来をこの手で描きだせ！シンクロ召喚！

「導け、《フォーミュラ・シンクロン》！」

フォーミュラ・シンクロン

シンクロ・チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 機械族 / 攻 200 / 守 1500

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分のデッキからカードを1枚ドローする事ができる。

また、相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在する

このカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

フォーミュラ・シンクロン DEF / 1500

…はいいなー。

「召喚時、フォーミュラの効果で1枚ドローするぜ。お、これはいいカード」

それにしてもこっち側の人達って、本当に引きが強いよね。

「《光の援軍》発動だ。デッキから3枚落として《ライトロード・マジシャン ライラ》を手札に加える。」

ひかり えんぐん
光の援軍

通常魔法（制限カード）

自分のデッキの上からカードを3枚墓地へ送って発動する。

自分のデッキからレベル4以下の「ライトロード」と

名のついたモンスター1体を手札に加える。

ライトロード・マジシャン ライラ

効果モンスター

星4 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻1700 / 守 200

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードを表側守備表示に変更し、

相手フィールド上の魔法または罠カード1枚を破壊する。

この効果を発動した場合、次の自分のターン終了時まで

このカードは表示形式を変更できない。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを3枚墓地に送る。

えーっと、落ちたカードは…《ライトロード・ハンター ライコウ》、《スポーア》、《BF - 精鋭のゼピュロス》。
なにこれ。主人公補正でもかかってるの？

ライトロード・ハンター ライコウ

効果モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻 200 / 守 100

リバース：フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する事ができる。

自分のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る。

スポーア

チューナー（効果モンスター）

星1 / 風属性 / 植物族 / 攻 400 / 守 800

このカードが墓地に存在する場合、

このカード以外の自分の墓地に存在する

植物族モンスター1体をゲームから除外して発動する。

このカードを墓地から特殊召喚し、

この効果を発動するために除外したモンスターのレベル分だけ

このカードのレベルを上げる。

「スポーア」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

ブラックフェザース

B F - 精鋭のゼピュロス

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1600 / 守1000

このカードが墓地に存在する場合、

自分フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を手札に戻して発動する。

このカードを墓地から特殊召喚し、自分は400ポイントダメージを受ける。

「B F - 精鋭のゼピュロス」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

「そして手札から《デブリ・ドラゴン》を召喚。効果でダンディライオンを蘇生だ」

デブリ・ドラゴン

チューナー（効果モンスター）（準制限カード）

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1000 / 守2000

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する攻撃力500以下のモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

このカードをシンクロ素材とする場合、

ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

また、他のシンクロ素材モンスターはレベル4以外のモンスターでなければならない。

「レベル3・ダンディライオンとレベル1・綿毛トークンにレベル

4・デブリ・ドラゴンをチューニング！」

3 + 1 + 4 = 8

つどいのちすべ
集いし命は全てを護る星となる！
なかまみちびひかり
仲間を導く光となれ！シンクロ召喚！

「輝け、《スターダスト・ドラゴン》！」

スターダスト・ドラゴン ATK/2500

相手もスターダストか…。…あり、なんかイラストが違う。ていうか動いてる！何これ！

『風斗ー、カードから出てきてもいいー？』

すると風斗さんのスターダストが輝きだし、辺りに突然強風が吹いた。

「ふう、久しぶりの外だー！」

風が止むとそこには、銀髪をツインテールにした少女が立っていた。

「もう、ひどいよ風斗。カードの中って結構窮屈なんだよ？」

そう、そこに立っていた。立っていたのだ。

「…ポラリス」

「ん？どうしたの、風斗？」

さっきまで、俺と風斗さんがデュエルしていたところに。そう、つまり…

「死ぬ覚悟はよろしいか？」

俺と風斗さんのデツキ、今の突風でぶっ飛びました。

t o b e c o n t i n u e d . . .

風斗「まったくポラリスめ。あの登場の仕方はやめると何度も言っていたのに…。お、このフランクスお前のだろ」

蓮「あ、はい。まあ、デュエルディスクでやってればこうはならなかったですけどね。ですけどねー。あ、ダンディありましたー」

クレナ「あれ、どうしたの？」

蓮・風「ダストにデツキをぶっ飛ばされた」

クレナ「…あー」

蓮「次回、遊戯王パラレルクロス「ちよつとした出オチ」。あ、このダストは風斗さんのですよね？」

風斗「ああ、それ破って捨てといて」

ポラリス「お願いだからそれはやめて！」

ユグドラ「…じ、次回をお楽しみに！」

第五話「人はみんな鏡っていうけど絶対嘘だよね」（後書き）

ちくしょう、蓮の奴め…

あ、どうもクレセントです。

昨日、某教祖様の店に行って照り焼きチキンフィレオとかいうものを食べてきました。

結果。おいしかったです。…はい、以上です。

蓮のデッキは【闇軸ドラゴン】と【ドラグニティ】。

風斗のデッキは【デブリダンディ】です。

…次回どうしようかな。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第六話「ちょっとした出オチ」（前書き）

またもタイトル通りに話が進まないパラクロ、ついに6話です。いつもの俺だったらここまで続いてないですよ。

今回はアカデミア行きの船での話。3話に出てきたあの人、再登場です。

第六話「ちよつとした出オチ」

はいどうも、蓮です。

精霊界から直接アカデミア行きの船が出る港にやってきました。

これから俺にどんな運命が…みたいなものですよ、はい。

それよりも今…眠いです。自分の部屋着いたらすぐ寝よ…。

あ、もうすぐ10時。出港の時間です。それでは行ってきますー。

遊戯王パラレルクロス

第六話「ちよつとした出オチ」

s i d e ・ R e n ↓ Y u t o

…ちくしょう。

俺は、重大な間違いを犯してしまった…！

「ねえ、ほんとに大丈夫？ 顔色悪いよ？」

俺のことを心配してくれたのか、幼馴染の雪風理央ゆきかぜ りおが話しかけてきた。

「大丈夫だ、問題ない…」

「ほんとに？ 無理しないでよね」

そういうと、理央は心配そうに客室の中へ戻って行った。

悪いな、理央。お前に迷惑はかけたくないんだ。

…ここは船の上。出港してからまだ5分しか経っていない。つまりアカデミアまではあと一日以上かかる。

「問題ない…といいな…」

…さっきこの売店に行ってみたんだが、俺の求めているものはなかった。当然と言えば当然だが。

…ちくしょう。俺は…こんなところで……！

「一番いい酔い止めを…たの……」

side・Yuto ↓ Ren

…ちくしょう。

俺は、重大な間違いを犯してしまった…！

「ねえ、こんな道で大丈夫？」

俺のことを心配してくれたのか、精霊のクレナが話しかけてきた。

「大丈夫だ、問題ない」

「そお？ならいいんだけど…」

「…といいな」

「えっ！？」

はい、というわけで迷いました。所詮（豪・華・客）船の中なのに。6
2分探しても部屋が見つかりません。

ちなみに、クレナは実体化してます。それでも普通の人には見えな
いみたいだけど。

そういえば、さっきクレナにデュエルディスクをもらいました。自
分はデッキを持ってないからデュエルディスクもないんだと。
あ、やっ和外に出られた。

もういいや。寝るのはあきらめた。今まだ11時だし。夜になってから寝ても遅くはないでしょ。

さつてとー、とりあえず席が埋まらないうちにレストラン（バイキング式）に行つとこうかな。ついでにデッキ調整もしてー。

…ん？なんか今すごいものが視界に入ったような…？

「蓮、今なんかものすごいのが見えたような気がしたんだけど…」

「…クレナも？」

俺とクレナは今来た通路を振り返つ……………！？

「「うわあああああああああああ！！！」」

S i d e ・ R e n ↓ R i o

…私は今、友達と雑談してたところに戻ってきた。さっき遊人のことが心配で見に行つたけど、遊人は問題ないって言っていた。

「理央ちゃん、どうだった？」

彼女は望月^{もちつき}フィリア。私とは中学からの付き合いで、今では私の大事な親友なんだ。

「遊人は大丈夫だつて言つてたけど…」

「だつたら大丈夫なんじゃねーの？」

あ、こっちは望月^{もちつき}クロノ。フィリアの義理のお兄さん。

「でも、船に乗ってからずっと顔色悪いし…」

「「船酔いだ（ね／な）」」

…そうだよな。

「でも、そしたら遊人も酔い止めぐらいは持つてきてると思うんだけど…」

「うわあああああああああ！！！！」

「！！！！」

な、なに！？

「なにな何！？なにがあつたの！？」

「フィリアちゃん、落ち着いて！」

「向こうのほうで何かあつたみたいだな……」

「あんたは落ち着きすぎ！……え、向こう？」

私とフィリアはクロノの指差した方を向く。あれ、あっちって……まさか！

「あ、理央ちゃん！待って！」

「……はあ」

遊人が……遊人が危ない！！

私はさつき遊人と別れた場所へ急いだ。着くとそこには、倒れて動かなくなつた遊人と、灰色の髪で黒いデュエルディスクを着けた男性と黒髪の女性が立っていた。この人達、遊人に何をしたの！？

「遊人！」

私は遊人の名前を呼んだ。遊人は動かない。代わりに彼らが私に気づき、振り返った。

「あ、ちようどよかった。すいませ「遊人に何をしたの！！」……はい？」

「わた「あ、デュエルね、わかった。」……話を分かってくれて助かるわ。あなた達、絶対に許さないんだから！！」

「デュエル!!」

t o b e c o n t i n u e d . . .

クロノ「あーあ、遅かったか」

フィリア「はあ、はあ、お兄ちゃん、速いよー」

クロノ「お前が遅いだけだ、フィリア」

フィリア「…お兄ちゃん、これ、どんな状況？」

クロノ「大方、あいつが勘違いして喧嘩売ったんだろ」

？「次回、遊戯王パラレルクロス「ダメステいいっすかw」…この

”w”、どう読むんだ？」

遊人「誰か…酔い止めを……」

クレナ「次回もお楽しみに！」

第六話「ちよつとした出オチ」（後書き）

…無理やりデュエルに持って行きました。次回は理央vs蓮になります。

というわけでどうも、クレセントです。

そういえば、リアルのほうで昨日学校でした。正式に高3になりましたよ。

名担任、迷副担任は高2と変わらず、いつも遊戯王（OCGの方）で盛り上がる友人と同じクラスでした。

あ、そうそう。俺、都内某駅のデュエルスペースの方にたまに出没しています。

使用デッキはレミアススリーブの【ドラグニティ】と、パチュリースリーブの【代行天使】。

そこそこな割合で「おい、デュエルしろよ」的なことをしています。うん、果てしなくどうでもいいけどね。

ちなみに蓮の【ドラグニティ】は俺のデッキを基にしています。

近々【代行天使】の方のキャラも出す予定です。

ちなみに【代行天使】の人は構想段階の時点で登場が決定していて、クレナより先に設定が完成していました。

こんなところかな。クレセントでした。

第七話「ダメステいつすかw」（前書き）

どうせダメステなんて関係ないですよチクショウ。
どうも、クレセントです。

1話の中に1デュエルぶち込んでみました。
そのため、今回はちよつと長めです。

それでは第七話、どうぞ。

第七話「ダメステいつすかw」

はいどうも、蓮です。今、船の屋上（でいいんだっけ？）にいます。
…俺、なんか悪いことしたっけ？

まあいいや。何となく今回も【ドラグニティ】で行くよ。

悪役にされても問題ないけど…別に空気読まずに勝っちゃっても構わないよね？

それじゃ、死亡フラグも立てたところで、行ってみますか。

「「デュエル!!」」

遊戯王パラレルクロス

第七話「ダメステいつすかw」

side・Ren ↓ Rio

「私の先行！ドロー！」

「Σ（。A。）」

先攻は私が奪い取った。灰色の奴はなんか驚いた顔してたけど、驚くようなことでもないでしょ、これぐらい。

先攻 雪風理央 LP/4000

後攻 空見 蓮 LP / 4000

turn : 1 Rio H5↓6 4000 VS 4000
H5 Ren

「私は《黒い旋風》を発動！」

くろ せんふう
黒い旋風

永續魔法（制限カード）

自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが召喚された時、

自分のデッキからそのモンスターの攻撃力より低い攻撃力を持つ「BF」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

「そして《BF - 蒼炎のシュラ》を召喚！」

青を基調にした鳥人が舞い降りた。

ブラックフェザース

BF - 蒼炎のシュラ

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1800 / 守1200

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、

自分のデッキから攻撃力1500以下の「BF」と名のついたモンスター1体を

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

BF - 蒼炎のシュラ ATK / 1800

「さらに黒い旋風の効果でデッキから《BF・月影のカルト》を手札に加える！」

私の後ろから黒い風が吹く。その風に乗り、黄色と黒の鳥が飛んできた。

ブラックフェイズ

BF・月影のカルト

効果モンスター（制限カード）

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1400 / 守1000

自分フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついたモンスターが

戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、

そのモンスターの攻撃力はこのターンのエンドフェイズ時まで1400ポイントアップする。

「カードを2枚セットしてターンエンド！」

さあ、どこからでもかかってきなさい！

turn・2 Rio H6↓4 4000 VS 4000
H5↓6 Ren

「俺のターンだね。ドロー。まずは《サイクロン》発動。…うん、そっち側のカードを破壊するよ」

「な!?!」

竜巻が私のカードに向けて放たれる。破壊されたカードは《ゴッドバードアタック》。やられた…！

サイクロン

速攻魔法（準制限カード）

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

ゴッドバードアタック

通常罾（準制限カード）

自分フィールド上に存在する鳥獣族モンスター1体をリリースし、フィールド上に存在するカード2枚を選択して発動する。
選択したカードを破壊する。

”灰色の”に一瞬だけ笑みが見えた。何か来る！

「竜の渓谷を発動。竜の渓谷はフィールド魔法。チェーンする？」

「するわ！サイクロン発動！」

「わかった。じゃあ《未来融合・フューチャー・フュージョン》発動ね。《F・G・D》選択。」

【ドラゴン族】？今のフィールド魔法は囷だったのね。まあ、でもそれぐらいなら問題ないわ。

「《ドラグニティ・フアランクス》、《ドラグニティ・アキュリス》、《ドラグニティ・アームズ・レヴァティン》、《真紅眼の飛竜》、《レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン》の5体を落とすよ」「ドラグニティ」？私の知らないカード。気をつける必要が出てきたかな。

ドラグニティアームズ・レヴァティン

効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2600 / 守1200

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する

「ドラグニティ」と名のついたカードを装備したモンスター1体をゲームから除外し、

手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

「ドラグニティアームズ・レヴァティン」以外の自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。このカードが相手のカードの効果によって墓地へ送られた時、装備カード扱いとしてこのカードに装備されたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「よし。《ドラグニティ・ドウクス》召喚。召喚時、ドウクスの効果で墓地のフランクスを装備」
白い服を纏った鳥人が現れた。同時に天空から金色の槍が地に刺さり、白い鳥人はそれを手に取った。
あれ、でもフランクスは未来融合で落としたカード…。それをなぜ装備するの？

ドラグニティ・ドウクス ATK/1500

「ドウクスの攻撃力は自分フィールド上の”ドラグニティ”と名のついたカード1枚につき200ポイントアップする」

ドウクス ATK/1500+(200×2)＝1900

なるほどね、これなら表面上はシユラの攻撃力を上回っている。でも、私の手札には

「ま、今はどうでもいいけどね」

…はい？

「装備されたフランクスは自身を特殊召喚する効果を持っている。フランクスを特殊召喚！」

そんな効果が！なるほど、つまり”ドラグニティ”はモンスターを装備して戦うグループってところかな？

ドウクスが槍を天に放り投げるとその槍は金色の竜になった。

ドラグニティ・ファランクス DEF / 1100

ファランクスのステータスをデュエルディスクで確認する。
攻500守1100、レベル2、ドラゴン族、…チューナー！？

「レベル4・ドラグニティ・ドウクスに、レベル2・ドラグニティ・ファランクスをチューニング！」

4 + 2 = 6

我^{われ}紡^{つむ}ぎしは竜^{りゅう}の槍^{やり}、全^{すべ}てを貫^{つらぬ}く神竜^{しんりゅう}の槍^{やり}。
刹那^{せつな}に響^{ひび}く雷鳴^{らいめい}よ、吹^ふき荒^あれる風^{かぜ}と共^{とも}に在^あれ。
シンクロ召喚^{しょうかん}。解^{はな}き放^{はな}て、神鳴^{しんめい}の一閃^{いつせん}。

「《ドラグニティナイト・ヴァジュランダ》、降臨」

光の中から現れたのは、オレンジ色の竜に乗った竜騎士だった。

ドラグニティナイト・ヴァジュランダ ATK / 1900

「ヴァジュランダの効果発動。シンクロ召喚に成功したとき墓地のアキリスを装備」

天から降ってきたのは赤い槍。竜に乗っている鳥人はそれを見事にキャッチした。

「ヴァジュランダのもう1つの効果。このカードに装備されているカードを墓地に送ることで、このカードの攻撃力は倍になる！」

倍…1900の2倍………！？

ヴァジュランダ ATK / 1900 x 2 = 3800

「3800!？」

「そう。さらに墓地に送られたアキュリスの効果。フィールド上のカード1枚を破壊する。シユラを破壊!」

竜騎士が赤い槍を投げつける。その槍はシユラを貫き、そのまま破壊されてしまった。

「バトルフェイズ! ヴァジュランダでダイレクトアタック!」

竜騎士が命令すると、下の竜が咆哮を上げた。ヴァジュランダが電気を纏い始める。

「貫け、ライトニング・バースト・エクサ!」

そして、竜の口から極大の雷砲が私に向けて放たれた。

「きゃあああああああああああああああ!」

理央 LP 4000 - 3800 = 200

い、痛い! ソリッドビジョンだと分かっているのに、その衝撃だけで私の体は悲鳴を上げた。

「大丈夫、まだやれる。遊人のためにも、私は…。私は……!」

「カードを2枚伏せてターンエンドだよ」

ヴァジュランダ ATK/3800 ↓ 1900

お願いみんな! 私の想いに応えて!!

turn 3 Rio H4 ↓ 5 200 VS 4000 H
6 ↓ 0 Ren

「私の…ターン。…ドロー!」

…。本当に、

「私は…手札から…」

本当に、ありがとう！

「《BF - 極北のブリザード》を、召喚！！」

ブラックフェザークホク

BF - 極北のブリザード

チューナー（効果モンスター）

星2 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1300 / 守 0

このカードは特殊召喚できない。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4以下の「BF」と名の付いたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

BF - 極北のブリザード ATK / 1300

雪のように白い鳥が舞い降りた。ブリザードのおかげか、少し体が楽になる。

「ありがとう、ブリザード！」

『ぐあー！』

私がお礼を言うと、ブリザードは高らかに鳴いた。本当に、ありがとうね。

「ブリザードの効果発動！墓地にいるシュラを特殊召喚！」

ブリザードが吹雪を巻き起こし、そこからシュラが舞い戻った。

シュラ DEF / 1200

「そして、黒い旋風の効果で《BF - そよ風のブリーズ》を手札に加える。この瞬間そよ風のブリーズの効果を発動し、特殊召喚！」

私の後ろから風が吹く。その風に乗って、オレンジ色の鳥が飛んできた。そしてそのまま、フィールドに向かっていった。

ブラックフェザー

BF - そよ風のブリーズ かせ

チューナー（効果モンスター）

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1100 / 守 300

このカードが魔法・罫・効果モンスターの効果によって自分のデッキから手札に加わった場合、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、

「BF」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

BF - そよ風のブリーズ ATK / 1100

「BFが3体：まさか」

「ええ、そのまさかよ！手札から、《デルタ・クロウ・アンチ・リバース》を発動！」

デルタ・クロウ・アンチ・リバース

通常罫

自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが

表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

相手フィールド上にセットされた魔法・罫カードを全て破壊する。

また、自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが3体存在する場合、このカードは手札から発動する事ができる。

「チェーンするよ！《魔宮の賄賂》発動、ワンドローお願いします！」

魔宮の賄賂 まきゆう わいろ

カウンター罠

相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。
相手はデッキからカードを1枚ドローする。

止められた…。

「ドロー。……デルタ・クロウ・アンチ・リバーズ、発動！」

「なん…だと…！？」

はい、今の賄賂で引きました。七つ道具だったらこうはいかなかったわ。

破壊したカードは…危ない、ミラーフォースだった。

盗賊の七つ道具 たうぞく なな つぐぐ

カウンター罠

1000ライフポイントを払って発動する。

罠カードの発動を無効にし破壊する。

聖なるバリア・ミラーフォース せい なる

通常罠（制限カード）

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

「メインフェイズを続けるわ。《BF・黒槍のブラスト》を手札から特殊召喚！」

螺旋状の黒い槍をもった鳥人が舞い降りた。

ブラックフェイズ

BF・黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1700 / 守 800

自分フィールド上に「BF・黒槍のブラスト」以外の
「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、
このカードは手札から特殊召喚する事ができる。
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、
その守備力を攻撃力が超えていれば、
その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

BF・黒槍のブラスト ATK/1700

「行くわよ！レベル4・蒼炎のシュラにレベル2・極北のブリザー
ドをチューニング！」

4 + 2 = 6

漆黒の羽が、荒れた大地に舞い上がる。
悪しき絶望を、この手で打ち抜け！シンクロ召喚！

「はばたけ、《BF・アームズ・ウィング》！！」

ブラックフェザー

BF・アームズ・ウィング

シンクロ・効果モンスター

星6 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻2300 / 守1000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター
1体以上

このカードは守備表示モンスターに攻撃する場合、
ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、
その守備力を攻撃力が超えていれば、
その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

BF・アームズ・ウイング ATK/2300

「バトルフェイズ！アームズ・ウイングで、ヴァジュランダに攻撃！」

アームズ・ウイングが銃口を竜にむける。

「ブラック・アームズ・バレット！」

アームズ・ウイングが黒い銃弾を放ち、竜騎士を貫いた。

「くっ」

その衝撃が、少しだけ”灰色の”に響く。

蓮 LP 4000 - 400〃3600

「続けて、そよ風のブリーズでダイレクトアタック！ブリージング・フェザー！」

ブリーズが羽ばたき、突風をぶつけた。

「…っ！」

蓮 LP 3600 - 1100〃2500

「さらに、黒槍のプラストでダイレクトアタック！ブラック・シェイパー！！」

プラストの槍が風を纏い、”灰色の”を貫いた。

「くっ…！」

蓮 LP 2500 - 1700〃800

「メインフェイズ2、レベル4・黒槍のプラストにレベル3・そよ風のブリーズをチューニング！」

4 + 3〃 7

漆黒^{しっこく}の羽^{はね}が、荒^あれた大地^{だいち}に舞^まい上^あがる。
邪悪^{じゃあく}なる敵^{てき}を、この手^てで砕^{くだ}け！シンクロ召喚^{しょうかん}！

「舞い上^あがれ、《BF・アーマード・ウイング》！！」

ブラックフェザー

BF・アーマード・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星7 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻2500 / 守1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは戦闘では破壊されず、
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに

楔^{くわ}力^{りき}ウンターを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔^{くわ}力^{りき}ウンターを全て取り除く事で、

楔^{くわ}力^{りき}ウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力を

このターンのエンドフェイズ時まで0にする。

BF・アーマード・ウイング ATK / 2500

「カードを1枚セットしてターンエンドよ」

このデュエル、絶対に負けられない！

turn . 4 Rio H5 ↓ 1 200 VS 800 HO
↓ 1 Ren

「俺のターン、ドロー。…ターンエンド」

…万策尽きたみたいね。サレンダーしないところは、さすがデュエリストってところだけだ。

turn . 5 Rio H1 ↓ 2 200 VS 800 H1
↓ 1 Ren

「私のターン、ドロー！」

引いたカードは次元幽閉。でも、このターンで決着よ！

じげんゆうへい
次元幽閉

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。
その攻撃モンスター1体をゲームから除外する。

「バトルフェイズ！アーマード・ウィングでダイレクトアタック！
アーマード・スラッシュー！」

アーマード・ウィングが、……アーマード・ウィング？

辺りに鐘の音が響き渡る。この音は…まさか！？

「《バトルフェーダー》！？」

「うん、バトルフェーダーの効果を発動したよ。悪いけど、あと1ターンだけ待ってもらえないかな？」

バトルフェーダー

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「…カードを1枚セットしてターンエンドよ」

私はドロ―した次元幽閉をセットした。手札にはカルートもいるし、大丈夫だとは思っただけ…。

turn・6 Rio H2↓1 200 VS 800 H0
↓1 Ren

「俺のターン…ドロ―」

”灰色の”がカードをドロ―した。その瞬間、フィールドのカードが1枚、5色の光を解き放った。

「…2ターン経過しました。未来融合・フューチャー・フュージョンの効果が適用されます！」

地、水、炎、風、そして闇。5つの力、今ここに終結する。

5つの輝きは1つの竜となり、真の悪をその力に示す。
時は満ちた。消える。偽りの正義など、この世界には必要ない！

「ファイブ・ゴッド・ドラゴン！」

『グオオオオオオオオオオオオオオオオ！』

F・G・D ATK/5000

五頭の龍が姿を現す。だけど…、これで終わり！

「リバーズカード、オープン！《奈落の落とし穴》、発動！F・G・

Dには消えてもらっわー!!」

F・G・Dの足元に大きな穴が「チェーン!!」!?

「手札から速攻魔法発動!《禁じられた聖槍》!!」

禁^{きん}じられた聖^{せい}槍^{そう}

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は800ポイントダウンし、

このカード以外の魔法・罠カードの効果を受けない。

F・G・D ATK/5000-800〃4200

そんな…それじゃ、私の次元幽閉も……。

「バトルフェイズ。F・G・Dで、アームズ・ウイングに攻撃!」

F・G・Dのそれぞれの口から、5色の魔砲が放たれる。

…ごめんね、遊人。私……!

「…マテリアル・バースト!!」

「きゃあああああああああ!!」

理央 LP 200-500〃0

蓮 WIN

side・Rio↓Ren

…危なかったー！

賄賂で2枚目を引かれたときは終わった…。フェーダーも
聖槍も、あのタイミングで引かなかったら負けてたよ…。

あとはなんとかして倒れてた人の彼女（…かな？）を説得しないと

ワアアアアアアアアア！！！！

え、なに！？なんでこんなに人が集まってんの！？ていうかいつの
間に！？

- - -
- - -
- - -

crescent：以下、観客の歓声と蓮のツッコミを抜粋して
お送りします。

- - -
- - -
- - -

「すげえ！すごすぎるぜ”灰色の”！」

「灰色の！？なんで某錬金術師風に！？」

「”ドラグニティ”も”BF”もすごかったぜ！」

「え、ああはいありがとうございます！」

「さすが実技1位だ、格が違うぜ！」

「実技1位！？俺自身はじめて知ったよ！」

「やばい、惚れちゃったかも！」

「考えなおして！今ならまだ遅くないから！」

「れーん、あとで私ともデュエルしよー！」

「あーうんわかったー！」

「てめえ、我らが雪風理央様になんてことを！」

「どちらさま！？ていうかなぜに罪袋！？」

「我らは雪月花親衛隊グループS、その名もRRRRスリーアール！！」

「聞いてないよ！ていうかみんな受験落ちてたよね！？なんでここにいの！？」

「理央様が行く所ならば、たとえ地獄にだってついていく！それが

俺達、RRR!!」

「だから聞いてないよ!」

「……………」

「うわ!?あぶな!誰!?今ナイフ投げたの誰!?」

「貴様、見えているな!?!」

「あんたか!今ナイフ投げたのあんたか!」

「行きなさいあなたたち。理央様の敵をトルノデス」

「黒幕あんたかあああ!!」

…ん?ちよつとまって。今の5人目って…。

「やつほー!」

「音姉!?なんでここに!?あれ、それにみんなも!?えええええ!」
「?」

なんか予想外すぎる再会を果たしました。

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「つーかーれーたー」

クレナ「お疲れ様、蓮」

蓮「あ、クレナ。あの人たちに酔い止め渡してくれた？」

クレナ「うん。理央さん…だっけ？すごい謝られちゃった」

蓮「まあ、結局は彼氏を心配しての行動だったみたいだし、俺にもそれを責める権利はないよ」

音羽「次回、遊戯王パラレルクロス「フィールド魔法6枚体制」お楽しみに！」

蓮「あれ音姉！？ちょっと待ってここ俺の部屋だよ！？」

第七話「ダメステいつすかw」（後書き）

… 小学校の友人から一斉送信でメールが届きました。
そこには、ただ1文、こう記されていました。

「彼女ができましたー」

リア充氏ね。どうも、クレセントです。

というわけで、今回は【BF】vs【ドラグニティ】でした。
結局F・G・Dによるごり押しになってしまいましたけどね。
次回からは、多分いつもの長さに戻ると思います。

ちなみにその後、俺の戦友が邪神・リアⅡジュー4世のメルアドを
出会い系サイトに登録しました。

それでは、この辺で。クレセントでした。

第八話「フィールド魔法6枚体制」（前書き）

相変わらずタイトルがおかしいパラクロ、第八話です。
今回は短めです。前回の反動が…

あと、先に言つときます。

超展開サーセンw

第八話「フィールド魔法6枚体制」

はいどうも、蓮です。

なんとか自分の部屋にたどり着きました。豪華です。豪華すぎます。今はもう19時。つまり、それまで俺は部屋に入ってすらいなかったことになり…。

もういいや、考えるのはやめよう。おやすみ！。

遊戯王パラレルクロス

第八話「フィールド魔法6枚体制」

俺の部屋に、元の世界の友人が全員。全員と言っても、5人だが。

「さて、お前たちにここに集まってもらったのは言うまでもない…」
その中の1人、横溝輪廻が話を始めようとする。

「ちよっと待って」

「どうした、蓮」

…いや、やらせないよ？

俺の部屋に集まってきたのは横溝輪廻、谷山優姫、宮沢拓斗、姫路ゆみな、そして音姉（本名は天河音羽）の5人。

…こいつら、アカデミアに着くまで寝ないつもりらしい。

「…おい」

でもさ、俺、この世界に来てから1回も寝てないんだよね。だからさ…

「デュエルしろよ」

頼むから、寝かせて。

[illegible]

crescent
デュエル描写は省略します。とりあえず結末
だけ。

V
S
音羽

「トリシューラとヒュペリオン2体でダイレクトアタック！合計8100だよ！！」

蓮 LP 8000 - (2700x3) = 0

音羽
WIN

V
S
輪
廻

「3700の轟龍でバジュランダ攻撃。1800で終了だね」

蓮 LP 1400 - 1800 = 0

輪廻 WIN

VS ゆみな

「偵察者をリリースしてブリザード・プリンセス召喚！えーと、とどめです！」

蓮 LP 2600 - 2800 = 0

ゆみな WIN

VS 優姫

「シエンと師範とキザン2体でダイレクト。終了よ」

蓮 LP 8000 - (2500 + 2100 × 3) = 0

優姫 WIN

VS 拓斗

「祈り効果でスフィアード蘇生。リミリバでガルド蘇生。レダメに総攻撃で終了だね」

蓮 LP 5800 - (800 + 2300 + 2600 + 1800)
0

拓斗 WIN

crescent : 以上5試合、蓮の全敗です。この間、わずかに30分でした。

- - - - -
- - - - -
- - - - -

「さて、蓮を懲らしめたところで、話を続けるぞ。アカデ・・・
」
はい、というわけで5連敗しました。いや、みんな強すぎだって。

「（：いやな、デュエルだったね）」
「（うん、ほんとに。まあ、こいつらとのデュエルっていつもこんな感じだから大体予想はできたけどね。）」
「そうそう、精霊とは声に出さなくても脳内で会話できるようです。今さっき気づいたけど。」

とりあえず、これで2夜連続で徹夜が確定いたしました。チクシヨウ。

「……以上だ。何か質問はあるか？」

あ、やっと輪廻の話がおわった。

「あ、じゃあ僕からいいかな？」

「OKだ」

手をあげて拓斗が質問をする。

「……みんなさ、カードの精霊見えてる？」

……はい？

「いや、俺は見えてるけど……みんなは？」（俺）

「俺は見えてないな……」（輪廻）

「私もよ」（優姫）

「私は一応見えてますけど……」（ゆみな）

「私も見えないかなー」（音姉）

「なるほど。じゃあトリッパーだから精霊が見えるってわけじゃないんだね」

「……あー、そういうことか」

なるほどね、把握した。

ほとんどの遊戯王小説では、トリッパー達のほとんどにカードの精霊が見える設定があった。

つまり、トリッパーとなった自分たちにも精霊が見えるということが十分考えられる。

今の質問はそれを考慮しての物だったということかな？

そして、今精霊が見えるのは俺、ゆみな、拓斗の3人。

「じゃあ、精霊出してみる？」

俺は2人に聞いてみた。

「あ、わかりました！」

「うん、僕もそのつもりだったしね」

それじゃ、顔合わせといきますか。

「「「せーの、」「」」

「クレナ！」「スノウ！」「リーズ！」

現れたのは、3人の少女。…精霊って、なぜか女性が多いよね。

俺の精霊はクレナ。カードはいわずもがな。…もがな？

ゆみな精霊はスノウ。カードは《ブリザード・プリンセス》。

拓斗の精霊はリーズ。カードは《ダイガスタ・スフィアード》。

「「「「…どちらさま？」「」」」
「「「ですよねー」「」」

ま、そうなるよね。俺も初めはそうだったしね。

クレナの擬人化設定を説明するのには40分ぐらいかかりました。

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「もう朝の9時か…」

クレナ「おはよ、蓮」

蓮「うん、おはよう。もうすぐ到着だよ」

クレナ「そっか。楽しみだね！」

蓮「何か厄介事に巻き込まれなければいいけどね…」

クレナ「次回、遊戯王パラレルクロス「安心と信頼の以下略」」

アナウンス「お待たせいたしました。あと15分ほどで・・・」

蓮「よし、じゃあ行こうか」

クレナ「うん！」

蓮・クレナ「「行つてきますす！」」

第八話「フィールド魔法6枚体制」（後書き）

超展開サーセンw 大事なことなので何度でも言います。
はいどうも、クレセントです。

やっアカデミアにつきました。
ようやくパラクロが学園物になります。

…と言いたいところですが、次回は気分転換にキャラ設定でも書こうかなと考えています。さすがにまとめないと読みづらいと思うので。

それでは。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

EX1「安心と信頼の以下略」(前書き)

やあ (´・ω・｀)

ようこそ、メタ世界へ。

この緑茶はサービスだから、まず飲んで落ち着いて欲しい。

うん、「また」なんだ。済まない。

仏の顔もって言うしね、謝って許してもらおうとも思っていない。

でも、このタイトルを見たとき、君は、きっと言葉では言い表せない
「おまけ」みたいなものを感じてくれたと思う。

殺伐とした世の中で、そういう気持ちを忘れないで欲しい
そう思っ、このタイトルをつけたんだ。

じゃあ、注文を聞こうか。

EX1「安心と信頼の以下略」

遊戯王パラレルクロス

EX1「安心と信頼の以下略」

「あれ、ここは…」

よう、空見。ここで会うのは初めてだな。

「あなたは？それになんで俺の名前を？」

俺のことは…そうだな、”クレセント”、とでも呼んでくれ。

「…ああ、バックログの人」

バックログ言うな。

「それで、俺に何の用ですか？」

いや、ちよつとお前に手伝ってもらおうと思つてな。

「手伝う？」

ああ、ちよつとお前の周囲の人間たちをまとめておく必要があつてな。

「そういうことですか。いいですよ」

ありがとう。助かるよ。それじゃ、お前は向こつの世界5人の説明を頼む。

「はいはい」

「というわけで、ここでパラクロのキャラ設定を一気に公開します。

名前（人間）／年齢

【使用デッキ】

・今北産業

で説明していくよ。精霊についてはまた今度ね」

空見 蓮／15歳、高1。男。

【ドラグニティ】【閻軸ドラゴン】

・髪の色は灰色、眼の色は緑。

・基本的に1人で何でもできる人。おもに一人暮らしが原因。
・完全回避能力持ち。おもに中学時代までのいじめが原因。

天河 音羽／16歳、高1。女。

【代行天使】

・髪は薄い赤のロング、眼の色は濃い赤。

・蓮とは同父異母の姉で、蓮からは音姉おとねえと呼ばれている。
・蓮のことが好きなのだが、当の本人は気づいてない。

姫路 ゆみな／15歳、高1。女。

【墓守】

・髪は紺のウェーブがかかった感じ、眼の色は金。
・入学式の時、いじめられているところを蓮に助けられる。
・蓮のことが以下略。

横溝 輪廻／16歳、高1。男。

【スキドレ光神機】

・髪の色は赤茶、眼の色は赤。

- ・元不良だったが、中3のときに右手を骨折し、そのまま引退。
- ・そんな彼がなぜ優姫と付き合っているのかは不明。

谷山 たにやま 優姫 / 16歳、高1。女。

【真六武衆】

- ・髪は黒のストレート、眼の色も黒。
- ・由緒正しい剣道の道場の生まれで、剣術の腕は非常に高い。
- ・そんな彼女がなぜ輪廻と以下略。

宮沢 みやざわ 拓斗 / 15歳、高1。男

【ガスタ】 【???】

- ・髪の色は黄緑、眼の色は茶色。
- ・ギャルゲー主人公を（無意識に）地で行く人。
- ・ただし、すでに好きな人がいる女子は攻略対象外。

桜井 さくらい 遊人 / 15歳、新高1。男。

【???】

- ・髪の色は深緑、眼の色も深緑。
- ・”遊”と名前についていることから、多分こっちの世界の主人公。
- ・体の弱い義理の妹がいる。ただ今入院中

雪風 ゆきかぜ 理央 / 15歳、新高1。女。

【BF】

- ・髪は銀色のショート、眼の色は橙色。
- ・”雪月花”の1人で、蓮の幼馴染。
- ・多分ツンデレって言えばあたりだと思っ。

望月 もちつき フィリア / 15歳、新高1。女。

【???】

- ・髪は金色のツインテール、眼の色は青。
- ・”雪月花”の1人で、クロノの義理の妹。
- ・見た感じ、少しブラコン気味だった。

望月^{もちづき} クロノ／15歳、新高1。男。

【???】

- ・髪の色は黒、眼の色は紺色。
- ・フィリアの義理の兄で、遊人の親友。
- ・ツツコミをほとんど全部担当（遊人談）。

秋本^{あきもと} 風斗^{ふうと}／20代前半（?）。男。

【デブリダンディ】【???】

- ・髪の色は橙色、眼の色は黄緑。
- ・暴走するトリシューラを竜騎士と共に討伐した精霊界の英雄。
- ・試験官だった武藤先生の旧友。

「…こんな感じかな」

お、終わったか。

「あ、クレセントさん」

…よし、上出来だ。ありがとな。

「どういたしまして。それじゃ、そろそろ…」

ああ、もうこんな時間か。

「ほんとだ。もう朝の9時前」

今夜はすまなかったな。お前、一睡もしてないんだろ？

「いえ、いつものことだったんで」

いつも通りに徹夜って、お前どんな生活送ってきてたんだよ…。

「それじゃあ、行ってきます」

ま、
がんばれよ。

t
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d
.
.
.

EX1「安心と信頼の以下略」(後書き)

ふう、行ってしまったか…。

「調子はどうだ？」こっちの”クレセント」

その声は…ああ、やっぱりお前か。

「空嶺^{そらみね} 練磨^{れんま}」。

「悪いな、俺の都合でここまでさせちまって」

大丈夫だ、問題ない。それに、俺もあいつらを見てるとなぜか飽きないしな。

「そうか、だったらいいんだが」

おっと、忘れてた。次回、遊戯王パラレルクロス「最終鬼畜演説」。

「寝るがよい」、てな。

「次回も楽しみにしてろよ。じゃあな」

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第九話「最終鬼畜演説」(前書き)

ごめんなさい、遅くなりました！

今回アカデミア初デュエル、相手は…？

後、オリカが登場します。苦手な方はご注意ください。

第九話「最終鬼畜演説」

はいどうも、蓮です。

やっとアカデミアに着きました。これから入学式です。
他に言うことは特にないのでこの辺で。

遊戯王パラレルクロス

第九話「最終鬼畜演説」

S i d e ・ R e n ↓ C l e n a

みなさん初めまして。《レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン》
《のクレナ＝ヴァーミリオンです。

「・・・シテイの方で・・・」

今、校長先生が入学の式辞(?)を30分ぐらい言い続けています。

「・・・新入生の・・・」

…長い。長すぎます。どうしたらこんなに長く話せるんでしょう。

「・・・このアカデミア・・・」

こんなに長い文章お暗記できる校長先生もすごいのですが、蓮の方も別の意味ですごいんです。

「・・・であるからして・・・」

「……………」

私のご主人様、立ったまま寝てます。熟睡です。どうしたらこんな器用なことができるんでしょう。

「・・・さい。」

「次に、クラスごとの担任教師の紹介に移ります」

あ、やっと校長先生の話が終わりました。次は担任の先生の説明だそうです。

「B組担任、秋本風斗だ。担当は実技と精霊史。一年間よろしくな。」

あ、秋本さん。…精霊界の英雄がこんなところで何やってるんですか。

「同じくB組副担任、・・・」

あ、ポラリスも一緒だ。私が手を振ると、ポラリスも笑顔で振り返してくれた。

「・・・いします」

…ポラリスが秋本さんに無言で蹴飛ばされ、笑い声が聞こえました。
やっぱり他にも精霊が見える人はいるみたいですね。

「R組担任、武藤零次^{むとう れいじ}だ。実技と数学を担当するぜ」

あ、試験官の人だ。確か蓮もR組だったから武藤さんが担任ということですね。

「同じくR組副担任、・・・」

「以上で、担任教師の紹介を終わります」

あ、やっと終わりました。

「最後に、新入生歓迎デュエルを行います」

あれ、まだ少しだけ続けみたい。

「在校生代表は、2年B組、桜咲遥^{さくらさき はるか}！」

「はいはい！」

活発そうな女子生徒さんが出てきました。

「対して新入生代表は、1年R組、空見蓮^{そらみれん}！」

……。え？

「…空見さん？空見さん？」

『蓮！起きて！先生に呼ばれてるよ！れーん！』

「…あと…5時間…」

『寝すぎだよ!!』

早く起きてー!!

side・Clena ↓ Ren

おはようございました。どうも、蓮です。

なんか新入生代表に選ばれました。クレナに起こされるまで全然知らなかったよ。

とりあえず「おい、デュエルしろよ」的な感じだそうで。

相手は在校生代表の桜咲さん。髪はうすい茶色で、膝のあたりまで届いてる。眼の色は薄い桃色。

「空見君、だっけ？」

桜咲さんが話しかけてきた。

「あ、はい」

「大丈夫。いつも通りにデュエルすればいいだけだから」

「…わかりました」

逆にいつも通りにやらないとうまく戦えないんだよね、俺のデッキ。今回は…こっちな。

「それじゃ、行くよ！」

「はい、よろしく願います！」

「「デュエル!!」」

「先攻はチャレンジャーからだよ！」

先攻	空見 蓮	LP / 4000
後攻	桜咲 遥	LP / 4000

turn : 1	Ren H5 ↓ 6	4000	VS	4000
H5	Haruka			

「俺のターン、ドロー」

俺は手札を確認する。…さすがにあたりとは言えないけど、これならまあそこそこ行けるんじゃないかな？。

「《封印の黄金櫃》発動。効果で《ダーク・クリエイター》を除外するよ」

ふういん おうごんひつ
封印の黄金櫃

通常魔法

自分のデッキからカードを1枚選択し、ゲームから除外する。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時にそのカードを手札に加える。

「《ダーク・グレファア》を召喚して効果発動。手札の《ゾンビキヤリア》を落として、デッキから《D・HERO ディアボリックガイ》を落とすよ」

なんか黒い剣士が現れた。

ダーク・グレファア

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1700 / 守1600

このカードは手札からレベル5以上の闇属性モンスター1体を捨てて、

手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、手札から闇属性モンスター1体を捨てる事で自分のデッキから闇属性モンスター1体を選択して墓地へ送る。

ダーク・グレファア ATK / 1700

ゾンビキャリア

チューナー（効果モンスター）（制限カード）

星2 / 闇属性 / アンデット族 / 攻400 / 守200

手札を1枚デッキの一番上に戻して発動する。

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

デステニーヒーロー

D - HERO ディアボリックガイ

効果モンスター（準制限カード）

星6 / 闇属性 / 戦士族 / 攻800 / 守800

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。

自分のデッキから「D - HERO ディアボリックガイ」1体を

自分フィールド上に特殊召喚する。

「カードを2枚セットしてターンエンド」

先攻1ターン目からわざわざ展開する必要もないよね。

turn・2 Ren H6↓1 4000 VS 4000
H5↓6 Haruka

「私のターンだね。ドロー!...よし!」

先輩がカードをドローした。さあ、先輩のデッキは...?

「手札から《龍皇の末裔・ツバキ》を召喚!」

龍皇の末裔・ツバキ / Tsubaki - The Descendant of Dragon-Roads

効果モンスター（パラクロオリジナル）

星3 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻 800 / 守 800

自分フィールド上に表側表示で存在する

このカードをリリースして発動する。

自分のデッキから「神殿」と名のついたフィールド魔法を

1枚選択し、発動する。

この効果を使用したターン、自分はもう一度だけ

「龍皇」と名のついたモンスター1体を召喚することができる。

龍皇の末裔・ツバキ ATK / 800

セーラー服を着た少女が現れた。ん、こんなモンスターいたっけ?

...まさか、オリカ!?

「効果発動! ツバキをリリース! デッキから《海龍の神殿》を選択し、発動!」

辺りが青に染まり、デュエルフィールドが神殿に変わった。

「フィールド上のモンスターは全て水属性になり、お互いにライフ

を支払うことができなくなるわ！」

また俺の知らないカード…。これは厳しいかもな。

かいりゅう しんでん

海龍の神殿 / The Shrine of Neptune

フィールド魔法（パラクロオリジナル）

このカードがフィールド上に存在する限り、

フィールド上のモンスターは全て水属性として扱う。

また、お互いにライフを支払うことができない。

「さらにリリースしたツバキの効果で、もう一度通常召喚ができる！《龍皇の血族・ススキ》を召喚！」

え、そんな効果もあつたの！？

りゅうおう けつぞく

龍皇の血族・ススキ / Susuki - The Blood of Dragon-Roads

チューナー（効果モンスター）（パラクロオリジナル）

星4 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻1600 / 守1600

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在するレベル3以下の「龍皇」と名のついた

モンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターはフィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

このカードをシンクロ素材とする場合、ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

龍皇の血族・ススキ ATK / 1600

今度は学ランをきた少年が。

「ススキの効果！召喚時、墓地のレベル3以下の龍皇と名のついたモンスター1体を特殊召喚する！ツバキを特殊召喚！」

龍皇の末裔・ツバキ ATK/800

「さらに、ツバキが墓地から特殊召喚されたことにより、手札から《龍皇の式神・ミカン》を特殊召喚！」
今度は白い猫。何あれ可愛い。

龍皇の式神・ミカン / Mikān - The Servant
of Dragon-Roads

効果モンスター（パラクロリジナル）

星1 / 風属性 / 獣族 / 攻 100 / 守 100

自分の墓地に存在する「龍皇」と名のついたモンスターが特殊召喚に成功した時、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードがシンクロに使用された時、フィールド上のカード1枚を破壊する。

レベル合計は8。シンクロ召喚するのかな？

「レベル3・ツバキとレベル1・ミカンにレベル4・ススキをチューニング！」

3 + 1 + 4 = 8

龍皇の血を継ぐ者達よ、決戦の時は来た！
東に眠りし蒼き龍よ、我らに力を与えたまえ！
シンクロ召喚！我が袂に、蒼の力を！

「覚醒せよ、《海龍皇・リヴァイア》！」

海龍皇 - リヴァイア A T K / 2 4 0 0

… ちょっとやばいかも。

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「俺の知らないカード…か」

クレナ「大丈夫、蓮ならきつと勝てるよ！」

蓮「いや、無理だと思うけどね」

遥「次回、遊戯王パラレルクロス「龍皇の系譜」。見せてあげるわ、

【龍皇】の力を！」

蓮「次回もお楽しみにね」

第九話「最終鬼畜演説」（後書き）

はいどうも、クレセントです。

対戦相手のデッキは【龍皇】。完全なオリカシリーズとなっております。

あ、そうそう。

このサイトで使用された（パラクロオリジナル）と書かれたカードにつきましては、今度まとめて紹介します。

それでは、この辺で。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第十話「龍皇の系譜」(前書き)

オリカってwiki風に打つのすごいめんどいですね。
どうも、クレセントです。

【閻軸ドラゴン】vs【龍皇】、ついに決着…！

第十話「龍皇の系譜」

「レベル3・ツバキとレベル1・ミカンにレベル4・ススキをチュ
ーニング！」

3 + 1 + 4 = 8

龍皇の血を継ぐ者達よ、決戦の時は来た！
東に眠りし蒼き龍よ、我らに力を与えたまえ！
シンクロ召喚！我が袂に、蒼の力を！

「覚醒せよ、《海龍皇・リヴァイア》！」

はいどうも、蓮です。まさか、こんなに早くからオリ力に出くわす
なんて思ってたませんでした。
それでも、やっぱり俺はいつも通りにやる。それに限りますね。そ
れではどうぞ。

遊戯王パラレルクロス

第十話「龍皇の系譜」

海龍皇・リヴァイア/Leviathan - The Nep
tune of Dragon-Roads

シンクロ・効果モンスター（パラクロオリジナル）

星8 / 水属性 / ドラゴン族 / 攻？ / 守？

水属性チューナー+チューナー以外の水属性モンスター1体以上
相手はこのカードを特殊召喚することができない。

このカードの攻撃力と守備力は、フィールド上に存在する

水属性モンスターのレベルの合計×200ポイントとなる。

フィールド上に存在する水属性モンスターのレベルを1つ下げる

ことで、

相手フィールド上に存在するカードを1枚破壊する。

この効果はフィールド上に「海龍の神殿」が存在しない場合、
1ターンに1度しか使用することができない。

海龍皇 - リヴァイア ATK / ? ↓ 2400 (8 + 4)

現れたのは、東洋の龍。青龍って表現した方がわかりやすいかも。

「この瞬間、ミカンの効果を発動！そっち側のセットカードを破壊
する！」

セットカードが破壊された。破壊されたカードは七つ道具。

「さらに海龍皇 - リヴァイアの効果を発動！フィールド上の水属性
モンスターのレベルを1つ下げ、相手フィールドのカードを1枚破
壊する！ダーク・グレファアのレベルを2つ下げ、あなたのフィー
ルドを一掃するわ！タイダルウェイブ！」

…何そのチート効果。

リヴァイアが津波をおこし、俺のカードを全て飲み込んでいった。
もう1枚のセット、ミラーフォースも破壊されてしまった。

リヴァイア ATK / 2400 ↓ 1600 (8)

「海龍皇・リヴァイアでダイレクトアタック！ハイドロスプラッシュー！」

リヴァイアが水の砲弾を放った。

「くっつ」

蓮 LP 4000 - 1600 = 2400

「カードを1枚セットしてターンエンド！」
…きつついなー。

turn 3 Ren H1↓2 2400 VS 4000
H6↓2 Haruka

「俺のターン、ドロー」

あ、助かった。

「《トレード・イン》発動。手札のダーク・ホルス・ドラゴンを落として2枚ドローするよ」

トレード・イン

通常魔法

手札からレベル8のモンスターカードを1枚捨てる。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「ドロー。…あるえー？」

いや、引いたカードがこれって…。いや、待てよ？

「まずサイクロン発動。海龍の神殿を破壊」

「な！？」

神殿が竜巻に飲み込まれ、そのまま消えてしまった。今のサイクロン、すごい大きかった。

「墓地のディアボリックガイを除外して効果発動。デッキからディアボリックガイを特殊召喚するよ」
でてきたのは…うん、この人絶対ヒーローじゃなくて悪役だね。
そんな感じの人。

D・HERO ディアボリックガイ DEF / 800

「さらにデッキトップに手札を戻してゾンビキャリアを特殊召喚」
こいつは…なんて言えばいいんだろ？表現しずらいです。

ゾンビキャリア DEF / 200

「レベル6・ディアボリックガイにレベル2・ゾンビキャリアをチェーンング」

6 + 2 = 8

ひかり やみ はさま いっつい うつつ めだ とき
光と闇の狭間、一対の竜が目覚めし時、
せかい しゅうえん やくそく こくいん りゅう
世界の終焉は約束される。黒陰の竜よ、
しょうかん と はな ぜつぼう しゅうえん
シンクロ召喚。解き放て、絶望の終焉。 その姿を現せ。

「《ダークエンド・ドラゴン》、降臨」

ダークエンド・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2600 / 守2100

チューナー+チューナー以外の闇属性モンスター1体以上

1ターンに1度、このカードの攻撃力・守備力を500ポイント
ダウンし、

相手フィールド上に存在するモンスター1体を墓地へ送る事がで

きる。

黒い霧がフィールドを包みこむ。霧が消えると、そこには禍々しい黒龍がいた。

ダークエンド・ドラゴン ATK / 2600

「ダークエンドの効果発動。攻守を500下げ、相手フィールド上のモンスター1体を墓地送りにする。対象はもちろん海龍皇・リヴァイアです。ブラックアウト」

ダークエンドの体から黒い霧が湧き、リヴァイアを包み込む。ダークエンドの咆哮が轟くと、霧とともにリヴァイアは消滅した。

ダークエンド ATK / 2600 - 500 = 2100

伏せが怖いけど、今回は攻撃した方がいい気がした。

「ダークエンドでダイレクトアタック！バッドエンド・コンクルージョン！」

ダークエンドが黒いレーザーを放った。自分で言っただけで、すごい中二病。

「きゃあああ！」

遥 LP 4000 - 2100 = 1900

「このままターンエンド」

他に何か伏せるものがあればよかったんだけどね。

turn : 4 Ren H2 ↓ 0 2400 VS 1900
H2 ↓ 3 Haruka

「私のターン、ドロー！」

先輩の手札は3枚もある。もしかしたら、このターン中に決められるかもしれない。

「手札から、『天龍の神殿』を発動！」

あ、また別のフィールド魔法だ。

「今度は光属性よ。そして、お互いに手札を捨てることができなくなるわ！」

今度はフィールドが雲の上にある神殿になった。

天龍の神殿 / The Shrine of Uranus
フィールド魔法（パラクロオリジナル）

このカードがフィールド上に存在する限り、

フィールド上のモンスターは全て光属性として扱う。

また、お互いに手札からカードを墓地に送ることができない。

「相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールドにモンスターが存在しないとき、『龍皇の老師・ヤナギ』はリリースなしで召喚することができる！龍皇の老師・ヤナギを召喚！」

フィールドに…なんだろ、中国の孔子みたいな人が出てきた。

龍皇の老師・ヤナギ / Yanagi - The Hermit
of Dragon-Roads

チューナー（効果モンスター）（パラクロオリジナル）

星5 / 風属性 / 戦士族 / 攻1900 / 守1900

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。

このカードが召喚に成功した時、自分のデッキから

レベル2以下の「龍皇」と名のついたモンスター1体を
自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

龍皇の老師・ヤナギ ATK/1900

「龍皇の老師・ヤナギの効果発動！このカードを召喚したとき、デッキからレベル2以下の「龍皇」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する！《龍皇の巫女・サクラ》を特殊召喚！」
今度は巫女さんがでてきた。といっても巫女服は赤じゃなくて薄い桃色だけ。

龍皇の巫女・サクラ / Sakura - The Maiden
of Dragon-Roads

効果モンスター（パラクロオリジナル）

星2 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻 400 / 守 400

このカードがデッキからの特殊召喚に成功した時、

自分のデッキから「龍皇の式神・ミカン」1体を

自分フィールド上に特殊召喚する。

1ターンに1度、手札の「龍皇」と名のついたカード1枚を

デッキの一番下に戻すことで、このカードをエンドフェイズまで
チューナーとして扱う。

龍皇の巫女・サクラ DEF / 400

「さらに龍皇の巫女・サクラの効果発動！デッキから龍皇の式神・ミカンを特殊召喚！」

あ、式神ってそういうことだったんだ。

龍皇の式神・ミカン DEF / 100

はやいなー。また合計レベル8だ。今回は天龍の神殿だから天龍皇かな？

「レベル2・サクラとレベル1・ミカンにレベル5・ヤナギをチューニング！」

2 + 1 + 5 = 8

龍皇の血を継ぐ者達よ、決戦の時は来た！

西に眠りし白き龍よ、我らに力を与えたまえ！

シンクロ召喚！我が袂に、白の力を！

「覚醒せよ、《天龍皇・セラフィム》！」

現れたのは、天使の羽をもった西洋の龍。すごく綺麗です。

天龍皇 - セラフィム / Seraph - The Uranus
of Dragon - Roads

シンクロ・効果モンスター（パラクロオリジナル）

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻1400 / 守1400

光属性チューナー+チューナー以外の光属性モンスター1体以上
相手はこのカードを特殊召喚することができない。

このカードの攻撃力と守備力は、フィールド上に存在する
光属性モンスター1体につき500ポイントアップする。

このカードが戦闘以外でフィールドを離れる場合、
代わりにフィールド上に表側表示で存在する

光属性モンスター1体をリリースすることができる。

この効果はフィールド上に「天龍の神殿」が存在しない場合、
1ターンに1度しか使用することができない。

「そしてミカンの効果発動！ダークエンドを破壊するわ！」
ミカンが飛び出してきて、ダークエンドを思いきり引き裂いた。
…
何あの猫強い。

天龍皇・セラフイム ATK/1400+(500×1)＝1900

「天龍皇・セラフイムでダイレクトアタック！」

セラフイムが大きく翼を広げた。すると、俺の足元に魔法陣が。

「セレスティアルスター！！」

魔法陣がまばゆい光を放つ。…ていうかこの技名はいくらなんでもまずい気が。

「うわあああああああー！」

…うん、なんていうか、「うお、まぶしっ」じゃ済まされないレベル。

そう、あれだ。「生半可なナイトには真似できないホーリー」だ。

蓮 LP 2400-1900＝500

「私はこれでターンエンドよー！」

…さて、どうしようか…？

t o b e c o n t i n u e d . . .

クレナ「あ、危なかったー！」

蓮「いや、危なかったっていてもね…」

クレナ「どうしたの、蓮？まだ勝負はついてないよ？」

蓮「さっきゾンキヤリの時に戻したカードさ…おる埋なんだ」

おるかな埋葬^{まいそう}

通常魔法（制限カード）

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

クレナ「…え」

蓮「次回、遊戯王パレルクロス「メイン盾は砕けない」。負けフラグが硬すぎて折れないよ」

ゆみな「次回もよろしくお願いしますね！」

クレナ「ちよっと待って私のセリフ返してー！」

第十話「龍皇の系譜」（後書き）

決着できませんでした。サーセンw
どうも、クレセントです。

龍皇シリーズ、実はこの小説を書く前に形が整っていて、遊戯王小説を書きたいと思った原因の一つでした。

次回で決着がつくと思うので、もう少し、お待ちください。

それでは、クレセントでした。

あ、そうそう。活動報告に重大発表ですよー。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

4 / 1 0 1 9 : 5 2 ライフポイント修正。

第十一話「メイン盾は砕けない」（前書き）

ようやく決着ですよっと。

どうも、タイトルの無関係さに定評のあるクレセントです。

そろそろ一日一回更新がきつくなってきたよ。

第十一話「メイン盾は砕けない」

はいどうも、蓮です。只今、新入生歓迎デュエルにおいて桜咲先輩とデュエル中です。

先攻 蓮 LP 500 手札0枚

・ 何もなし。

・ turn・3でデッキトップに《おろかな埋葬》が。

後攻 遥 LP 1900 手札1枚

・ 天龍皇 - セラフィム (ATK/1900 || 1400 + 500)
・ セット1枚

…これをどうしろと。

遊戯王パラレルクロス

第十一話「メイン盾は砕けない」

turn・5 Ren HO ↓ 1 500 VS 1900 H
3 ↓ 1 Haruka

「俺のターン、ドロー」

ドロ―したカードを確認…しなくていいや。ゾンキヤリるときに戻したおる埋だから。

今はこのカードで《ネクロ・ガードナー》を落とすこと以外にやることがない。

「手札から《おろかな埋葬》を発動。デッキが『ビー・ビー・ビー』…なんぞ?」

デュエルディスクからエラー音っぽい機械音が。俺なんか変なことしたっけ?

『スタンバイフェイズ《封印の黄金櫃》の効果を適用してください。』

…あ、忘れてた。

「櫃効果忘れてました。ダーク・クリエイターを手札に加えます」なるほど、だからエラーが出たのか。…いや、加えたのはいいけどね。

「とりあえず、おる埋発動です。デッキから《ネクロ・ガードナー》を墓地へ」

とりあえずネクロ・ガードナーは墓地に送っておく。

手札にあるのはダーク・クリエイターのみ。

…墓地闇いま何体だっけ?

えーっと、ネクガ、ディアボ、ダグレ、ダクホル、ダクエン。…あ、ちようどう体いた。

「蓮!」

「はい!」

体育館にいきなり響いた輪廻の声。このタイミングで何?

「今こそあのセリフを言うんだ!」

…あれかー。あのセリフかー。

…わかったよ、やればいいんでしょ、やれば。
その前に1回深呼吸。…よし！

「女神から授かった5つの闇の力が墓地にそろったぜ！
《ダーク・クリエイター》召喚！」

俺がセリフを言い終わると同時に、フィールドに黒い雷が落ちた。
そこから、このデッキの要、《ダーク・クリエイター》が姿を現した。

ダーク・クリエイター ATK/2300

…今笑った奴、頼むから後で蹴らせて。

「さて、ダーク・クリエイターの効果発動！墓地のディアボリック
ガイを除外し、ダーク・ホルス・ドラゴンを特殊召喚！」

ダーク・ホルス・ドラゴン ATK/3000

「セラフィムの攻撃力は？」

「…2900よ」

天龍皇 - セラフィム ATK/1400 + (500 × 3) = 2900

よし、なんとか上回った！

「バトルフェイズ入ります！ダークホルスでセラフィムを攻撃！ブラック・フレアバースト！」

「きゃあ！」

ダークホルスの放った黒炎がセラフィムを焼き尽くし、先輩にも少しだけダメージを与えた。

遥 LP 1900 - 100 = 1800

これで終わりかな。

「ダーク・クリエイターでダイレクトアタック！」

頼む、きまってくれ…！

「暗黒の雷よ、敵を撃ち落とせ！ライティング・デス・バースト！
！」

暗黒の雷が先輩に向かって放たれる。

「リバーズカードオープン！トラップカード発動…！」

やっぱりその伏せはトラップカード…！

「《ディメンション・ウォール》…！」

ディメンション・ウォール

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

この戦闘によって自分が受ける戦闘ダメージは、かわりに相手が受ける。

先輩に攻撃が当たる直前、先輩の目の前に次元の渦が発生し、雷を飲み込んだ。

そして、俺の真上に似たような次元の渦が…。

「…ですねー」

「2300ダメージ、反射!!」

暗黒の雷が、落ちました。

…俺に向かって。

「うわあああああああ!!」

うん、まあそうなるよね。

勝てるなんて初めから思ってたよ。

蓮 L P 5 0 0 - 2 3 0 0 = 0

遥 W I N

「以上で、入学式を終了します。生徒の皆さんは、・・・」

というわけで、負けました。はいどうも、蓮です。

寮に荷物を置いてきて、今は教室にいます。

俺のクラスはR組。オベリスクブルーがB組、ライエローがY組、オシリスレッドがR組になってるそう。

ちなみに輪廻と拓斗はライエロー、音姉とゆみなと優姫さんはオベリスクブルーでした。

そうそう。アニメのGXと違って、女子生徒がライエローにもオシリスレッドにもちゃんといますよ。

あとは、桜井遊人と雪風理央の2人もオシリスレッドでした。遊人は実技で194点を叩き出し合格。理央さんは筆記の方で合格したそうです。

…ということを今、俺の前の席にいる遊人から聞きました。

「ちなみに理央は実技16点だったぜ」

「…はい？」

「実はな…」

「…うわあ。」

遊人いわく、理央さんは先攻2ターン目、武藤先生に某虫野郎のごとく

「何勘違いしているんだ…」

「え？」

「まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！」

「でも、もう先生のモンスターは攻撃を終了したじゃないですか！」

「速攻魔法発動！《バーサーカーソウル狂戦士の魂》！！！」

を発動され、理央さんが発動していた《強者の苦痛》により攻撃力1500になった《クルセイダー・オブ・エンディミオン》にライフ8000を削りきられ、その上から7回も追加攻撃される、という悲惨な負け方をし、その結果が実技16点を叩き出した、ということだそうです。…狂戦士の魂、見たかったな。

「あ、そういえばあの兄妹は？」

「ああ、クロノとフィリアなら2人ともオベリスクブルーだ」

あ、そうなんだ。実技が終わってすぐ散歩しに行っちゃったからデユエルは見てないんだよね…。

「席に着けー。ホームルーム始めるぞー」

あ、武藤先生だ。そういえばR組の担任、武藤先生だっけ。

「改めて自己紹介だ。R組の担任、武藤零次だ。さっきも言った通り、担当教科は実技と数学だ。これから1年間、よろしくな。・・・」

「

今日から、デュエルアカデミアでの学園生活が始まる。

ほんと、厄介事に巻き込まれなければいいんだけどね…。

「あ、最後に。授業は明日からだからな」

「「「早っ!?!」」」

t o b e c o n t i n u e d . . .

蓮「はいどうも、蓮です。というわけで負けました。楽しかったからいいけどね。ちなみにあの後、音姉に笑われたので飛び蹴りしておきました。

というわけで、次回、遊戯王パラレルクロス「前略、昼休みにて」。
お楽しみに」

音羽「次回もお楽し「そげぶ!」ふにゃあ!」」

第十一話「メイン盾は砕けない」(後書き)

やっと学園物になった…。

昨日、リアルで先攻1ターンクエーサーを決められ詰みました。
とくに話がいつかないのでこの辺で。
クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第十二話「前略、昼休みにて」（前書き）

今回はものっそいみじかいよ！

あと、オリ力注意です。今更だけどね。

第十二話「前略、昼休みにて」

はい、どうも。

今、授業初日4時間目。あと五分で昼休みです。今日は、アカデミア名物「ドローパン」を買ってこようと思います。やっぱりアカデミアと言ったらドローパンだね。「キーンコーンカーンコーン」よし、行つてきまーす。

遊戯王パラレルクロス

第十二話「前略、昼休みにて」

はい、というわけで買ってきましたよドローパン。1個110円でした。内訳は、

蓮：3個

遊人：7個

理央：4個

拓斗：6個

輪廻：8個

音羽：4個

ゆみな：3個

優姫：4個

クロノ：6個

フィリア：3個

と、こんな感じ。どうやらみんな同じことを考えてたみたいで、購買でばったり。そして今、俺たちは中庭にいます。え、俺のが少ない？いつもこれぐらいだよ。

「さて、お前たちに集まっていたいたのは他でもない」
輪廻が話を始め

「いや、明らかに偶然だったからな？」
「……られませんでした。さすがクロノさん、仕事が速い。」

ここからの数分間はあまり覚えていないので省略。とりあえず、これから開封していきます。順番は名乗り出た順に。要は早い者勝ち。

turn・1 Rinné 1/8

「俺のターン、ドロー！」

あ、やっぱそう言っただけ開けるんだ。
バリバリ。

「……どう？」

優姫が心配そうに尋ねる。

「……普通にあんパンかよ」

はずれた。

次は俺の番。

「…そい」

バリバリ。あれ、みんなの「空気読め」的な視線が痛い。なんで？

…と、とにかく中身を確認しよう。

「…具なしだ」

あ、みんな続き始めちゃった。…しょぼーん。

そういえば具なしパンってカード付きだっけ。開けてみよっと。

バリイ…うん？

粹の色は緑。魔法カードだ。

少し出してみる。うん、スーレア。

全部出してみた。お、見たことないカード。どれどれ…？

《うんめいさいへん運命再編・コンティニウムシフト/Continuum Shift
if t》

通常魔法（パラクロオリジナル）

自分の墓地に召喚に失敗したシンクロモンスターが存在するとき、そのカード1枚をエクストラデッキに戻して発動する。

そのモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地に送られたモンスターを

全てフィールドに戻す。

このカードを発動する場合、このターン自分はシンクロ召喚のみ行うことができる。

…なるほど。要するに『シンクロのやり直し』ってところかな？意外と面白い効果。後でデッキに入れてみよっと。

t u r n . - R e n 2 / 3

2パック目、開封。

「まそつぷ」

うん、無理。1人でテンション上げるの、すごく辛い。バリバリ。

「…」

ただだよ（笑）

具なしパン、テイク2。

ま、まあさっきみたいに希少カードが当たると考えれば…
というわけで2枚目、バリィ。
パックを開けると、中には…

真っ白なカード。

「…クレナ」

『どうしたの、蓮』

「これを見てくれ。こいつをどう思う？」

『すごく…エラーカードです………』

絵柄まで真っ白とかもうね。

… 気を取り直して3パック目、逝ってみよう！

t u r n . - R e n 3 / 3

「… キョアーオー！」

元ネタは某フリーゲームの断末魔。ゆめにつき知ってる人いるかな？
バリバリ。

… せめて。 せめてさ。

調味料ぐらい、欲しかったな…。

はい、具なしパン。テイク3。

3パック買って全部具なしとかもうね。別にカードを手に入れるために中の具をリリースしたつもりはないんだけどな。

中のパックを開けよつと。エラーカードじゃありませんように。

バリイ。

カードの枠は濃い茶色。光り方からして、これは…！

「シークレットレア!？」

カードを取り出して、中を確認。

《ドラグニティアームズ・キャリバーン / Dragunity Arm Caliburn》

効果モンスター（パラクロオリジナル）

星10 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2200

このカードは「ドラグニティ」と名のついた

モンスター1体をリリースして表側攻撃表示で

アドバンス召喚する事ができる。
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、
「ドラグニティアームズ-キャリバーン」以外の
墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択して
装備カード扱いとしてこのカードに装備し、
装備したモンスターの効果を得る。
このカードが相手によって墓地へ送られた時、
装備カード扱いとしてこのカードに装備された
モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

.....(。A。)

t o b e c o n t i n u e d . . .

輪廻「フタエノキワミアツー！」バリバリ。
ゆみな「あ、ジャムパンだ！」
フィリア「私のターン、ドロー！」バリバリ。
拓斗「あ、黄金の卵パン」
遊人「ドロー！モンスターカード！」バリバリ。
理央「やめてえ！」
クロノ「お前ら少しは静かに食べえ！」
優姫「…次回、遊戯王パラレルクロス「運命なんてなかった」。(バリバリ)あ、具なしパン」
音羽「次回もお楽しみに！」

第十二話「前略、昼休みにて」（後書き）

はいどうも、クレセントです。

昨日から授業がはじまったんですが。

英語W・数？C・数演習・英語R・お昼・化学

ひどいつすよこれ！なんで午前中に英語と数学が2時間ずつ！？

あと、ついに小説同士のコラボに取り掛かる準備ができました。

ありとあらゆる世界の主人公達、
君たちの挑戦まっ！「エクス…」ん？「…カリバー！！！」ぐふお
お！

DISTORTION FINISH

CRESCENT LOSE

？「調子のんな！」

go to next chapter...

4 / 12 16 : 07

《ドラグニティアームズ・キャリアバーン》のテキスト修正。

4 / 1 2 1 6 : 5 2
《ドラグニティアームズ・キャリバーン》のテキスト再修正。

EX2「運命なんてなかった」(前書き)

やあ (´・ω・｀)

ようこそ、メタ世界へ。

この麦茶はサービスだから、まず飲んで落ち着いて欲しい。

うん、「また」なんだ。済まない。

仏の顔もって言うしね、謝って許してもらおうとも思っていない。

でも、このタイトルを見たとき、君は、きっと言葉では言い表せない
「おまけ」みたいなものを感じてくれたと思う。

殺伐とした世の中で、そういう気持ちを忘れないで欲しい
そう思っ、このタイトルをつけたんだ。

じゃあ、注文を聞こうか。

EX2「運命なんてなかった」

遊戯王パラレルクロス

EX2「運命なんてなかった」

蓮「・・・、というわけなんだけど、いいかな？」

クレセント「なんだ、そんなことか。いいぜ」

蓮「じゃあ、俺も何か手伝おうか」

クレセント「大丈夫だ、問題ない」

蓮「わかった。じゃ、あつちで麦茶のんでくる」

クレセント「と、いうわけで、12話までに登場したオリカ、および現時点でこの世界に存在する【龍皇】シリーズの全カードを公開するぜ。当然、未公開のカードも存在するため、注意してくれ」

《龍皇^{りゅうおう}の末裔^{まつえい} - ツバキ / Tsubaki - The Desce
ndant of Dragon-Roads》

効果モンスター

星3 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻 800 / 守 800

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードをリリースして発動する。

自分のデッキから「神殿」と名のついたフィールド魔法を1枚選択し、発動する。

この効果を使用したターン、自分はもう一度だけ「龍皇」と名のついたモンスター1体を召喚することができる。

カードイラストは、セーラー服を着た少女。

《龍皇の血族 - ススキ / Susuki - The Blood of Dragon - Roads》

チューナー（効果モンスター）

星4 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻1600 / 守1600

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在するレベル3以下の「龍皇」と名のついたモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターはフィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

カードイラストは、学校の制服を着た少年。

《龍皇の式神 - ミカン / Mikan - The Servant of Dragon - Roads》

効果モンスター

星1 / 風属性 / 獣族 / 攻 100 / 守 100

自分の墓地に存在する「龍皇」と名のついたモンスターが特殊召喚

に成功した時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。
このカードがシンクロに使用された時、フィールド上のカード1枚を破壊する。

カードイラストは、白い猫。

《龍皇の老師 - ヤナギ / Yanagi - The Hermit
of Dragon-Roads》
チューナー（効果モンスター）

星5 / 風属性 / 戦士族 / 攻1900 / 守1900
相手フィールド上にモンスターが存在し、
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、
このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。
このカードが召喚に成功した時、自分のデッキから
レベル2以下の「龍皇」と名のついたモンスター1体を
自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

カードイラストは、古代中国の哲学者。

《龍皇の巫女 - サクラ / Sakura - The Maiden
of Dragon-Roads》

効果モンスター

星2 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻400 / 守400
このカードがデッキからの特殊召喚に成功した時、
自分のデッキから「龍皇の式神 - ミカン」1体を
自分フィールド上に特殊召喚する。

1ターンに1度、手札の「龍皇」と名のついたカード1枚を
デッキの一番下に戻すことで、このカードをエンドフェイズまで

チューナーとして扱う。

カードイラストは、桃色の巫女服を着た少女。髪はひざぐらいまで。

クレセント「次は神殿関係だ」

《海龍の神殿 / The Shrine of Neptune》
フィールド魔法
このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上のモンスターは全て水属性として扱い、お互いにライフを支払うことができない。

カードイラストは、海の底の神殿。

《天龍の神殿 / The Shrine of Uranus》
フィールド魔法
このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上のモンスターは全て光属性として扱い、お互いに手札からカードを墓地に送ることができる。

カードイラストは、雲の上の神殿。

《地龍の神殿 / The Shrine of Earth》
フィールド魔法

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上のモンスターは全て地属性として扱い、お互いにカードを除外することができない。

カードイラストは、地底遺跡内の神殿。

《冥龍^{めいりゅう}の神殿^{しんでん} / The Shrine of Pluto

フィールド魔法

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上のモンスターは全て闇属性として扱い、お互いにモンスターをリリースすることができない。

カードイラストは、暗闇の中の神殿。

クレセント「最後に、神殿に眠る龍皇。各神殿に1体ずつだ」

《海龍皇^{かいりゅうおう}・リヴァイア / Leviathan - The Neptune of Dragon-Roads

シンクロ・効果モンスター

星8 / 水属性 / ドラゴン族 / 攻？ / 守？

水属性チューナー＋チューナー以外の水属性モンスター1体以上相手はこのカードを特殊召喚することができない。

このカードの攻撃力と守備力は、フィールド上に存在する水属性モンスターのレベルの合計×200ポイントとなる。

フィールド上に存在する水属性モンスターのレベルを1つ下げるこ

とで、相手フィールド上に存在するカードを1枚破壊する。
この効果はフィールド上に「海龍の神殿」が存在しない場合、1ターンに1度しか使用することができない。

《てんりゅうおう天龍皇 - セラフイム / Seraph - The Uranus
of Dragon - Roads》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻1400 / 守1400

光属性チューナー+チューナー以外の光属性モンスター1体以上

相手はこのカードを特殊召喚することができない。

このカードの攻撃力と守備力は、フィールド上に存在する光属性モンスター1体につき500ポイントアップする。

このカードが戦闘以外でフィールドを離れる場合、代わりにフィールド上に表側表示で存在する光属性モンスター1体をリリースすることができる。

この効果はフィールド上に「天龍の神殿」が存在しない場合、1ターンに1度しか使用することができない。

《ちりゅうおう地龍皇 - ラタトスク / Ratatoskr - The Earth
of Dragon - Roads》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 地属性 / ドラゴン族 / 攻4000 / 守4000

地属性チューナー+チューナー以外の地属性モンスター1体以上

相手はこのカードを特殊召喚することができない。

このカードの攻撃力と守備力は、フィールド上に存在する

地属性以外のモンスター1体につき800ポイントダウンする。

このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

フィールド上に「地龍の神殿」が存在しない場合、この効果は無効になる。

《冥龍皇 - バハムート / Bahamut - The Pluto
of Dragon-Roads》

シンクロ・効果モンスター

星8 / 閻属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守3000

閻属性チューナー+チューナー以外の閻属性モンスター1体以上

相手はこのカードを特殊召喚することができない。

フィールド上に「冥龍の神殿」が存在する限り、相手はモンスターを特殊召喚する効果を含む効果モンスターの効果・魔法・罠カードの発動、およびモンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚を無効にすることができる。

1ターンに1度、ライフを半分払うことで自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を自分フィールド上に攻撃表示で特殊召喚することができる。

クレセント「【龍皇】シリーズは以上だ。あとは、蓮がドロップンであてたカード2枚だな」

《運命再編 - コンティニウムシフト / Continuum Shift
if t》

通常魔法

自分の墓地に召喚に失敗したシンクロモンスターが存在するとき、そのカード1枚をエクストラデッキに戻して発動する。

そのモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地に送られたモンスター

ーを全てフィールドに戻す。
このカードを発動する場合、このターン自分はシンクロ召喚のみ行うことができる。

《ドラグニティアームズ・キャリバーン／Dragunity Arm Caliburn》

効果モンスター

星10／風属性／ドラゴン族／攻3000／守2200

このカードは「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体をリリースして表側攻撃表示で

アドバンス召喚する事ができる。

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、「ドラグニティアームズ・キャリバーン」以外の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択して装備カード扱いとしてこのカードに装備し、装備したモンスターの効果を得る。

このカードが相手によって墓地へ送られた時、装備カード扱いとしてこのカードに装備されたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

カードイラストは、黄金の体、藍色の眼、虹色の剣を手に持つ騎士竜。

クレセント「…こんなところだな」

蓮「あ、終わった？」

クレセント「ああ、なんとかな」

蓮「ありがとね、助かったよ」

クレセント「礼には及ばないぜ」

蓮「それじゃ、そろそろ行ってきます」

クレセント「ああ」

t o b e c o n t i n u e d . . .

EX2「運命なんてなかった」(後書き)

…なんだ、まだいたのか？

「――」

ああ、こっちも準備OKだ。

「――」

よし、始めようか。

「「ラ・ヨダソウ・ステイアーナ」」

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

4 / 1 4 0 1 : 0 9

《冥龍皇・バハムート》のテキストを修正

6 / 3 1 3 : 1 7

《地龍皇・ラタトスク》、《冥龍皇・バハムート》のテキストを修正。
正。

第十三話「ラ・ヨダソウ・ステイアーナ」(前書き)

ちくしょう。

昨日変なこと言ったからタイトルが変なことに。

第十三話「ラ・ヨダソウ・ステイアーナ」

あ、どうも。蓮です。

投稿が遅くなつてすいません。クレセントが風邪ひいて寝込んでました。

とりあえず、第十三話、どうぞ。

遊戯王パラレルクロス

第十三話「ラ・ヨダソウ・ステイアーナ」

S i d e ・ R e n ↓ C h r o n o

…話をしよう。

あれは今から3日、いや2日前だったか。

クレセントが風邪をひいて寝込んだんだが、まあいい。

俺たちにとってはつい昨日の出来事だ。

あれは、午後の授業が終わって、帰りのホームルームの時だった…。担任の秋本先生が3クラス合同で実技の授業を行うと言い出した。そこまではまだよかった。問題は、この後。

先生が面白半分に放った一言が、クラスを混乱の渦に巻き込んだ。

「そうそう。他のクラスに負けたやつは処刑だから」

…これだけでは解りにくいだろうから、注釈を加えておく。

”今年度のクラス分けに実技の成績はほとんど影響していない”

これは、試験官・武藤零次が担当した実技試験に起因する。

入学時の実技試験は教員採用試験と同時進行で行っている。

この時、武藤零次は空見蓮を除く全受験生（356人）に勝利。しかも平均点を29点（300点中である）にまで叩き落とした。そのせいで、実技の合格点が180点から60点にまで下げられてしまったほどだ。

…おわかりいただけたであろうか？

つまり、現時点で3クラス間における実力差はほとんどゼロ。

その上オシリスレッドには、今では”死神”とさえ呼ばれている武藤先生に唯一勝利した空見蓮がいる。

他にも友人かつ強敵である遊人や雪風がいるし、ライイエローにも

スキドレ使いの輪廻がいる。
もし彼らに当たれば秋本先生が言う処刑は免れないだろう。
つまりはそういうことだ。

そして、当日。

「勝者、オシリスレッド・雪風理央！」

1人、また1人と処刑が確定していく。

「次、オベリスクブルー・望月フィリア！」

「は、はい！」

お、次はフィリアか。

「じゃあ行ってくるね、お兄ちゃん！」

「ああ、頑張れよ」

「うん！」

あいつなら、まあ大丈夫だろうーそう思っていた時期が、俺にもありました。

「オシリスレッド・空見蓮！」

「はい」

フィリア、悪い。今の俺には、お前の勝つ未来が見えない……！

side・Chrono ↓ Ren

はいどうも、蓮です。

今、3クラス合同で実技の授業中です。

「オシリスレッド・空見蓮！」

あ、呼ばれた。

「はい」

行つてきます。

「デュエル！」 「デュエル」

「私の先攻！ドロー！」

…もう、つつこまなくていいよね？

先攻 望月フィリア LP/4000

後攻 空見蓮 LP/4000

turn・1 Filia H5 ↓ 6 4000 VS 4000
0 H5 Ren

「私はモンスターをセット！さらにカードを2枚伏せターンエンド！」

あれ、結構速く終わった。

t u r n . 2	F i l l i a	H 6 ↓ 3	4 0 0 0	V S	4 0 0
0	H 5 ↓ 6	R e n			

「俺のターン。ドロー」

…おー。

「ダーク・グレファアを召喚」

おなじみの黒いhー（自主規制）が出てきた。…なんだ今のピー音。

ダーク・グレファア A T K / 1 7 0 0

「効果発動。手札の《ダーク・ネフティス》を落としてデッキのネクガ落とすよ」

ダグレさん毎度お疲れさまでーす。

ダーク・ネフティス

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻2400 / 守1600

自分の墓地に闇属性モンスターが3体以上存在する場合、

その内2体をゲームから除外する事でこのカードを手札から墓地に送る事ができる。

この効果で墓地に送られた場合、次の自分のスタンバイフェイズ時に

このカードを墓地から特殊召喚する。
このカードの特殊召喚に成功した時、
フィールド上に存在する魔法または罫カード1枚を破壊する。

「バトルフェイズ。ダーク・グレファアで攻撃。えーっと、切り裂け！」

ごめん、技名が思いつかなかった。今度考えとく。

マジシャンズ・ヴァルキリア DEF / 1800

あれ、硬かった。

マジシャンズ・ヴァルキリア
効果モンスター

星4 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻1600 / 守1800
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、
相手は表側表示で存在する他の魔法使い族モンスターを
攻撃対象に選択する事はできない。

蓮 LP 4000 - 1000 = 3900

「えーっと、じゃあカードを2枚セットしてターンエンド」
【魔法使い族】かー。ちょっと厳しいかな？

turn 3 Filia H3 ↓ 4 4000 VS 390
0 H6 ↓ 2 Ren

「私のターン、ドロー！」

フィリアさんがカードをドローする。まだ大きな動きはないと思うけど…

「私は、手札から《魔法族の里》を発動！」

あ、まずいの来た。フィールドが森の中の村に変わっていく。

まほうぞく さと
魔法族の里

フィールド魔法

自分フィールド上にのみ魔法使い族モンスターが存在する場合、相手は魔法カードを発動する事ができない。

自分フィールド上に魔法使い族モンスターが存在しない場合、自分は魔法カードを発動することができない。

「さらに《一族の結束》を発動！」

いちぞく けっそく
一族の結束

永続魔法

自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が

1種類のみの場合、自分フィールド上に表側表示で存在するその種族のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする。

「そして、《魔導師の力》をマジシャンズ・ヴァルキリアに装備！」

まどうし ちから
魔導師の力 装備魔法

装備モンスターの攻撃力・守備力は、

自分フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚につき

500ポイントアップする。

マジシャンズ・ヴァルキリア ATK/1600+(500×5)

114100

あ、まずいかも。

「マジシャンズ・ヴァルキリアを攻撃表示にしてバトルフェイズ！
ダーク・グレファアを攻撃！」

ヴァルキリアの杖に光が溜まっていく。

「ホーリーブラスト！」

杖から放たれた光が黒い剣士に当たり、剣士は光に飲まれ消滅した。
「いたっ」

蓮 LP 3900 - 2400 = 1500

「モンスターをセットしてターンエンド！」
里と4100が1体か…。

turn . 4 Filia H 4 ↓ 0 4000 VS 150
0 H 2 ↓ 3 Ren

「俺のターン。ドロー」

ひいたカードを確認して…お。

「えーと、墓地に闇が3体。《ダーク・アームド・ドラゴン》を特殊召喚するよ」

このドローは驚いた。

ダーク・アームド・ドラゴン

効果モンスター（制限カード）

星7 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2800 / 守1000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に存在する闇属性モンスターが3体の場合のみ、
このカードを特殊召喚する事ができる。

自分のメインフェイス時に自分の墓地に存在する閻属性モンスター1体を

ゲームから除外する事で、

フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

「攻撃力2800をリリース無しで!？」

あ、驚くのそこなんだ。

「ダークアームドの効果発動。墓地のネフティスを除外して、マジシャンズ・ヴァルキリアを破壊。ダーク・エッジ」

ダークアームドの咆哮が轟いた。すると地面から無数の刃が飛び出し、ヴァルキリアを切り裂いて破壊した。

「魔法使いがいなくなったから、魔法は使えるね。アームズ・ホール発動。デッキトップを落としてデッキからD・D・Rを加えるよ」
落ちたカードは…うわ、蘇生落ちた。

「バトルフェイズ。ダークアームドで裏守備に攻撃。ブラック・レインエッジ」

相手モンスターが表になる。表になったモンスターに刃の雨が降り注ぐ。

「トラップ発動!《D2(ディーツー)シールド》!」

ディーツー

D2シールド

通常罠

自分フィールド上に表側守備表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの守備力は、元々の守備力を倍にした数値になる。

表になったモンスターは少女だろうか、D2シールドの力を借りて何とか防ぎきった。

蓮 LP 1500 - 2000 = 1300

『…ふう、びつくりしたー』

…そこにいたのは。

「大丈夫、エリア？」

『ええ、なんとかね』

すいれいつか
水霊使いエリア

効果モンスター

星3 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻 500 / 守 1500

リバース：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の水属性モンスター1体のコントロールを得る。

…なぜに《水霊使いエリア》？

t o b e c o n t i n u e d . . .

クロノ「なあ天河」

音羽「ん、何？」

クロノ「あいつのデッキ、闇属性以外入ってるか？」

音羽「ううん。昨日の夜に蓮とデュエルしたけど、あのデッキはエ

クストラ以外全部闇属性だよ」

クロノ「そうか…終わったな、フィリア」

ダルク「次回、遊戯王パラレルクロス「五つの光」。ちょうどいい機会だ。蓮、あいつ”ら”をぶっ飛ばしてきてくれ」

蓮「わかったー。それじゃ、次回をお楽しみにー」

第十三話「ラ・ヨダソウ・ステイアーナ」（後書き）

俺、復活！

はいごめんなさい。寝込んでました。クレセントです。

フィリアのデッキ、お分かりいただけたでしょうか。

あと、一日一回更新、無理でした。さすがにリアル世界の難易度が高すぎます。

それでも、なんとかして書いていこうと思うので、応援よろしくお願いします。

あと、感想やオリカのほうも頂けるとありがたいです。

（主に罪悪感から）クレセントのモチベーションが上がります。

それでは、この辺で。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

4 / 1 7 1 3 : 1 6

《一族の結束》の効果が適用されないため《魔導師の力》を追加。
葦切さん、ご指摘ありがとうございました。

4 / 1 8 1 5 : 4 5

墓地の閻属性の枚数調整のため《トレード・イン》を削除。

4 / 2 9 1 3 : 4 2

墓地の調整のためゾンビキャリアをダーク・ネフティスに修正。

EX3「五つの光」(前書き)

どうも、クレセントです。

今回は生存報告を兼ねた、PSPからのテスト投稿になります。
そのため、今回の話は特に読まなくても問題はありません。

母親にドヤ顔でパソコンを没収されたのぜorz

EX3「五つの光」

クレセント「粉 バナナ（これは罠だ）！」

蓮「うるさい」

遊戯王パラレルクロス

EX3「五つの光」

蓮「何があったのさクレセント。突然俺の部屋をメタ世界にしたりして」

クレセント「母親にパソコンをボツシュートされた」

蓮「はい？」

クレセント「だから、しばらくの間小説が書けなくなった」

蓮「ちょっと待って？それって、つまりは昨日の実技試験の内容が更新できないってこと？」

クレセント「その通りだ。現にこの話、EX3はパソコンじゃなくPSPで書いているからな」

蓮「馬鹿でしょ」

クレセント「ああそくだよ！俺は馬鹿だ！馬鹿で何が悪い！」

蓮「おい、勉強しろよ」

クレセント「大丈夫だ、問題ない」

蓮「今の間は何！？ていうか絶対にだいじょばないよねえ！？」

クレセント「おいイ？おまえら今のセリフ聞こえたか？」

蓮「聞こえた！確かに言ったよ！俺のログにもちゃんとある！」

クレセント「なん・・・だと・・・！？」

蓮「ふっ、俺があフロントさんの謙虚なナイトを知らないとでも？」

クレセント「勝ったと思うなよ・・・」

蓮「もう勝負ついてるから。あれ、ク

EX3「五つの光」(後書き)

あ、どうも。蓮です。

なんかPSPのスペックが限界に達したみたいで、文が途中で切れちゃいました。

クレセントにはちゃんと勉強するように言っておきましたので、ご安心を。

次回、遊戯王パラレルクロス「未知の輝き」。

まあ、相変わらずタイトルに意味はないんだけどね。

それでは、また。クレセントの試験が無事に終わったら、またお会いしましょう。蓮でした。

第十四話「未知の輝き」(前書き)

俺、復活！

どうも、クレセントです。遅くなりました！1週間ぶりの更新です！

第十三話の修正により、蓮のLPが大きく変化しています。見ていない方は、先にそちらを見ることをお勧めします。

あと、地の文とセリフを試験的に1行ずつ空けてみます。

それと、フィリアのデッキ。切り札は、まさかの…？

第十四話「未知の輝き」

先攻 フィリア LP 4000 手札0枚

- ・ 水霊使いエリア（DEF/3000〃1500x2）
- ・ 魔法族の里（適用中）
- ・ 一族の結束（適用中）
- ・ セット1枚

後攻 蓮 LP 1300 手札2枚

- ・ ダーク・アームド・ドラゴン（ATK/2800）
- ・ セット2枚

うーん、やる事が無くなったよ。今墓地の闇属性を除外する必要もないし…

「このままターンエンドだよ」

このまま様子見かな？

遊戯王パラレルクロス

第十四話「未知の輝き」

turn・5 Filia HO↓1 4000 VS 1300

0 H3↓2 R e n

「私のターン、ドロー!…よし!」

…あれ、なんかいやな予感が。

「《火霊使いヒータ》を召喚!」

『よっしゃ、あたしの出番だな!』

かれいつか
火霊使いヒータ

効果モンスター

星3 / 炎属性 / 魔法使い族 / 攻 500 / 守1500

リバース：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の炎属性モンスター1体のコントロールを得る。

火霊使いヒータ ATK / 500

「空見君」

「ん?」

「見せてあげるわ、私だけの召喚方法を!」

「…え?」

「レベル3、《水霊使いエリア》と《火霊使いヒータ》をオーバー

レイ！」

水と火、相反する二つの力が交わりし時、
大いなる魔術が蘇る！エクシーズ召喚！

「来て、《氷炎の霊使いミステイ》！」

《氷炎の霊使いミステイ / Misty the Temperat
ure Charmer》

エクシーズ・効果モンスター（パラクロオリジナル）

ランク3 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻1800 / 守1500

「水霊使いエリア」+「火霊使いヒータ」

このカードはリリースすることができない。

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除く事
で、

フィールド上に存在する水属性または炎属性モンスター1体をリ
リースし、

リリースしたモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手ライ
フに与える。

この効果は相手ターンでも使用することができる。

また、このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ
送った時、

相手の手札を確認し、カードを1枚選択して墓地に送る。

氷炎の霊使いミステイ ATK / 1800 + 800 = 2600

現れたのは、水色のウェーブがかかった髪をした赤い目の少女。杖
には上下にそれぞれ青と赤の宝石が埋め込まれている。

「…ふう。私を呼んだってことは、よっぽど厄介な相手なのかしら？」

「うん。お願い、ミステイ！」

ちょっと待てっ！よりによってエクシーズ！？

「バトル！ミステイでダーク・アームド・ドラゴンに攻撃！ダメージ計算時に速攻魔法《れいつか霊使いの結束けっそく／Unity of Charmers》を発動！」

《れいつか霊使いの結束けっそく／Unity of Charmers》
速攻魔法（パラクロリジナル）

自分フィールド上の「霊使い」と名のついたモンスターが
戦闘を行うダメージ計算時に発動することができる。

このターン、「霊使い」と名のついたモンスターと戦闘を行う
モンスターの攻撃力・守備力はエンドフェイズ時まで半分になる。

ダークアームド ATK／2800 - 1400＝1400

「ミスティックフレア！」

「はああっ！」

杖から放たれた氷と炎の魔法がダークアームドを…なんて言えはいのかな？メドローアみたいな魔法で消し去った。

「くっ」

蓮 LP 1300 - 1200 = 100

「さらにミステイの効果発動！戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手の手札を確認してそのうち1枚を捨てさせる！」

手札がソリッドビジョンで表示される。D・D・Rとダーク・クリエーター。

「ダーク・クリエーターを捨ててもらっわー！ミステイ、お願い！」

『わかりましたわ！真水靈術 - 「氷柱」^{氷柱}！』

「くっ！」

当然、ダクリを落とされた。

「ターンエンド！」

これ、勝てなくね？

turn : 6 Filia H1 ↓ 0 4000 VS 100
H1 ↓ 2 Ren

「俺のターン。ドロー」

…うわ、ここでこれ引く？まあいいや。

「セットしてあった《砂塵の大竜巻》を発動ね。魔法族の里を破壊するよ」

さじん おおたつまき
砂塵の大竜巻

通常罫

相手フィールド上に存在する魔法・罫カード1枚を選択して破壊する。

その後、自分の手札から魔法または罫カード1枚をセットすることができる。

「そして闇の誘惑を発動。まずは2枚ドロウするよ」

ひいたカードは…。

「…レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを除外。（クレナ、出番だよ）」

『（うん、わかった！）』

クレナがカードに戻ったのを確認。さあ、行くよ！

「《D・D・R》ディファインディング・ドラゴン発動！手札のダーク・ホルス・ドラゴンを落としてレッドアイズを特殊召喚！」

「えっ!？」

「時空の狭間より舞い戻れ!レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン!」

『グオオオオオオオオオオ!』

俺の精霊、クレナが黒龍に戻った状態でフィールドにその姿を現した。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン A T K / 2 8 0 0

「さらにレッドアイズの効果発動!1ターンに1度、自分の手札または墓地からドラゴン族モンスター1体を特殊召喚することができる!蘇れ、ダーク・ホルス・ドラゴン!」

地面に大きな黒い穴があき、そこから闇の黒炎竜が飛翔した。

『キョアアアアアアアア!』

ダーク・ホルス・ドラゴン A T K / 3 0 0 0

「そんな…」

「バトルフェイズに入るよ。ダークホルスで氷炎の霊使いミスティ

に攻撃！ブラック・フレアバースト！」

ダークホルスの放った黒炎が魔法少女を焼き払う。

『うああっ！』

「ミステイ！」

フィリア LP 4000 - 4000 = 3600

「さらにレッドアイズでダイレクトアタック！ホーリーダーク・メガフレア！」

クレナの放った黒炎弾が、フィリアに直撃した。

「きゃあああああああ！！」

フィリア LP 3600 - 2800 = 800

ふう、何とか巻き返せた。

「ターンエンドだよ」

turn・7 Filia H0↓1 800 VS 100
H2↓0 Ren

「…私のターン、ドロー！」

フィリアさんがカードをドローする。

「…来た!」

え、またデイスティニードロー?

「手札から魔法カード、《禁霊術 - 「煌」》を発動!」

《禁^{きん}霊^{れい}術^{じゆつ} - 「^{きらめき}煌^{めき}」 / The Forbidden Spiritu
al Art - kirameki》

速攻魔法（パラクロオリジナル）

自分の墓地に「霊使い」と名のついたモンスターが3体以上存在するとき、

そのうち2体をゲームから除外して発動する。

フィールド上に存在するレベルの1番高いモンスターの

レベルの合計以下になるように、お互いにデッキから

モンスターを特殊召喚する（最大2体まで）。

「フィールドに存在するレベルの1番高いモンスターはダーク・ホルス・ドラゴンの」

…ん?

「待つて」

「えっ!?!」

「最高レベルはレッドアイズの10だよ」

「…あつ、ごめんなさい！えっと、じゃあデッキから合計レベル10以下になるようにデッキからモンスターを2体特殊召喚です！」

「えーっと、俺も出せるんだっけ？」

「はい！」

そっかー。じゃ、何出そっかな？

「私は《地霊使いアウス》と《風霊使いウイン》を特殊召喚！」

「じゃあ、《レッドアイズ・ワイバーン真紅眼の飛竜》2体を守備表示で特殊召喚」

「あ、僕の出番ですか？」

ちれいつか
地霊使いアウス

効果モンスター

星3/地属性/魔法使い族/攻 500/守1500

リバース：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の地属性モンスター1体のコントロールを得る。

地霊使いアウス DEF/1500

「…出番？」

ふうれいつか
風霊使いウイン

効果モンスター

星3 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻 500 / 守 1500

リバース：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の風属性モンスター1体のコントロールを得る。

風霊使いウイン DEF / 1500

『…………』

真紅眼の飛竜 DEF / 1600

「あ、ダークホルスの効果発動ね。相手が魔法カードを発動した場合、墓地からレベル4の闇属性モンスターを特殊召喚できる。ダーク・グレファアーを守備表示で蘇生するよ」

ダーク・グレファアー DEF / 1600

あれ、でもこの流れって…

「レベル3、《地霊使いアウス》と《風霊使いウイン》をオーバーレイ！」

地と風、相反する二つの力が交わりし時、
大いなる魔術が蘇る！エクシーズ召喚！

「来て、《地天の霊使いソフィア》！」

《地天^{ちてん}の霊使い^{れいつか}ソフィア / Sophia the Universe Charmer》

エクシース・効果モンスター（パラクロオリジナル）

リンク3 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻1800 / 守1500

「地霊使いアウス」 + 「風霊使いウイン」

このカードはリリースすることができない。

1ターンに1度、このカードのエクシース素材を1つ取り除く事で、

フィールド上に存在する地属性または風属性モンスター1体をリリースし、

相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。

選択した相手のカードを持ち主のデッキの一番下に戻す。

この効果は相手ターンでも使用することができる。

また、このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、

自分の墓地からレベル4以下の魔法使い族モンスター1体を特殊召喚する。

地天の霊使いソフィア ATK / 1800 + 800 = 2600

…ですよねー。

現れたのは、緑の髪をツインテールに結んだ黒眼の少女だった。杖には上下に茶色と緑色の宝石が埋め込まれている。

『ふう。久しぶりだね、フィリア！』

「久しぶり、ソフィア！」

… ちょっと名前がややこしいかもね。

「デュエルを続けます！エクシース素材を1つ取り除いて、地天の霊使いソフィアの効果を発動！フィールド上の地属性か風属性のモンスターをリリースして、相手フィールド上のカード1枚をデッキの一番下に戻す！」

相手のフィールドには風属性のソフィアのみ。今自身をリリースなんてしたら…、……………！

まさか、相手フィールドもリリース範囲内！？

「真紅眼の飛竜をリリースして、レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンをデッキに戻す！お願い、ソフィア！」

『まかせて！真風霊術 - 「旋風」^{つむじ}！』

ソフィアがワイバーンの真下に緑色の魔法陣を展開した。すると、ワイバーンが緑色の竜巻になり、レッドアイズを巻き込んで消えてしまった。

「バトル！ソフィアでダーク・グレファアを攻撃！サイクロンダスト！」

『いっくよーっ！』

ソフィアが砂嵐を放ち、変モ（自主規制）を吹き飛ばした。うん、やっぱり守備で出しといて良かった。攻撃表示だったら負けてたね。

「さらにソフィアの効果！相手モンスターを戦闘で破壊した時、墓

地からレベル4以下の魔法使い1体を蘇生する！ソフィア、ヴァルキリアをお願い！」

『わかった！真地靈術 - 「木靈」^{こたまたま}！』

フィリアが茶色の魔法陣を展開すると、そこに魔法少女をかたどった木像が現れた。その木像が光を放ち、やがて木像は1人の少女になった。

マジシャンズ・ヴァルキリア DEF / 1800

「私はこれでターンエンド！」

…きついな、これ。

t o b e c o n t i n u e d . . .

遊人「あー、これは蓮負けるかもな」

理央「闇属性以外のモンスターを出しちゃったからね。ソフィアの効果は相手ターンにも使えるから、空見のドロー次第ね」

？「次回、遊戯王パラレルクロス「深紅の空」。ところで遊人。俺の出番はいつだ？」

遊人「悪いな、俺のデュエル回まで待ってくれ。それじゃ、」

遊・理「「次回もお楽しみに！」」

第十四話「未知の輝き」（後書き）

はい、というわけでフィリアの切り札は

「霊使いのエクシースモンスター」

でした。分かった人いるかな？

ちなみに、霊使いエクシースの素材が固定されてるのは「どーせそのうちOCGでも素材指定のエクシース出るだろ」というクレセントの安易な考えによるものです。

ちなみに、一番悩んだのは真霊術のネーミングだったり。それでは。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

4 / 2 9 1 3 : 4 5

第十三話の修正のため、一部微調整。デュエルに変更なし。

第十五話「深紅の空」(前書き)

えーっと、まずはデュエル内容の修正の件について。

修正前、《ダーク・ホルス・ドラゴン》の効果で召喚されるはずの《ダーク・グレファア》は、先に《ダーク・アームド・ドラゴン》の効果で除外されていました。そのため、内容に矛盾が生じてしまっていました。申し訳ありません。

そして、それに関する変更点は2つ。

・ 《ダーク・グレファア》の効果のコストで手札から墓地へ送られたカード

《ゾンビキヤリア》↓《ダーク・ネフティス》

・ 《ダーク・アームド・ドラゴン》の効果のコストで墓地から除外されたカード

《ダーク・グレファア》↓《ダーク・ネフティス》

となります。本当に申し訳ありませんでした。

もうひとつ。これは俺がほかのみなさんの遊戯王小説を読んで気付いたこと。

遊戯王パラレルクロス1話当たりの文字数が、少なすぎる。

それに関して、皆さんから意見をもらいたいです。

文字数を皆さんに合わせるべきなのか、このままでいいのか。

どうか、よろしくお願いします。

第十五話「深紅の空」

先攻 フィリア LP 800 手札0枚

・ 地天の霊使いソフィア(ATK/2600=1800+800)

・ マジシャンズ・ヴァルキリア(DEF/1800)

・ 一族の結束(適用中)

後攻 蓮 LP 100 手札0枚

・ ダーク・ホルス・ドラゴン(ATK/3000)

・ 真紅眼の飛竜(DEF/1600)

・ セット1枚

遊戯王パラレルクロス

第十五話「深紅の空」

turn・8 Filia H1↓0 800 VS 100
H0↓1 Ren

「俺のターン、ドロー」

さて、霊術の効果を使えるってことは、多分相手ターンにも使える

んだらうな…。

「ワイバーンを攻撃表示にしてバトルフェイズ。ダークホルスで地天の霊使いソフィアを」

「その瞬間、ソフィアの効果を発動！真紅眼の飛竜をリリースして、ダーク・ホルス・ドラゴンをデッキの一番下へ！」

『真風霊術 - 「旋風」！』

ですよね！。

「…はあ。このままターンエンド」

「私のターン、ドロー！」

t	u	r	n	.	9	F	i	l	i	a	H	O	↓	1	8	0	0	V	S	1	0	0
H	1	↓	1	R	e	n																

「ソフィア、どうする？」

『あいつのライフは？』

「残り100。だけど…」

『だったら、別にこのまま行ってもいいんじゃない？』

「…そうだね！」

…来るか。

「バトルフェイズ！ソフィアでダイレクトアタック！」

『これでとどめよ！サイクロンダスト！』

悪いけど、ここで終わる俺じゃない！

「リバースカードオープン、《闇次元の解放》を発動！」

やみじけん かいほう
闇次元の解放

永続罨

ゲームから除外されている自分の闇属性モンスター1体を選択し、自分フィールド上に特殊召喚する。

このカードがフィールド上から離れた時、

そのモンスターを破壊してゲームから除外する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「除外されている《ダーク・ネフティス》を特殊召喚！」

『キュオオオオオオオ！！』

フィールドに漆黒の炎を纏った鳳凰が降臨した。

ダーク・ネフティス ATK/2400

「関係ないわ！ソフィアの攻撃を続行！」

「その前にダーク・ネフティスの効果を発動。ネフティスが特殊召喚された時、フィールド上の魔法カードを1枚破壊する。一族の結束を破壊！」

「『あつ！』」

ネフティスの放った炎が一族の結束を破壊した。

地天の霊使いソフィア ATK/2600 - 800 = 1800

「…続行する？」

「…やめます。カードを1枚セットしてターンエンド」

…ふう、なんとか凌いだな。

turn・10 Filia H1↓0 800 VS 100
H1↓2 Ren

「俺のターン、ドロー」

…ここでこれ引くかー。

今伏せられたあのカード、あれ絶対ディステイニードローの類たぐいだよ
ね…。

だとして、抜ける方法は…？

「…あ」

いや、これはちょっとキツイって。それこそ失敗したら負け確定だし。

…だとしても、やらなきゃやられる。だったら――！

「魔法カード発動…」

やるしか…無い！

「《アドバンスドロー》！」

アドバンスドロー

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル8以上のモンスター1体をリリースして発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「ダーク・ネフティスをリリースしてデッキからカードを2枚ドローする」

「え！？」

そりゃ驚くよね。ただでさえ劣勢なのに自分の場をがら空きにするなんて。

でもさ、俺の手札、今の状況じゃ何もできないんだよ…。

「ドロー」

2枚引いた。これで手札は3枚。

「……………あー、そういうことね。よし！」

『フィリア、何か来るよ！』

「う、うん！」

さあ、^{ラストターン}勝利への賭けだ…！

「《おろかな埋葬》を発動。デッキから、《D・HERO デイアボリックガイ》を墓地へ送る」

「今さら墓地に…？」

「ネクガ、ダムド、グレファア、ネフティス、そしてディアボリックガイ。時は満ちたー！」

「…！まさか！？」

「女神から授かった5つの闇の力が墓地にそろったぜ！《ダーク・クリエイター》を特殊召喚！」

『グオオオオオオオオオオ！！』

ダーク・クリエイター DEF/3000

「ダーク・クリエイターの効果発動。墓地のダーク・アームド・ドラゴンを除外し、墓地のダーク・ネフティスを特殊召喚する」

巨人が天に放った黒い雷撃が炎を纏い始め、そこから漆黒の不死鳥が再び姿を現した。

ダーク・ネフティス ATK/2400

「ネフティスの効果でさつき伏せたカードを破壊するよ」

破壊したカードは…？

マジック・シリンダー
魔法の筒

通常罠（準制限カード）

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、

そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

…危なかった。この状況ではミラーフォースより性質の悪いカード。どうやらダーク・クリエイターを守備表示で出していたことも意味を成してはいなかったようだ。

それにしても、何故か分からないけどこういう時に限って俺のドロ―運に補正がかかる。

前のターンで引いた《ダーク・クリエイター》もそうだし、このターンにドロ―した《アドバンスドロ―》もそう。

「墓地のディアボリックガイの効果発動」

それに《おろかな埋葬》もまた然り。

「デッキからもう1体のディアボリックガイを特殊召喚」

そして、もう1枚のカード……《ゾンビキャリア》も。

「さらに手札から《ゾンビキャリア》を通常召喚」

『チューナー！？』

「それじゃ、まさか……！」

「レベル6・ディアボリックガイにレベル2・ゾンビキャリアをチューニング」

6 + 2 = 8

ひかり やみ はさま いっつい
光と闇の狭間、一対の竜《りゅう》が目覚めし時、
せかい しゅうえん やくそく
世界の終焉は約束される。黒陰の竜よ、その姿を現せ。
しゅうかん と はな
シンクロ召喚。解き放て、絶望の終焉。

「《ダークエンド・ドラゴン》、降臨」

ダークエンド・ドラゴン ATK/2600

「ダークエンドの効果。攻守を500下げ、マジシャンズ・ヴァルキリアを墓地へ。ブラックアウト」

『ヴァルキリア!』

ダークエンドの体から湧き出た瘴気がヴァルキリアを包み込む。瘴気は黒龍の咆哮と同時に霧散し、ヴァルキリアとともに消滅した。

ダークエンド・ドラゴン ATK / 2600 - 500 = 2100

『私たちの負け、みたいだね』

「うん…」

『元氣出して、フィリア。次デュエルしたときに勝てばいいんだから、ね♪』

「…うん!」

あつちも覺悟できたみたいだね。

「…バトルフェイズ、ネフティスでソフィアに攻撃。
鳳翼凱旋・獄^{ブレイブフェニックス}炎!」^{えん}

『きゃあああ!』

「ソフィア!」

フィリア LP 800 - 600 = 200

「ダークエンド・ドラゴンでダイレクトアタック…!」

黒龍がレーザーを放つ構えに入る。

「バッドエンド・コンクルージョン!!」

それじゃ、お疲れ様でした！

「ああああああ!!」

フィリア LP 200 - 2100〃0

蓮 WIN

ふう、疲れたー。

「おう、お疲れ!」

「まさかフィリアに勝つなんてね」

「あ、遊人に理央さん」

2人とも、やっぱりお似合いだなー。

「ところで、終わった人はどうするの?」

「見たい人は見てるけど…レッド寮のみんなは終わり次第みんな帰ってるってこと」

「だろーね。わざわざ最後まで見てるのもだるいし。」

「あれ、じゃあなんで理央さんは残ってたんの？」

「そ、それは…！」

「あ、それ俺も思った！何で…理央？なんで顔赤くなってんだ？」

「う、うるさい！」

「ごふし！？」

あ、殴られた。うん、この2人の会話は見てて楽しいね。

「はあ、はあ、…で、蓮はどうすんのよ」

「ん？まあ、他にやることもないし寮に戻るよ」

「そう。私は」

「遊人のデュエルを見てから一緒に帰るんでしょ？頑張ってたね」

「な…！」

あ、また赤くなってる。ほんと、わかりやすい人だね。

さて、先に帰ってるとしますか。2人の邪魔になると悪いしね。

『夕焼け、きれいだね』

ドームから自分の寮に戻る途中、カードから出てきたクレナが話しかけてきた。

「あ、ほんとだ。きれいだね、夕焼け」

『…』

「…」

数十秒間の沈黙。

先に口を開いたのは、クレナの方だった。

『ねえ、蓮』

「ん？どうしたの？」

『蓮は、いつからデュエルを始めたの？』

「うーん、ちょっと説明が難しいけど…」

…クレナになら、話してもいいかな？

「まあ、始めたのは今から4カ月ぐらい前かな」

『た、たった4カ月！？』

「うん。…あ、そうか」

目の前の風景を見る。そう、あの時も…。

「クレナ、少し長くなっちゃうけどいいかな」

『うん、いいよ』

「遊戯王を始めたあの日…ゆみなに誘われて始めたあの日も、こんな桜と夕焼けがきれいな日だったんだ…」

t o b e c o n t i n u e d . . .

クレナ「あ、どうも。蓮の精霊、クレナ「ヴァーミリオンです。蓮がデュエルを始めた日、その日、蓮の人生は大きく変わり始めました。それは、そう。まるで、希望の扉をようやく見つけることができたかのように…」。

次回、遊戯王パラレルクロス「舞い散る桜の下で」。

まさか、あなたにそんな過去があつたなんて……！」

第十五話「深紅の空」（後書き）

はいどうも、クレセントです。

すいません、前書きが暗くなってしまいました。

ですが、文字数に関しては、本当に皆さんからの意見をいただきました。

参考までに、俺の小説は基本的に1話当たり3000〰4500字。皆さんの小説を見る限りでは、だいたい10000字ぐらいでしょうか。

それぐらい、遊戯王パラレルクロスは短いんです。

どうか、ご意見をよろしくお願いします。

さて、次回は蓮の過去の話。といっても、彼が高等部に入ってから話ですけどね。

それでは、この辺で。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

第十六話「舞い散る桜の下で」(前書き)

やっと書けた…。どうも、クレセントです。

今回は蓮の過去話になります。
字数調整、難しいな…。

第十六話「舞い散る桜の下で」

side・Ren↓Clena

「クレナ、少し長くなっちゃうけどいいかな」

蓮が確認する。きっと、大事な話になるんだろう。

『うん、いいよ』

私は答えた。蓮の過去に、私自身興味があったから。

「遊戯王を始めたあの日…ゆみなに誘われて始めたあの日も、こんな桜と夕焼けがきれいな日だったんだ…」

だけど、このときの私は知らなかった。蓮が——とを。

遊戯王パラレルクロス

第十六話「舞い散る桜の下で」

「俺が御桜学園の高等部に上がった最初の日、」

『みさくらがくえん?』

いきなり知らない単語が出てきたことに私は戸惑った。

「あ、ごめん。先に言っておくんだったね。俺はこの世界の人間じゃないんだ」

『ええ！？』

そしてもっと戸惑った。蓮が、この世界の人間じゃない！？

「俺だけじゃない。音姉にゆみな、それに拓斗、輪廻、優姫もそう。俺たちは6人とも違う世界の人間なんだ。ちなみに向こうの世界ではみんな黒髪だったよ」

『…信じられない』

衝撃的だった。蓮だけでなく、その友達もみんなこの世界に飛ばされて来てしまっていたなんて。

「もつとも、5人ともそれぞれ別の飛ばされ方をしたみたいだね。そして、俺達6人が通っていたのが御桜学園。俺と音姉が中等部から入った内進生、残りの4人が他の中学から編入してきた外進生なんだ」

『そうなんだ…』

「続けていい？」

『あ、うん…』

正直、まだ頭の整理が終わってないけど。とにかく、蓮たちが異世

界の人間だつてことでいいんだよね？

「それで、その入学式。俺は何故か新入生代表として壇上に呼ばれたんだ。でも、事前の知らせもなくいきなり呼ばれたものだからさ、話すことなんて全く考えてなくて。それでね…」

『それで？』

「とつさに浮かんだ言葉を言っただ。すると、不思議なことにどんどん言葉が出てくるんだ」

『その言葉って？』

「えーっと、たしか最初に言っただ言葉は…あれだ。

”俺、去年まで同学年の人にいじめられながら生きてきました。”

あの時はすごかったね。なにせ、小学校のころからずっと受け続けたいじめの内容が鮮明に蘇ってきたんだから。それに、驚くことに年代順！あの時は本当に話が弾んだよ。まあ、新入生代表の挨拶だったから誰も何も言ってくれなかったけどね。それで、最初に話した内容が・・・」

蓮が楽しそうに話を続けている。あの、内容すごく暗いんだけど。なんでいじめ（しかも実体験）の内容をそんな明るく話せるの？

『蓮、脱線してるよ』

「あ、ごめん。でね、その入学式が終わった後、自分の新しいクラスに行っただ。そしたら…」

「あんだ、なにあたしたちと同じクラスになってんのよ」

「…そんなの、私が決めたことじゃ」

「知らないわよ、そんなこと」

俺の席の右、1人の少女が2人の友人…

「それよりも、なんであんだがこの学校受かってんのよ」

「そうよ。あんだのせいでヨーコが落とされたじゃない」

…とは言えなさそうだね、話の内容からして。

「だから、私は」

「ちょっと、あんだから話しかけないでくれない？」

「そうよ、お嬢様だからって調子乗ってんじゃないわよ」

…だめだ、鬱陶しい。救出^{たす}けなきゃ。

「あの、ちょっといい？」

「なによ。邪魔しないでくれる？」

「いや、君たちじゃなくて」

「…私、ですか？」

「そう。ちょっといいかな？」

「え、はい。いいですけど…」

そして、彼女の手を取り…、

「それじゃ、ちょっと借りるよー」

…駆け出した。

「」「！?」「」

ちょうど開いていた後ろのドアから教室を出て、俺はそのまま屋上へ向かった。

『ええ!?!』

さっきのシリアスな雰囲気はどこに!?

「まあ、そりゃ驚くだろうね。今の俺だったらあんなことしないよ…」

『あはは…』

「それじゃ、続けるよ？」

『あ、うん』

屋上。俺と少女が屋上についたとき、そこには中等部の制服を着た一組の男女がいた。

「あれ、先客がいる」

「はあ、はあ、ここは…屋上？」

「うん。ごめんね、こんなところまで連れてきちゃって」

「いえ、ありがとうございます。助けてくれたんですね」

「うーん、まあそうなるかな。どうしてもあの状況見てられなくてさ」

「そう、ですか…」

「…あ、ごめん。ちょっと待ってて。君のカバンとってくるから！」

「え、ちょっとま」

ボタンツ。彼女の声は俺が扉を閉めたことで最後まで聞き取れなかった。どうせ俺を引きとめようとしたんだろうけど。

俺は階段を一気に飛び降りていく。1年A組に再びたどり着くまでに、30秒もかからなかった。

「遅いぞ空見！何をしていた！」

「あ、すみません先生。今日、空見蓮他1名が早退します！」

そして、俺は教室に入るとすぐに、空席となった少女の机に掛けられていたカバンを取り、再び屋上に向かった。

「あ、おい待て空見！」

先生の呼ぶ声が聞こえた？俺のログには何もないな。

「それで、屋上に着い——！」

『！？』

突然、私の隣から蓮の姿が消えた。あわてて蓮の方を見ると、そこに蓮の姿はなく、代わりに大きな氷の球体が。

『す、スノウ！？』

『なんでゆみなの秘密をこんなやつが知っていますの!』

「ま、待ってください…!」

『ゆみな、こいつは私の手で跡形もなく消し去っても…!』

「彼がその空見君です!」

『…え?』

「…あれ、俺たち船で顔合わせしてたよね?」

氷を挟んで反対側から蓮の声が聞こえてきた。よかった、無事だったんだ…。

「…ゆみな、続けていい?」

「あ、そこから先は私からお話ししてもいいですか?」

「俺はいいけど、クレナは?」

『私もOKだよ』

「はい。それでは、空見君が私のカバンを取りに行ったところから…」

「あ、ごめん。ちょっと待ってて。君のカバンとってくるから！」

「え、ちょっと待ってくだ…さ…」

…行ってしまった。別に今行かなくても…。

「あの、すいません」

ふと、後ろから声をかけられた。振り返ると、そこには長くて黒い髪…あれ、制服からして一応男子生徒なんだろうか。それともう1人、その後ろに隠れるように薄い茶色の髪…あ、こちらは本当に女子の制服ですね。多少私の制服とデザインが違うから、きつと付属の中等部の方なんでしょう。

「はい、何でしょうか？」

「今の人…えーと、空見先輩はいつごろ戻ってきますか？」

あ、私を連れ出してくれた人は空見という名字なんですね。

「私もわかりません。ですが、5分ほど戻ってくるかと」「ただいま。カバンとってきたよー。」「え!？」

いくらなんでも早すぎませんか!? 屋上から出て1分も経ってないですよ!？」

「あれ、誰かと思えば」

「あ、先輩。高校上がって早速問題起こしてきたんですか？」

あ、知り合いの方ですか？

「いや、新年度会って最初の一言それ？」

「先輩が相手だとそれ以外に思いつきませんから」

「…ですよー」

「あの、兄さん？」

「ん？」

「話に…入れてあげよ？」

「…あ」

私、忘れられてたんですね…。

「ごめんごめん。自己紹介しなきゃね。俺は空見蓮^{そらみれん}。名字は空を見るって書いて空見。下はハス…だったかな。それで蓮」

「中等部3年2組の鍵橋黒樹^{かぎはし くるき}です。漢字は…まあ、読み通りです」

「同じく3年2組の鍵橋ましろ^{かぎはし}です。ましろはひらがなで”ましろ”って書きます」

「えっと、空見君と同じ1年A組の姫路ゆみな^{ひめじ}なです。ましろさんと同じで、ひらがなで”ゆみな”と書きます。これからよろしくお願ひしますね」

私が自己紹介を終えたところで、再び空見君が大きく伸びをしながら口を開きました。

「さて、自己紹介も終わったことだし、帰りますか」

「あの、ホームルームは…」

「あ、それなら先にちゃんと手を打つといたよ」

「あ、そうなんですか…。だったら」

「ちゃんと早退するって言ってきたから」

「だめじゃないですか!」

根本的な解決になっていませんよ!?

「それで通せる先輩もすごいですよね…」

「どうしてそんな無駄スキルを習得したんですか…?」

あ、鍵橋さん兄妹が遠い目をしています…。

「とりあえず、中学の方も終わったよね?」

「はい、午後から始まったのに高校の入学式より早く終わりましたよ」

「あるえー?」

「空見君、新入生代表の挨拶で5時間ぐらい話してましたよ…」

「…え、そんなに話してた？」

「そういえば兄さん、途中で校長先生を呼びに行っていましたね」

「うん。あの空気はちょっと気まずかったかな…」

「…ごめん」

side・Crena ↓ Ren

「それから、私たちは帰路につきました。あの時、空見君が話しかけてくれなかったら、私は今頃…」

『あ、寮が見えてきたよ！』

「あ、ほんとだ。」

「…うー」

見えてきたのは大きなビル。このアカデミアでは、生徒の寮はクラス別ではなく学年別になっている。オシリスレッドが3階、ライイエローが4階、オベリスクブルーが5階になっている。さらに、2階が食堂と大浴場、屋上にデュエル場（デュエルディスクありでの

デュエルのため、広いのに4組ぐらいしか同時にデュエルできない）、地下にデュエルスペース（大きめのテーブルとイスがたくさん置かれていて、デュエルスペースというよりラウンジと言ったほうがよさそう。自販機も置かれてるし）がある。あ、1階は受付と事務員室しかなかったよ。

「それじゃ、ここで解散かな」

『そうですわね。続きはいつもの流れでよろしいんですの？』

何故か落ちこんでしまったゆみなの代わりにスノウが聞いてきた。ちなみに、いつもの流れとは

「風呂（6時ごろ）↓夕食（7時ごろ）↓明日の準備（8時半までにはみんな終わる）↓地下でデュエル（消灯の11時まで）」

のこと。やっぱりデュエルは机の上でライフ8000の方が落ち着くんだよね。

「そうだね。それじゃ、またあとで」

「待ってください!」

「ん?」

いつにもなく大きい声が、今まさに寮に入ろうとしていた俺を呼びとめた。

「どうしたの、ゆみな?」

「…私とっ!」

ゆみなの声には何か決意が込められているように感じた。

「…私と、デュエルしてください!」

…別にいいけど、なんで今?

t o b e c o n t i n u e d . . .

クレナ『スノウとのデュエル、楽しみだね!』

スノウ『そうですね。あなたとのデュエルは机の上でしかしたことがありませんもの。私も楽しみですわ!』

蓮『えーと、つまり勝った方が負けた方に1つだけ言うことを聞かせられるってことでいいんだよね?』

ゆみな『はい!』

ク・ス『…って、なにしてる(のノんですの)!?』

優姫『…次回、遊戯王パレルクロス「別に踊ったりはしない」。

とりあえず、「墓地を封鎖せよ」とでも言えば伝わるかしら?』

輪廻「ああ、多分大丈夫だろ」

拓斗「2人とも、さすがに3人で同じところに隠れてたられるんじゃない?」

輪廻「大丈夫だ、問題ない」

優姫「…私は輪廻を信じてるから」

拓斗「…はあ。それじゃ、次回もお楽しみにね」

第十六話「舞い散る桜の下で」(後書き)

はい、というわけで次回は蓮とゆみなのデュエルになります。

大変グダグダな回でした。結構苦労したんだけどな…。

あと、リアル世界のほうで《ミスト・ウォーム》と《虚空海竜リヴァイエール》を買ってきました。

死霊とレギオンでオーバーレイ！虚空海竜リヴァイエール！！
結構活躍してくれています。それでは、クレセントでした。

第十七話「別に踊ったりはしない」(前書き)

はい、生存報告です。どうも、クレセントです。

明日筆記模試だー来週中間試験だー

はいはいかゆうまかゆうま。

それではどうぞ。

第十七話「別に踊ったりはしない」

Side・Ren ↓ Yumina

「最初はグー、じゃんけんポン！」

「よし、俺の勝ち。先攻もらうよ」

「はい」

正直、空見君とのデュエルで先攻を取られるのは厳しいです。なにせ、空見君の使う【ドラグニティ】は1ターン目からさまざまな展開を始めてしまったため、それを先攻で始めるということは、つまり「相手に阻害されない」ということで…。よほど空見君の手札が悪くない限り、ある程度の大量展開は覚悟しなければなりません。

…それでも、負けられない。負けたくない。空見君に、少しでも近づきたいから…！

「デュエル！」

先攻 空見蓮 LP / 4000

後攻 姫路ゆみな LP / 4000

第十七話「別に踊ったりはしない」

t u r n . 1	R e n	H 5 ↓ 6	4 0 0 0	V S	4 0 0 0
H 5 ↓ 5	Y u m i n a				

「それじゃ、先攻ドロ」

空見君がカードをドロしました。

「《調和の宝札》を発動。手札のフアランクスを落として2枚ドロ。そして今引いたドウクスを召喚。効果でフアランクスを装備」

私達にとってはもはやおなじみの鳥人が現れました。ソリッドビジョンで見るのは初めてですけどね。

そして天から金色の槍が降ってきて、ドウクスはそれを見事にキヤッチしました。多分、あの槍がフアランクスなんでしょう。

ドラグニティ・ドウクス A T K / 1 5 0 0 + (2 0 0 × 2) 〓
1 9 0 0

「フアランクスの効果で自身を特殊召喚」

ドウクスが槍を天に放り投げると、その槍が金色に輝きだし、槍と同じ色の小さな竜になってドウクスの横に並びました。

ドラグニティ・フアランクス D E F / 1 1 0 0

「レベル4・ドラグニティ・ドウクスにレベル2・ドラグニティ・フアランクスをチューニング」

4 + 2 = 6

我^{われ}紡^{つむ}ぎしは竜^{りゅう}の槍^{やり}、全^{すべ}てを貫^{つらぬ}く神竜^{しんりゅう}の槍^{やり}。
闇^{やみ}夜^よを照^てらす灯^{とも}火^{しび}よ、吹^ふき荒^あれる風^{かぜ}と共^{とも}に在^あれ。
シンクロ召喚^{しょうかん}。解^{はな}き放^{はな}て、結^{けつ}束^{そく}の劫^{ごう}火^か。

「《ドラグニティナイト・ガジャルグ》、降臨」

《ドラグニティナイト・ガジャルグ》

シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2400 / 守 800

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

自分のデッキからレベル4以下のドラゴン族または鳥獣族モンスター

1体を手札に加え、その後手札からドラゴン族または鳥獣族モンスター

1体を捨てる。

現れたのは赤と青を基調とした竜騎士。《竜の渓谷》と共に【ドラグニティ】の中核を担う、空見君がいつも初めに召喚する竜騎士です。

ドラグニティナイト・ガジャルグ ATK / 2400

「《ドラグニティナイト・ガジャルグ》の効果発動、カーディナル・サークル。手札に《BF - 精鋭のゼピュロス》を加えてそのまま落

とすよ」

空見君のデッキが赤く輝き始め、竜騎士がデッキを取るように促しました。そして、空見君はデッキから1枚のカードを取り出し、墓地へ送りました。

「それじゃ、カードを2枚セットしてターンエンド」

turn・2 Ren H6↓3 4000 VS 4000
H5↓6 Yumina

「私のターン、ドロー」

デッキからカードをドローしました。私は手札を確認して、少し安心しました。この手札なら、ある程度は戦えるかもしれません。

「手札の《墓守の司令官》を墓地へ送り、デッキから《王家の眠る谷・ネクロバレー》を手札に加えます」

《墓守の司令官》
はかもり しれいかん
+

効果モンスター

星4/地属性/魔法使い族/攻1600/守1500

このカードを手札から墓地に捨てる。

デッキから「王家の眠る谷・ネクロバレー」1枚を手札に加える。

「そして、《王家の眠る谷・ネクロバレー》を発動します！」

《王家の眠る谷・ネクロバレー》
おつけ ねむ たに

フィールド魔法

このカードがフィールド上に存在する限り、お互いのプレイヤーは墓地のカードに効果が及ぶ魔法・罠・効果モンスターの効果は無効にし、墓地のカードをゲームから除外する事もできない。

また、このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上の「墓守の」という名のついたモンスターカードの攻撃力・守備力は500ポイントアップする。

辺りが夕焼けの差し込む溪谷になりました。元から夕方だったので、西日がより幻想的に光っているように思えます。

「さらにモンスターをセット、カードを2枚セットしてターンエンドです」

とりあえず、最初はこれで大丈夫だと思います。

t u r n . 3	R e n	H 3 ↓ 4	4 0 0 0	V S	4 0 0 0
H 6 ↓ 2	Y u m i n a				

「俺のターン、ドロー」

空見君がカードをドローしました。

「とりあえず、ガジヤルグの効果を発動。デッキから《ドラグニティ・アキュリス》を手札に加えて落とす。カードイナル・サークル」

再び空見君のデッキが赤く輝き、空見君はデッキから1枚のカードを取り出して墓地へ送りました。

「んー、このままターンエンドかな」

t	u	r	n	.	4	R	e	n	H	4	↓	4	4	0	0	0	V	S	4	0	0	0
H	2	↓	3	Y	u	m	i	n	a													

空見君が何もせずにターンエンドしました。

「私のターン、ドロー」

やっぱりお互いのデッキ構築を知っているために、セットするモンスターはすぐにわかります。

きっと、空見君も私の伏せたカードがわかるから攻撃をしなかったのでしょう。

つまり、空見君が前のターンに動かなかった理由は…！

「手札から、《王家の生け贄》を発動します！」

「なっ！？」

《王家の生け贄》^{おつけ}_{にえ} 十

通常魔法一（準制限カード）

「王家の眠る谷・ネクロバレー」が自分フィールド上に存在している時

に発動する事ができる。

お互いの手札にあるモンスターカードを全て墓地に捨てる。

お互いの手札がソリッドビジョンに表示されました。私の手札は《ハリケーン》と《死者蘇生》。

対して、空見君の手札は…

《ドラグニティ・レギオン》

効果モンスター

星3 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1200 / 守 800

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

自分の魔法＆罠カードゾーンに存在する「ドラグニティ」と名のついたカード1枚を墓地へ送る事で、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。

そして2枚目の《ドラグニティ・アキュリス》、《ドラグニティ・アームズ・レヴァティン》、そして…

《エフェクト・ヴェーラー》 †

チューナー（効果モンスター）

星1 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻 0 / 守 0

このカードを手札から墓地へ送り、相手フィールド上に表側表示で存在する効果モンスター1体を選択して発動する。

選択した相手モンスターの効果をエンドフェイズ時まで無効にする。この効果は相手のメインフェイズ時のみ発動する事ができる。

「読まれてたか…」

空見君が少し悔しそうに呟きました。本当に危なかったです…。今のドローで《王家の生け贄》を引いていなかったら、セットしていたモンスターの効果を《エフェクト・ヴェーラー》で無効にされるだけでなく、《ドラグニティ・レギオン》の効果の的にされていました。

「それでは、《墓守の番兵》を反転召喚します」

私のフィールドにセットされたカードが反転し、見るからに屈強そうな番人が現れました。

《墓守の番兵》
はかもり ばんべい
+

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻1000 / 守1900

リバーズ：フィールド上の相手モンスター1体を持ち主の手札に戻す。

「《墓守の番兵》のリバーズ効果で、《ドラグニティナイト・ガジヤルグ》をバウンスします」

「チェインするよ、《激流葬》！」

《激流葬》
げきりゅうそうじ
+

通常罠（制限カード）

モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

恐らく、デッキに戻されるよりも墓地へ送った方が良いと考えたのでしょう。ですが…！

「させません！《盗賊の七つ道具》、発動！」

ゆみな LP 4000 - 1000 = 3000

「…チエーン無し」

「それでは、ガジャルグをエクストラデッキに戻します！波動結界
！」
ボーター・リワインド

番兵が呪言を唱えると、竜騎士の周りに転送用の結界が展開されました。竜騎士はすぐに抜け出そうとしましたが、その前に結界が光を放ち、真紅の竜騎士を消し去りました。

「バトルフェイズ、番兵でダイレクトアタックします！」

番兵は錫杖を構え、そして空見君に対して法術を放ちました。

「く…」

蓮 LP 4000 - 1000 = 2500

「これでターンエンドです」

ここまでではなんとか私の優勢。ですが、このまま押し切れるのでしょうか…。

turn 5 Ren HO ↓ 1 2500 VS 3000
H3 ↓ 2 Yumina

side・Yumina ↓ Ren

…きついな。さっきの《王家の生け贄》で予定を思いっきり崩された。

引いたカード次第でどうにかなるかもしれないけど…？

「俺のターン、ドロ…ああ」

どうにかなった。

「竜の渓谷を発動。ネクロバレーを塗り替えるよ！」

「このタイミングで…！？」

フィールドに強い風が吹き荒れる。気がつくと、フィールドは夕焼けに染まった渓谷に変わっていた。

「そして、《竜の渓谷》を手札に戻す」

「しまっ——！」

「墓地から《BF・精鋭のゼピュロス》を特殊召喚するよ！」

瞬間、渓谷を漆黒の竜巻が包み込む。竜巻が消えると同時にそこから姿を現したのはBFの名を冠する青と橙を基調とした黒羽の戦士。

ブラックフェザース
《BF・精鋭のゼピュロス》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1600 / 守1000

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を手札に戻して発動する。

このカードを墓地から特殊召喚し、自分は400ポイントダメージを受ける。

「BF - 精鋭のゼピュロス」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

BF - 精鋭のゼピュロス ATK / 1600

蓮 LP / 2500 - 400 = 2100

ゼピュロスの効果でライフが400削られた。だけど、これぐらいの代償でも安いぐらいだ。

「さらに《リビングデッドの呼び声》を発動。墓地の《ドラグニティ・アキュリス》を特殊召喚！」

リバースカードが開き、そこから緋色に輝く小さな竜が現れた。

ドラグニティ・アキュリス ATK / 1000

さあ、ここから逆で… あれ？

一瞬だけ、ゆみなの表情が変化したように見えたのは気のせいかな？

… 心理フェイズに入ります。

俺のフィールドにはレベル4のゼピュロスとレベル2チューナーのアキュリス、対して相手のフィールドは攻撃力1000の番兵とセットが1枚。問題はそのセットカードだ。
ここまでに発動されなかったということは、恐らくは召喚反応系が攻撃反応系のどちらか。畏対応系は考えなくていいだろう。

だとすると、あのセットカードはなんだ？

もしあれが攻撃反応系なら。間違いなく《聖なるバリア・ミラーフォース》ならばシンクロせずに攻撃した場合の損害が大きい。だからと言って、それを警戒しスターダストで攻撃した場合、それが《次元幽閉》だったなら敗北は避けられない。だとしたら、どうする――

！？

…うん、めんどい。心理フェイス終了。こういうときは直感に任せよう。

そうだな、たまにはあのモンスターも良いかもしれない。

「レベル4・BF・精鋭のゼピュロスにレベル2・ドラグニティ・アキュリスをチューニング」

我^{われ}紡^{つむ}ぎしは竜^{りゅう}の槍^{やり}、全^{すべ}てを貫^つく神^{しん}竜^{りゅう}の槍^{やり}。
邪^じ悪^{あく}を抜^はいし白^{しろ}雪^{ゆき}よ、凍^いてつく吹^ふ雪^{ぶき}と共^{とも}に在^あれ。
シンクロ召喚^{しょうかん}。解^はき放^{はな}て、浄^{じよう}化^かの激^{げき}流^{りゅう}。

「《氷結界の龍 ひょうけつかいりゅう ブリユーナク》、降臨」

《氷結界の龍 ひょうけつかいりゅう ブリユーナク》

シンクロ・効果モンスター（制限カード）

星6 / 水属性 / 海竜族 / 攻2300 / 守1400

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札を任意の枚数墓地に捨てて発動する。

その後、フィールド上に存在するカードを、墓地に送った枚数分だけ持ち主の手札に戻す。

吹雪とともにその姿を現したのは、空のように蒼い色をした神龍。

胴体、翼、爪や足までもが、まるで氷に護られているかのように錯覚させる。

…実際そうなのかもしれないけど。

氷結界の龍 ブリユーナク ATK / 2300

さあ、そろそろ反撃させてもらおうよ！

t o b e c o n t i n u e d . . .

輪廻「み…《霞の谷の雷神鬼 ミスト・バレー らいじんき》」

優姫「《禁じられた聖槍 きん せいそう》」

拓斗「《海 うみ》」

輪廻「《霞の谷の――》^{ミスト・バレー}

優姫「…テーマ被りは無し。最初に決めたはずよ」

輪廻「うわ、そうだった!」

音羽「みんな、何やってるの?」

リーズ「…次回、遊戯王パラレルクロス「^{ベター}better than^{ザン}ザン

^{シンプル}simple」。なんかタイトル詐欺な気がしますけどね」

クレナ「あはは…。それじゃ、j」

スノウ「次回もお楽しみに、ですわ!」

クレナ「ちょっと待ってそれ私のセリフだよー!」

第十七話「別に踊ったりはしない」（後書き）

本来だったら17日に更新する予定だったのですが。風邪引いて遅くなりました。ショボーン。

特に書くことがないのでこれで。クレセントでした。

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

5 / 2 6 1 7 : 1 5

微妙に修正。デュエル内容に影響なし。

第十八話「better than simple」（前書き）

「…望月クロノだ。なんだか知らないが、クレセント…だったか？
そいつがどうやら中二病風の文章表現に悩んでいるらしい。そいつ
曰く、

クレセント「デュエルの内容はすぐに完成するのに描写がうまく書
けないんだよチクショウ！」

とのことだ。気が向いたらでいいんだが、そいつへのアドバイスを
感想欄あたりにでもぶち込んでほしい。もちろん、普通の感想、オ
リ力投稿も受け付けている。俺からは以上だ。そろそろ本編が始ま
るぞ」

第十八話「better than simple」

先攻 蓮 LP/2100 手札1枚

・ 氷結界の龍 ブリユーナク(ATK/2300)

後攻 ゆみな LP/3000 手札2枚

・ 墓守の番兵(ATK/1000)

・ セット1枚

遊戯王パラレルクロス

第十八話「better than simple」

さて、ブリユーナクを召喚したのはいいんだけど…。ゆみなの手札、《ハリケーン》と《死者蘇生》だっけ。全然考えてなかった。でもまあ、とりあえずはあのセットカードをどうにかしないとね。

「ブリユーナクの効果を発動。手札を1枚捨てて、ゆみなのセットカードを手札に戻す。リバーサル・フリージング！」

俺が手札を墓地へ送ると同時に、ブリユーナクの体が青く輝きだした。

それに同期するように裏側表示のカードも青く光りだし…

パキンッ！

「「え！？」」

え、ちょっと待って？なんで砕けたの！？今のバウンスだよね！？
なんで破壊とおなじ映像処理が！？

「…えーっと、バトルフェイス。ブリューナクで番兵を攻撃。ダイ
ヤモンド・ランサー！」

ブリューナクの周囲に冷気が集まっていく。
冷気はやがて集束し、1つの槍となった。

「貫け！」

俺がそういうと共に槍が放たれ、番兵に抵抗する間も与えずに貫い
た。

そしてその衝撃はその奥にいたゆみなにも響く。

「うつうつ…！」

ゆみな LP 3000 - 1300 = 1700

「ターンエンドだよ」

さあ、どう来る…？

turn.6 Ren H1↓0 2100 VS 3000
H3↓4 Yumina

「私のターン、ドロー」

ゆみながカードをドローした。表情を見るに、きつといいカードを引いたんだろう。

「手札から魔法カード、《エンジェル・バトン》を発動します！」

…は？

「デッキからカードを2枚ドローして、手札を1枚墓地へ送ります」

「……はあああ!？」

《エンジェル・バトン》

通常魔法（アニメオリジナル・制限カード）

自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後自分の手札を1枚墓地へ送る。

「《ハリケーン》を墓地へ送ります」

制限カードが墓地へ送られた。確かにこの状況じゃ使い道のないカードだけど、多分今のドローでキーカードを引いたんだろう。

「…空見君」

「ん？」

「私の、勝ちです！」

…そっか。

「《死者蘇生》を発動して、私の墓地の《墓守の番兵》を特殊召喚します」

墓守の番兵が再び姿を現した。俺の墓地にいるレヴァティンと呼ばなかったということは…。

「そして、手札から速攻魔法を発動します！」

そして、手札から放たれる魔法。俺は、負けを悟った。

「《ディメンション・マジック》！！」

《ディメンション・マジック》

速攻魔法

自分フィールド上に魔法使い族モンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースし、手札から魔法使い族モンスター1体を特殊召喚する。

その後、フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する事ができる。

「墓守の番兵をリリースして、《ブリザード・プリンセス》を特殊召喚します！」

番兵の足元に水色の魔法陣が展開される。その魔法陣が輝きだし、やがて蒼い光が消えるとそこに現れたのは純白のドレスを纏った姫君、スノウだった。

《ブリザード・プリンセス》

効果モンスター

星8 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻2800 / 守2100

このカードは魔法使い族モンスター1体をリリースして表側攻撃表示でアドバンス召喚する事ができる。

このカードが召喚に成功したターン、相手は魔法・罫カードを発動する事ができない。

『さあ、いきますわよ!!』

ブリザード・プリンセス ATK / 2800

「《デイモンション・マジック》の追加効果で、空見君のブリューナクを破壊します!」

スノウの召喚に使われたものと同じ魔法陣がブリューナクを封じ込め、蒼い光と共に消し去ってしまった。俺のフィールドにはもう、何もない。

『…さあ、覚悟は出来ましたわね?』

そして、俺のライフは…2100。

「…ここまで、か」

「《ブリザード・プリンセス》でダイレクトアタックです！」

『これで終わりですわ！』

「『アイスエイジ・ジャッジメント！』」

蓮 LP 2100 - 2800 = 0

ゆみな WIN

「やっぱりゆみは強いな」

「そ、そんなことないですよ……。ライフが8000だったらきつとまた空見君に逆転されてましたから」

「いや、それはないと思うけど……」

そんなに謙遜しなくてもゆみなは強いと思うんだけど。

「じゃあ、次のカードは何だったんですか？」

「次？どうせ意味ないカードだと思うけど…」

もし次のターンがあったら引いていたカードを見る。

「…《ドラグニティ・ドウクス》」

「やっぱり！8000だったら絶対に逆転できたじゃないですか！」

「…そういえば、さっき伏せてたカードって結局何だったの？」

「あ、それはですね…」

そう言つて、ゆみなはデッキから1枚のカードを取り出した。そのカードは…

「あー、やっぱり《次元幽閉》だったか…」

スターダスト出してたら大変なことになってたな…。

「でも、まさかあそこでブリューナクが出るなんて…」

「いや、返しの《エンジェル・バトン》の方が酷かったって」

俺の記憶ではアニメのスピードスペルだった気がするんだけど？

「あ、でもちゃんと制限カードみたいですよ」

「《天使の施し》の相互互換なの？」

《天使の施し》
†

通常魔法（禁止カード）

デッキからカードを3枚ドローし、その後手札からカードを2枚捨てる。

「それは多分”世界の違い”だと思います。さすがにこの世界でも制限カードですけどね」

「それで済ませていいのかな…」

このカード俺たちの世界だったら絶対禁止カードだよね…。

「…これ、何のパックだった？」

「たしか、《MAGIC ACCCELERATION》
マジック アクセラレーション
だったと思います」

「よし、後で買ってこよう」

そういえば地下のデュエルスペースってパック売ってるらしいんだよね。

「あ、私も一緒に行っていていいですか？」

「うん、いいよ。それじゃ、また後でね」

「はい！」

そして、俺はカバンに入ってた”この世界では電卓と目覚まし時計とmp3プレイヤーにしかない”携帯電話を取り出した。……

もう5時かー。小腹空いたなー。

「って、もう5時半じゃん！急ぐよゆみな！お風呂まで後30分しかない！」

「あ、はい！」

俺はゆみなの手を取り、急いで学生寮の中へ向かった。

t o b e c o n t i n u e d . . .

輪廻「…さて、俺たちも行くぞ！」

遊人「そうだな！早くしないとデュエル場が予約埋まっちゃうぜ」

優姫「…デュエル場？」

フィリア「うん、屋上のね」

拓斗「屋上かー。僕たちいつも地下の方でやってるからね」

理央「じゃあ、あんたたちも来る？たしか1スペースに10人ぐらいなら入れると思うわ」

音羽「え、いいの！？」

クロノ「それはいいんだが…」

フィリア「そうしようよ、お兄ちゃん！」

第十八話「better than simple」(後書き)

あ、どうもクレセントです。明日からテスト週刊です。何やってんだ俺。高3なのに。

というわけで、1週間ほど勉強に当てさせてもらいます。たまにPSPで出沒するかもしれませんがね！(キリッ

それでは、この辺で。クレセントでした。

EX04「そんなデツキで大丈夫か？」（前書き）

試験終わったあああ！！¥（●）／

どうも、クレセントです。

少々まともなおまけです。それではどうぞ。

EX04「そんなデッキで大丈夫か？」

どうも、蓮です。明日は土曜日で学校が無いので、早めにデュエルスペースの方に行けました。そして、今度ゆみなと場所を確保したところです。が…。

「…みんな遅いね」

「そうですね…」

音姉や優姫さんはともかくとして、拓斗と輪廻は何やってるんだろ？デッキ調整かな？

「…空見君」

「ん、なに？」

「その、さっきの約束の話なんですけど…」

「…あー」

…忘れてた。完全に、忘れてた。

「…で、何にするかは決まったの？」

とりあえず”忘れてたの？”と言われる前にそれらしいことを言うておこう。少しは刑罰が軽く…とは、ならないか。さすがに。

「え、あ、はい。その、えっと…」

ゆみなの顔が赤くなっていく。

…まさか、口に出すのも恥ずかしいようなことをやらせる気じゃ…！？

「こ、これから、その……空見君のこと……」

…。…え？空見君”のこと”？

”に”じゃなくて？

「…空見君のこと、これから蓮君って呼ばせてください！-」

遊戯王パラレルクロス

EX04「そんなデッキで大丈夫か？」

…ゆみなの声が響き渡る。ゆみな、ここが公共の場って解ってるよね？もし解っててやったんならすごい恥ずかしいんだけど。ていうかみんなこっちみんな！

「…だめ、ですか？」

ゆみなが涙目になって上目遣いで俺を見つめている。…これってゆみなにとって、そんなに重要なことなのかな？

だったら。

「いいよ、ゆみながそうしたいのなら」

「ほ、本当ですか!？」

ゆみなの顔が明るくなる。

「ありがとうございます、蓮君！」

『やりましたわね、ゆみな!』

『おめでとっ!』

スノウとクレナがゆみなと一緒にあって喜んでいる。ゆみな、本当に嬉しかったんだ…。

「でもさ、ゆみな。本当にこんなお願いでよかったの？」

「はい!だって、これからは蓮君と名前で呼び合えるんですから!」

…あ、だからか。そういえばそうだったね。

クレナも音姉も、あとここには来てないけど沙耶もそうだったわけ。
…あ、沙耶って音姉の妹のことね。詳しくはまた今度。

…なんていうか、すごく申し訳ないんだけどさ…、

「そんなことしなくても、別にいつでも名前でも呼んでくれてよかったのに」

「『…え？』」

…あ、やばい。まさかこれ、地雷だった？

「あ、れーん！！」

あ、この声は。

「遅いよ音姉。何やってたの？」

やっぱり音姉だ。たすかった、危うく地雷が爆発するところだった…。

「ごめんごめん。ちよつと新しいカードをデッキに入れてたら遅くなっちゃった」

「で、他のみんなは？」

「みんなは理央ちゃんたちと屋上だよ。早く行こ！」

そっか。じゃあ、急がないとね。

「わかった。それじゃあ…」

俺は席を立つ。そして…

「行こっか、ゆみな」

ゆみなに右手を差し出した。あの時、ゆみなと初めて会った日と同じように。

「はい。行きましょう、蓮君！」

そして、ゆみなは俺の手を取って席から立ちあがった。

s i d e ・ R e n
↓
? a r ? ? i
? ? k ? ? a ? ? k ?

軽くギャルゲーに近いことをしていた3人が屋上へ向かい、この空間に再びデュエリストたちのざわめきが聞こえ始める。そのデュエルスペースの1番奥、円形状のテーブルに俺たちは座っていた。8人用の丁度いい大きさのテーブルに空いている席は2つ。まあ、座る人はいないだろうが。

「…行つたようじゃの」

初めに口を開いたのは年老いた爺さん、ディアル（…悪いが名字の方は控えさせてくれ。恐らく重大なネタばらしに直結するだろうからな）。言つまでもなくここに座っている人の中では最年長だ。

ああ、ちよつと待て。この席になんで生徒じゃない人がいるのかつて質問、今はちよつと控えさせてくれ。

「ああ、行つたな。最重要かつ危険人物が」

「そうね。確か彼らは出来れば味方にしておきたいって言つてたかしら？」

続けて一組の男女が口を開いた。前者の茶髪黒眼の青年が睦月（悪いが名字の方は以下略）、後者の金髪碧眼の少女がエリス（ここから先以下略）。2人とも死後にこの世界に飛ばされてきた、いわば転生者。今このアカデミアではどちらも2年B組の生徒だ。

生前は夫婦だつたらしいが、ここにきてまでいちゃいちゃしなくてもいいだろ…。お前らの息子、いろんな意味で相当辛かったと思うぞ？

「危険人物、ですか？」

そう質問した少女の名は姫香。深緑色の髪に黄緑色の瞳をもつ彼女は、この中では最年少の14歳で、この学園に通っている兄とデュエルしたいという理由で俺たちの仲間になった。今は…中3だろうか？

「そうだ。異世界からこの世界に来た6人、特に空見蓮。さっきのギャルゲー主人公のことだな」

ここで俺が質問に答える。一応俺も自己紹介しとくか。俺は桜咲春樹。髪は茶色で眼の色は黄色寄りの黄緑。クラスは2-R。一応この中ではリーダーということになっている。ていうか姉さんにそうされた。

「で、私達その10人の名前全部もって把握してないんだけどね」

「ああ、悪い悪い。ちょっと待ってくれ…っと」

今苦情を言ったのが姉さんの桜咲遥。入学式の新入生歓迎デュエルでは2年生代表として蓮とデュエルした【龍皇】使いだ。ちなみに今は制服ではなくピンクと白を基調とした巫女服を着ている。これでも一応姉さんの私服だ。

とりあえず、俺はカバンから1枚のルーズリーフを取り出した。

モンスター（21）

ドラグニティ・ドウクス@3

ドラグニティ・レギオン@3
ドラグニティ・ファランクス@3
ドラグニティ・アキュリス@2
ドラグニティアームズ・ミスティル@1
ドラグニティアームズ・レヴァティン@1
ドラグニティアームズ・キャリバーン@1
BF - 精鋭のゼピュロス@1
BF - 疾風のゲイル@1
レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン@2
真紅眼の飛竜@1
エフェクト・ヴェーラー@1
魂を削る死霊@1

魔法（14）

竜の渓谷@3
テラ・フォーミング@3
未来融合 - フューチャーフュージョン@1
調和の宝札@1
死者蘇生@1
サイクロン@2
ハリケーン@1
ブラック・ホール@1
月の書@1

罫（5）

神の宣告@1
神の警告@1
魔宮の賄賂@1
激流葬@1
リビングデッドの呼び声@1

エクストラ(14+1)

F・G・D@1

ドラグニティナイト・ガジャルグ@1

ドラグニティナイト・ヴァジュランダ@3

氷結界の竜 ブリユーナク@1

ブラック・ローズ・ドラゴン@1

BF・アーマード・ウイング@1

スターダスト・ドラゴン@1

スクラップ・ドラゴン@1

ギガンテック・ファイター@1

ミスト・ウォーム@1

氷結界の竜 トリシューラ@1

トライデント・ドラギオン@1

(エラーカード@1)

サイド(15)

バトルフェーダー@1

ヒーローズルール2@2

聖なるあかり@2

禁止令@2

強制脱出装置@2

王宮の鉄壁@3

転生の予言@1

御前試合@2

…間違えた。こつちじゃない。

「ちょっと待て！それ重要な資料じゃねえのか！？」

俺がしまおうとすると睦月からツッコミが入った。

「そうなのか？」

「それ誰のデッキ？」

そして姉さんが俺に近づいてしまおうとした紙を見て言った。
…姉さん、顔近いって。

「いや、蓮のだけど？」

「『重要すぎる』『だろ／でしょ』『！？』『』『』」

…えー。

「そのデッキレシピ、場合によっては必要になると思うよ？蓮を説得できなかった時とか…」

あ、そういうことか。説明ありがとう、姉さん。

「姉さんなら大丈夫だろ。１度デュエルしてんだから初対面の奴に

入るよう言われるよりよっぽど楽だと思っぜ?」

「え、そう?...じゃあ、は、春樹がそういうなら、頑張るけど...」

姉さんが顔を赤くして俯きながら呟く。...よし、

計 画 通 り 。

「見事に丸めこんだな」(睦月)

「丸めこんだわね」(エリス)

「それでいいんですか...?」(姫香)

「うつせえよ!」(俺)

いいだろ別に! 姉さんを説得したの今回でやっと2桁行っただけか
らさあ!

「...お主ら。ここから先の計画は未だ手つかずじゃぞ」

「あ、そうだったな。さて、こっちが本当の危険人物リストなんだ
が...」

...悪いな。ここから先はさすがに読者であるお前らにも教えられね
え。俺たちの作戦を明かすわけにはいかないからな。

まあ、1つだけ言っとすれば…

俺たち「セブンスナイツ七天騎士団」の目的が、このアカデミアにあると思われる
「人間界と精霊界を繋ぐゲート」の破壊、ということぐらいか。

じゃあな。どうせまたすぐに会うことになるだろうけど。

t o b e c o n t i n u e d . . .

音羽「おまたせー！蓮とゆみなちゃん連れてきたよー！」

優姫「…おつかれ。そろそろ遊人とクロノのデュエルが始まる」

理央「遊人、負けんじやないわよー！」

遊人「ああ、サクツと決めてくるぜ！」

フィリア「お兄ちゃん、がんばれー！」

クロノ「わかつてるっての…」

拓斗「次回、遊戯王パラレルクロス「ヴァリアライクV S」。そろそろ本格始動

たいだね」

遊人「行くぜ、クロノ！」

クロノ「ああ。いつでも来い、遊人！」

「「デュエル！！」」

EX04「そんなデツキで大丈夫か？」（後書き）

零次「…なるほどな」

風斗「どうするよ？ 場合によつては…」

零次「介入する、だろ。賛成だ。どうせ授業終わったらいつも暇だしな」

風斗「決定だな。ポラリス！」

ポラリス「風斗、呼んだ？」

風斗「ちよつと頼みたいことがあるんだが、いいか？」

ポラリス「うん、まかせて！」

風斗「助かる。それじゃあ、…」

g o t o n e x t c h a p t e r . . .

*** 重大なお知らせ* (前書き)**

今回は台本形式、下書きなしのメインキャラ6 + 精霊3人でお送りします。

* 重大なお知らせ *

蓮「はい、どうも。空見蓮です。今回は特別編ということで、俺たち9人は今メタ世界にいます」

クレナ「ここっていつも作者がいる世界だよな？」

音羽「あれ、なんか知らない人増えてる!？」

輪廻「うお、マジだ!」

優姫「…《ブリザード・プリンセス》に《ダイガスタ・スフィアード》はわかるけど…?」

音羽「…誰?」

蓮／クレナ「…ですよー」

クレナ「私はクレナ・ヴァーミリオン。《レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン》の精霊だよ」

音羽／輪廻「…え、レダメの!？」

リース「あ、やっぱりそうなりますよね…」

スノウ「ええ、あの時は本当に驚きましたわ…」

拓斗「で、そろそろ本題に入った方がいいんじゃない?」

ゆみな「本題…?」

蓮「あ、そうだね。みんな、これは俺たちのことを異世界のとあるサイトで記録してるクレセントって人の活動報告に書いてあったことなんだけど…」

どうも、クレセントです。

ちょっと重要なことかもしれないので報告します。

セブンスナイツ編が始まる前に、一度大幅に改訂しようと思います。

クレナ『…え?それって、どういう…』

蓮「悪く言えば、俺たちの物語を改変するってこと」

音羽「ええ!?そ、それじゃあ…」

蓮「いや、ストーリーに変化はないって言ってたよ」

音羽「そっか。よかった…」

ゆみな「じゃあ、どこが変わるんですか?」

スノウ『「大幅に」改訂、と言いましたわね。一体どこが変わりますの?』

蓮「えーっと、たしか…そう。「1話当たりの文章量を多くする」ってさ。基本的に1デュエルを1話に詰め込むみたいだよ」

拓斗「なるほど。確かに今までののは短すぎたね」

リース「1話で終わったデュエル、1回だけでしたからね…」

優姫「…他には？」

蓮「それと「俺のデッキを【ドラグニティ】に統一」するって」

輪廻「ああ、そこか。確かに主人公が2つ以上のデッキを使うことを嫌う人は少ないからな」

蓮「後は、「第一章の間にメインキャラ10人全員にデュエルをさせる」ってところ」

優姫「…メインキャラ？」

クレナ「多分だけど、蓮・音羽ちゃん・ゆみなちゃん・優姫ちゃん・輪廻君・拓斗君の6人…あれ、4人足りない？」

スノウ「雪風理央・望月フィリア・望月クロノ・桜井遊人。これでちょうど10人ですわ」

蓮「そう。ちなみに、クレセントは「輪廻と優姫の夫婦喧嘩は確定でw」って言ってたよ」

輪廻「ちょ、ふ、夫婦喧嘩って…／／／」

優姫「…私たちまだ未成年なのに／＼」

スノウ『そこですよ！？突っ込みどころかボケ倒してますわよ！？』

拓斗「…これだから許嫁持ちは」

リーズ『…たーくーとー』

拓斗「ん？…え、ちよつと待ってリーズ？なんで杖なんか出して…！？」

リーズ『私を、拓斗の”いいなずけ”にして？』

拓斗「目に光が灯ってないよリーズ！？そしてそのセリフは杖を構えながら言うセリフじゃないよ！」

蓮「…ほつとこ。あと、最後の1行には「立ち絵の追加（仮）」って書いてあるね。仮ってことはまだ確定じゃないのかな」

音羽「それで最後？」

蓮「うん。苦情は俺じゃなくてクレセントに言ってね？」

音羽「私は大丈夫だよ！みんなは？」

ゆみな「私も大丈夫です」

スノウ『わたくしも特に問題ありませんわ』

クレナ『それじゃ、全会一致でいいね!』

蓮「よし。それじゃ、クレセントに報告してくるよ」

音羽／ゆみな／クレナ「」「『行つてらっしゃーい!』」「『

蓮「…こっちはOKだったよ」

クレセント「本当か!?」

蓮「うん」

クレセント「助かるぜ…!」

蓮「後は…「他のクレセント」たちだっけ?」

クレセント「ああ。あいつらを説得しないと話にならないからな…」

蓮「そっか。それじゃ、健闘を祈りますか」

クレセント「…それじゃ、逝ってくるZ E」

蓮「あはは…。くれぐれも、死なないように。《クレセント》パラレルクロス》…!」

HE
DUELIST TRIPPER . . . !
GO TO THE 1st Generation
T

最終報告

どうも、クレセントです。

ここに投稿するのはこれで最後になります。

というのも、タイトルを「遊戯王パレルクロス」改め

「Parallel Cross - 遊戯王EXA -」

に改題し、新しいページで執筆することに決めたからです。

このページは一応残しておきます。もしかしたら戻ってくることもあるかもしれませんが。

とりあえず、字数が足りません。何を話せばいいんでしょうか。

…ありませんでした。

最後に。

およそ2カ月、この小説「遊戯王パレルクロス」を読んでもいただき、誠にありがとうございました。

そして、よろしければこの小説の移転先「Parallel Cross - 遊戯王EXA -」の方もよろしくお願いいたします。

それでは、また。クレセントでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1340s/>

遊戯王パラレルクロス

2011年10月8日23時24分発行